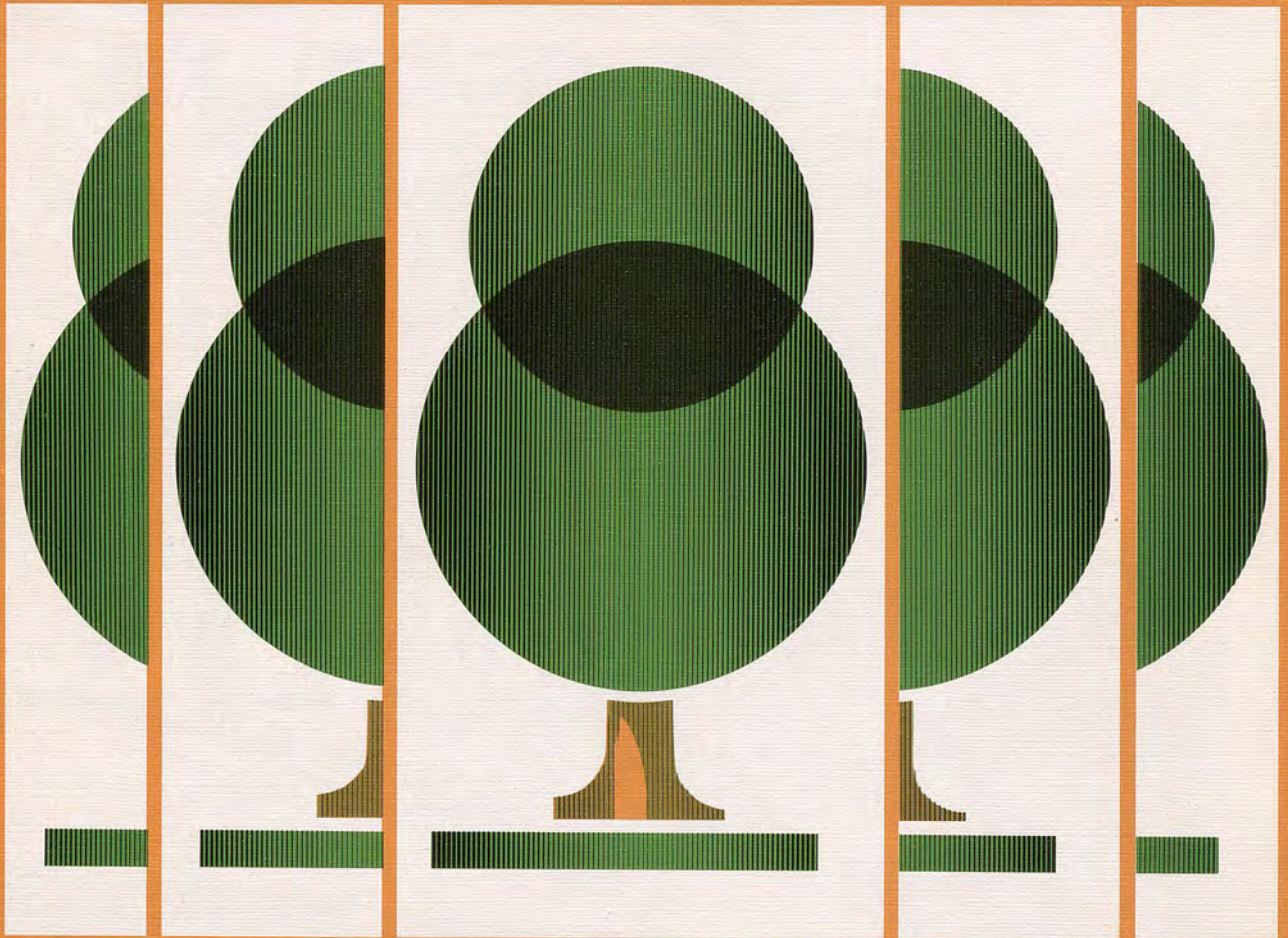


淀江

DENKO



1980

大阪経済大学同窓会

特集 同窓会の歴史を訪ねて 2~7

澁江'80の発行にあたって(世良会長) 6

学園の展望(玉置学長) 23

同窓会本部だより 予算も大型化 8~9

支部の活動 各支部総会だより 10~21

集まっています

昭八会/79 九期生会/71 一三會/73

15回生/74 千鳥会/72 12~15回生合同同窓会/76

学園の近況 学費改訂—教育・研究の質的充実へ 22~27

55年度就職懇談会開かれる/28

恩師を囲んで ゼミ短信 34~39

お世話になりました/64

偲び草 信垣直一先生/61 菊田太郎先生/62 藤田理事長ご令閨/63

澁江カルチャー

文化と政治…山本晴義/52 不生不滅…北里武三/55

ロンドンの印象…松村幸一/56 喚ぶ声満つ…松本剛/56

アルト・ハイデルベルク…倉辻平治/57

随想・ひろば

レクイエム “マメヒー”(谷徳島支部長の追想)/14 母校の発展に思いを

はせて/16 高知から北陸へ/20 心に残る一つの同窓会総会/40

母校を思う心/46 心で駆けるグラウンド/49 思い出話(大坪)/50

黒正イズムと私(続)/58 思い出の記(鹿島)/66 飛鳥と明日香/66

亡き鈴木君と柔道部歌の思い出/67 いかが?海外との合弁大学/69

広島東洋カープに思う/80

北から南から 70~84

頑張っています 経大キャンパス 45~51

コミュニティ広場

学歌制定の由来/30 『澁江』との十五年/33 新刊紹介/64

新同窓会名簿の予約申込みについて/32

散歩道

鹿児島(観光めぐり)/82

味めぐり・山中荘/75 ハイネケン/75 多可ら亭/78 つくしんぼ/81

総会で逢いましょう!!

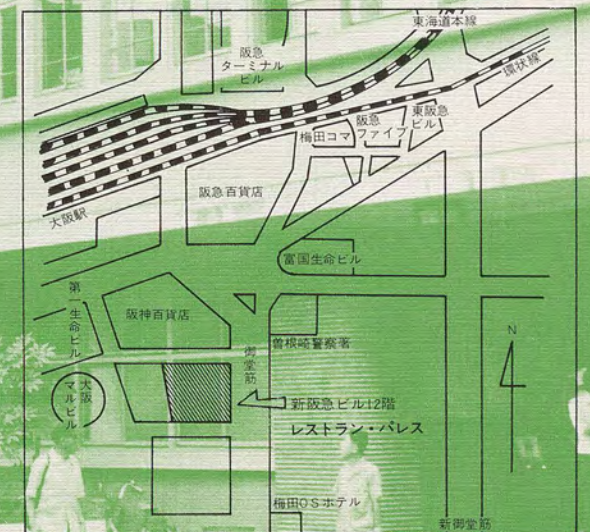
お誘いあわせのうえ 楽しくやりましょう

とき 昭和55年11月3日(文化の日)

ところ レストラン・パレス

(大阪梅田 新阪急ビル12F)

11:00~14:00



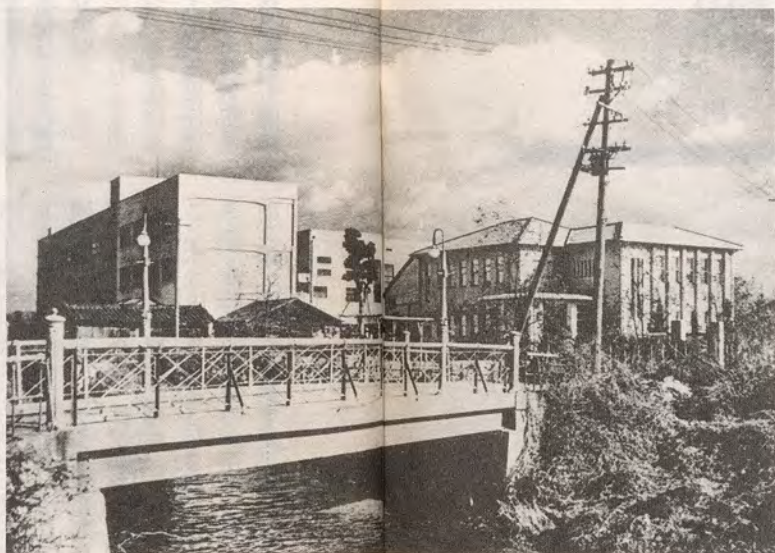
組織の発足は昭和22年

「忘却とは忘れ去ることなり」といいますが、今回は、この忘却の彼方から諸先生がたの古い記憶を引き出していただきながら、胎動期の同窓会の歴史を訪ねてみました。

同窓会が結成されたのは、いつごろのことでしょうか。

同窓会が結成されたのはかなり古く、たぶん、昭和十一、二年のころだったと思います。それを正確に調査しようとするなら、方法は一つあります。

当時、学園会計は梅田先生が、そして、同窓会会計は浅沼(当時は原)先生が担当しておられたので、現在でも、経理部が、地下倉庫の中に、当時の古い帳簿が保存されているはずで、それによって同窓会費がい



歴史を訪ねて

同窓会の

では、現在のような組織はいつごろできたのでしょうか。

現在の同窓会が正式に発足したのは、やはり戦後、それも、昭和二十二年とみるのが正しいでしょう。この時も、同窓会会長は黒正校長であったことは事実です。補佐役として、大北文次郎、中村清次郎両先生がおられ、われわれ三人は、その使い走り役を引き受けていたというのが実情です。

したがって前にもいったように、当時の同窓会は組織らしい組織もなく、ただ市原卓爾氏が黒正会長のものと、理事長という名でおられました。市原氏がどうして理事長に就任

つごころから徴収されていたかを調査すれば、より明確になると思います。

〔注一〕この会話後、経理部保管の古い帳簿を、大学側のご好意により拝借いたしました。なにぶん、時間的な制約もあり、まだ発表できる段階にはいたっておりません。〕

同窓会の組織は、いつ、だれによって作られたのでしょうか。

これは前記の結成と関連がありますが、初代の会長は黒正校長であったことには間違いはありません。会長補佐役として、当時、米津次郎、中村清次郎、大北文次郎先生がおられたと思います。そして、第一回卒の市原卓爾氏(当時、同窓会における名称は、理事長であったかどうかは、不詳ですが…)に、よくご馳走になったことを覚えております。

それも、年次的には明確にいえませんが、い、ちど、市原氏に事情をきいてみてはいかがですか。(注一)

比企君(ア)が参加したという「昭和十六年四月、心齋橋南詰の森永喫茶店二階での紅茶(ビールでなく…)とショートケーキによる、黒正先生を中心とした会合」には、われわれは一人も参加していないので、なんともいえませんが、同窓会といえるかどうかは別として、それでも同窓水泳部が練習をしたという懐かしい小川も見られる…

頼して歩きました。現在、事務局所蔵の『大阪経済専門学校第七回卒業生名簿』が、これを証明してくれるでしょう。

名簿作成年月日は昭和二十二年一月十五日で、「本名簿作成費として金五円也母校内同窓会へ御送金下さい。大阪経済専門学校 同窓会」となっていること。また、前にいった『同窓会報』第一号の中に「昨年各回毎に謄写版すりにして御送りしましたが、まだまだ不完全ですから、住所、勤務先など変更の場合には必ず本部宛御連絡下さい。本年度も作成する予定です」とあることから、明らかに同窓会の再建は昭和二十二年ごろだといえます。

このように、黒正校長を会長とする同窓会の組織づくりは、敗戦の混乱期の昭和二十二年、すでに胎動していたといえるでしょう。

このような経緯を経て、昭和二十四年八月二十日午後五時から、難波南街ビル三階で開催された同窓会理事会で決議された組織、すなわち、市原卓爾理事長の東京転勤を一つの契機として、下図のように組織されたものが同窓会本部としての組織の嚆矢であり、これによって本当の基礎体制が確立されたといえるでしょう。

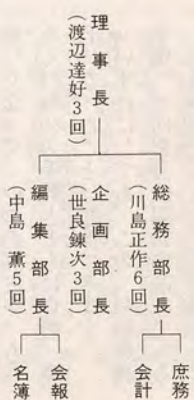
会の前史の一つといえるでしょう。(注二)

その当時は、黒正校長が中心的存在であり、同窓会らしい組織的なものはなにもなかったと思います。当時、同窓会の仕事といえば、年一回の同窓会総会を行うだけで、ほかにはこれといった仕事もなかったから、いわゆる組織を必要としなかったともいえるでしょう。

すなわち、市原氏が理事長であったとしても、それは名目的なもので、実際の業務はほとんど黒正先生の命により先生方が実務を担当しておったといっても過言ではないと思います。

〔注一〕市原卓爾氏に本件について問い合わせをしておりますが、ご病気のためを以て、手紙によるご返信を待っている次第です。〕

〔注二〕「昭和商論叢第一輯」として、昭和十六年十二月に「昭和高等商業学校創立十周年記念論文集」が発行されており、その編輯後記に「本校に於ては創立十周年記念事業としては、時局柄記念祭その他の行事を一切中止して本論文集の刊行のみとしたのであるが、本校同窓会が深甚なる援助を寄せられた」と記載されており、すでに同窓会の活躍が紹介されております。したがって、先生方のご記憶が薄れているということは、「同窓会」は存在したものの、行事的団体の域から出ない状態にあったのではないかと推測できます。〕



同窓会の名簿はどのような歴史を持つているのでしょうか。

戦前は、名簿というものがあつたという記憶はありません。正式に名簿といえるのは、前にいったように、昭和二十二年、黒正校長の命により、まず、各回ごとにでもよいかから同窓生の現況を把握し、「融和」のシンボルのもとに結集しようという意図で作成された各回別謄写版すりが最初の名簿であるといえるでしょう。

一冊の代金が金五円也という名簿が、名簿の第一冊目です。『大阪経専・同窓会報』第一号の「同窓会の近況」(C)、会員名簿、のところに「昨年各回毎に謄写版すりにして御送りしましたが、…」と明記されています。で、間違いないと思います。ただ、「…本年度も作成する予定です。」とありますが、謄写版すりは、記憶違いかもしれませんが、一回だけだったと記憶しています。われわれが謄写版すりの校正に行ったという記憶

は一回しかないからです。(注3)

次に、『大阪経済大学・同窓会報』第三号がないので正確にはいえませんが、「各回別」の次に名簿が発行されたのは昭和二十六年だと記憶しております。

それは、旧澱江の第四号、昭和二十七年発行の「会告」のところに「卒業生名簿あります。昨年発行しました名簿はまだ少し残っていますから、未購入の方は至急百円小為替同封の上本部迄御請求下さい」と記載されていることから、明らかに昭和二十六年だと思えます。(注4)

ところが、旧澱江の第六号(昭和三十年発行)の中に、「大阪・一一一九八八、大阪経済大学」という、通常払込料金加入者負担の郵便払込票が挿入してあり、その通信欄に、「名簿代金未払の方は是非御送金の程を御願ひします」とあって、表の金額欄には¥一五〇・〇〇、すなわち、金百五十円と印刷されているのです。このあたりの事情は、その名簿そのものが出てこない限り、同一物なのか、また、別にそういうものが発行されていたのか、あまりにも古く、また、母校の大学昇格に伴い学内の混乱期でもあったので、記憶もさだかではなく、残念ながら明確

にお答えできません。(注5)

諸君らが「SK」とかで連日連夜努力して作成された昭和三十八年版以降のことについては、ご存知の通りです。(注6)

昭和二十四年以降については『同窓会報』、または『澱江』(旧澱江)が示す通りですし、さらに、現在同窓会で活躍の各位が、いちど一堂に会して話し合われれば、正確に歴史的名簿が探究でき、記録として完全に残すことができるのではないのでしょうか。われわれもそれを望む者の一員であることを申しあげたいと思えます。

『昭和 high 商学報』が機関誌の前身

同窓会機関誌『澱江』はどのような歴史を持っているのでしょうか。『澱江』については、すでにふれてきた『大阪経済大学・同窓会報』第一号が、同窓会機関誌の前身を代表するものであるといえるでしょうが、同誌の編集後記に「かつて発刊されていた『同窓会誌』は、戦争のあらしにいつしか押し流され、年を経ることすでに十年」と記されており、さらに前史的なものが存在していたことが推定されます。

『澱江』は、昭和三十年で休刊となったわけですが、このように考えると、『澱江』は『昭和 high 商学報』に始まり、戦争による中断があつて、『大阪経済大学・同窓会報』第一号、『大阪経済大学・同窓会報』第二号、第三号、旧『澱江』第四、五、六、七号という前史を持つていたということになります。

そして、中村清次郎先生が、大阪タイカー印刷に関係されるようになって、もういちど、宇野善四郎君が編集部長になり、大阪タイカー印刷株式会社の中に『澱江』編集室が設置されて、昭和四十年七月に再発行されたのが、現在の『澱江』の第一号に相当するものだと思います。その後は、現在まで毎年一回、十六

〔注3〕この昭和二十二年から二十三年にかけて作成された謄写版すりの各回別名簿は、確かに出版されていますので、現在お手持ちの方は、ぜひ本部にお貸し下さい。史料としてゼロックスして保管したいと思えます。〕

〔注4〕『大阪経済大学・同窓会報』3号と、この頃の名簿をお手持ちの方はぜひともお貸し下さい。〕

〔注5〕このあたりの事情をご存知の方はお知らせ下さい。〕

〔注6〕このようにいろいろ調べてみると、昭和二十二年、二十三年ごろの正確な記録と、古い同窓生の記憶を累積すれば、今われわれが論議している同窓会の胎動期が明白になるとは思います。古い卒業生の皆さん、この空白部分を埋めるためにご協力をお願いします。〕

しかし、ここでいっている『同窓会誌』は、たぶん、『昭和 high 商学報』のことだと思います。ただ、『大阪経済大学・同窓会報』第一号を編集されたのが、当時の編集部長中島君で、彼が五回の卒業生ということからして「すでに十年」ということがいわれたのでしょう。この『昭和 high 商学報』(それは時代の流れとともに名称を変えていったと思いますが)の昭和十五年十一月二十五日(月曜日)発行を参考にしますと、次のよ

回卒の松本義和君の努力で定期的に発行されて、十五号まで継続されていることは皆さんご存知の通りです。したがって、『昭和 high 商学報』と『大阪経済大学・同窓会報』第三号

“はえば立て、立てば歩め”で自立

同窓会ホールの歴史についてご存知のことがあれば、お教え下さい。年月はさだかではないが、たぶん、昭和十二年ごろに現在のB館用務員室の隣の一室をベニヤ板で囲いをして、ソファその他を置いたのが、おそらく同窓会として独立の部屋を持つた最初でしょう。

しかし、それも時代の波に流されて、いつしかクラブの部屋に変わつたため、正確には、いつ設置されて、いつ廃止されたかは明確ではありません。これも一つの前史的なものといえるでしょう。

正式に同窓会ホールというものが設置されたのは昭和二十四年四月に大阪市東区北浜、野村ビル五階「如水会」を大阪経済同窓会ホールとして毎月第一土曜日、午後一時から五時までを、使用することを許されたのが最初のホールでしょう。大北

うなことが浮かびあがってきます。

この十一月二十五日版は第三十三号にあたり、編集・発行・印刷人、原(現、浅沼玄恵、発行所、大阪市東淀川区大隅通七九、昭和高等商業学校新聞部、印刷所、大阪帳簿製造所、毎月一回、二十五日発行、「定価五銭」という事実です。

これには学内のことはもちろん、同窓会(卒業生)のことも記載されていた記憶があります。これを基準に逆算しても、いつごろから発行され、いつごろ廃刊になったかは明確におぼえておりません。ただ、浅沼先生が『学報』の編集長になって五回の和田稔、伊吹義雄、中島薫君をはじめ、六回の松井勉君などと苦労しながら発行した記憶がありますから、そのあたりが『学報』の発行期ではないかと思えます。(注7)

この『学報』も段々と検閲がやましくなつて、文部省、大阪府庁から、ときどき文句をいわれたことを覚えております。おい、おい戦争が激しくなつて、いつの間にか、もちろん材料の入手難とともに自然、廃刊になったことは想像できます。

いずれにしても、この『昭和 high 商学報』が同窓会機関誌の前身であることは事実でしょう。その編集をし

ていた五回の中島君が(当時、大井証券に勤務していた)、『大阪経済大学・同窓会報』第一号から旧『澱江』第五号まで、三カ年にわたつて編集してくれたことは、現在残っている冊子からも理解できます。

旧『澱江』第六号、第七号の編集部長は一回の宇野善四郎君になっていますが、われわれの記憶では原稿は編集部が集めたのではなく、大北先生、藤原先生が、ある時は浅沼先生が執筆依頼されるなど、奔走して集められた原稿を、ただ編集部が編集した、というのが実情だったと記憶しています。

ところが、中島君、比企君が大阪からいなくなつて(転勤その他で)から、編集の中心人物を失つた旧『澱江』は、昭和三十年で休刊となったわけですが、このように考えると、『澱江』は『昭和 high 商学報』に始まり、戦争による中断があつて、『大阪経済大学・同窓会報』第一号、『大阪経済大学・同窓会報』第二号、第三号、旧『澱江』第四、五、六、七号という前史を持つていたということになります。

そして、中村清次郎先生が、大阪タイカー印刷に関係されるようになって、もういちど、宇野善四郎君が編集部長になり、大阪タイカー印刷株式会社の中に『澱江』編集室が設置されて、昭和四十年七月に再発行されたのが、現在の『澱江』の第一号に相当するものだと思います。その後は、現在まで毎年一回、十六

しかし、それもいつしか消え去り、昭和三十七年に母校本館建設に際し、同窓生各位の募金による浄財五百万円をいただいて、本館の四階の一室を同窓会ホールと同窓会事務室に提供したのは、もう皆さんのご存知の通りで、あれが本格的な自立した同窓会ホールといえるでしょう。





では、一体いつごろからわれわれの同窓会は自立したのでしょうか。

それは正確にいつということはいえませんが、前史は別として、最初は大戦後の混乱期でもあり、日本の国民が、その日その日をなんとか生き延びることに精一杯だった時でもあり、また、現在、同窓会で活躍の皆さんは、それぞれの会社の要職にあつて、ご多忙の日々を過ごしておられた時でもあつたと思います。

そこで、黒正先生から大北先生へと、同窓会育成のご意志が引き継がれ、われわれはいわゆるままに使い走り、走り回ったというだけです。そして、皆さんと接している間に、いつの間にか、大北、奥村両先生をはじめわれわれが同窓会の中に学校側常任理事とか、理事というメンバーに加えていただいていたというこ

とです。

したがって、いつごろからというのではなく、世の中が落ち着き、現在の同窓会の主要メンバーの方々に余力ができてきて、自立できるようになったから、自然に自立されたのであつて、同窓会から、もうここでわれわれは自立できますとか、学校

側から、いかげんに自立してはどうか、そのような水くさい話ではありません。

今日の同窓会があるのは、それはやはり同窓会自身の努力のたまものだと思います。もちろん、それまでには、今までいったように、黒正校長、大北先生、中村先生、建林先生、河野先生、米津先生をはじめ、当時の諸先生方を中心に奥村先生やわれわれが微力なりにご協力申しあげ、大げさにいえば、自立の手助けをしたことは否定しません。「はえば立て、立てば歩めの親心」……まさにその通りの心境だったと、思います。

このようにして自立、成長した同窓会であるし、本部の中心の人たちも、もう五、六十歳を超えておられるのだから、こんどは、学校の発展のために大いに協力していただき

同窓会会長 世良錬次

りに、それぞれの国内オリンピック委員会委員の略語を表示し、国旗のかわりに、国内オリンピック協会旗が陸続と行進してゆく……。私には、平

澱江'80の発行にあたって

七月十九日午後四時（モスクワ時間）、第22回オリンピック・モスクワ大会の開会式がレーニン記念中央スタジアムで幕をあげ、十万人の大観

和の美しさをうたい合う祭典が、一見して政治介入の祭典のように受けとれた。そして、地球上に本場の平和をもたらしことの難しさを、つくづく感じさせられた入場式風景でもあつた。このオリンピック開会式が示すように、現在、国際情勢は大いにゆれ動いており、それは、政治面だけではなく、経済面においても例外ではない、と思います。

このような国際情勢下におけるわが国は、国の内外を問わず困難な諸要因を内包していることは皆さんもご存知の通りです。無資源国である日本は、ただ、欧米に比しての低賃金と、勤勉さなどの諸要因に幸いされ、加工国として、また、自称極東での経済大国として、今後の行方がおおげさにいえば、世界中から注目されているといえるでしょう。この八〇年代は、大変な八〇年代になるであろうということは、大体想像できると思います。



さて、三万六千余名の同窓生の皆さん。このように混迷が続いている情勢下ではありますが、お元気で各方面にご活躍のこととおよろこび申しあげます。一年に一回、母校ならびに同窓会と皆様を結ぶ一つの絆である機関誌「澱江八〇」をお送りすることができましたことを、ともに喜びたいと思います。

本号より「澱江特別編集委員会」という、プロジェクト・チームを構成して、装いも新たに、内容もゆたかにと努力いたしました。この新しい「澱江八〇」の中から、母校の、また、各地の同窓生のいろいろな生き方を、ほのかな香りを、皆様なりにかきわけ、味わっていただければと思います。「澱江八〇」が実質賃金低下という管理価格漬けの、われわれの厳しい日常生活の中へ、少しでもなごやかな風を吹き込むお役にた

ばとお願いいたします。在学中に母校で経済諸学を、また、経営諸学を学んだわれわれは、このあたりで、いわゆる第三の経済学の出現を待つまでもなく、もう一度、原点にかえて、「需要供給の原則（原理）」を再認識してみる必要があるのではないのでしょうか。また、わ

れわれ一人一人が同窓の絆をもっと強く自覚し、日本で生まれ、日本の土に化すという連帯感を持って、浮草のような思考を超え日本独自の経済観を、今こそ再認識するときではないでしょうか。

同窓生の皆さん、八〇年代はまだ何が起るか未知数です。しかし、わが大阪経済大学が存在している限り、同じ学舎に学んだということは事実なのです。それを自負し、心の糧として、大いに健康に留意しながらがんばりましょう。

そのためにも、十一月三日（文化の日）、全国の同窓生の集いである年一度の同窓会総会（大阪・梅田・新阪急ビル十二階、レストラン・パレスで開催）にご参加下さい。また、各地方支部で行われる同窓会支部総会にもふるってご参加下さい。そして、母校のより一層の発展のために「融和」の精神をもって結集しようではありませんか！

最後に、装いを新たにした「澱江八〇」の発行にあたりご尽力いただいた母校関係者の方々をはじめ、原稿をお寄せいただきました皆さん、特別編集委員の方々に対し心から敬意と感謝の意を表します。

55年度予算案など可決（理事会）

服部ご夫妻、中島総監督に感謝状（総会）

〔理事会〕

◇昭和五十五年六月二十八日（土）
◇議案

第一号議案

昭和54年度決算について

第二号議案

昭和55年度予算案について

第三号議案

その他

司会 比企事務局長

定刻、司会者より開会宣言

世良会長より挨拶。ただちに議案

審議に入る。

第一号議案

平尾会計副部長（28）より昭和五

十四年度収支決算について説明

山上監事（2）より監査報告

第二号議案

小松総務部長（14）より昭和55年

度予算案について説明

これにより第一号議案、第二号議

案とも満場一致で可決

第三号議案その他として、比企事

務局長からレコード売上状況の説明

販売協力要請があった

なお、出席の各支部長より理事各

位に次の順次に従って、現況報告が

あった。三重、福井、姫路、広島、

東海、岐阜代、西宮代、丹有、

54年度総会

若い卒業生の力とアイデア結集

昨年に引き続き、今年も九月から総

準備にと若い同窓生のエネルギーと

アイディアを結集いたしました。

師を囲んで、新旧卒業生が取り巻き、そこには重役もなく、紅顔の学生に若返った顔・顔。時間のたつのも忘れて談笑の渦を巻きちらしてしまし

た。やがてグリークラブのリードで逍遙歌斉唱、パーティー委員水納氏（25）のあいさつで幕はおろされ、蛍の光の歌声に送られて閉会となり

ました。お元気で！ また会いましょう！ 余韻を残しながら、記念の枡を大事そうに胸にかかえて、三々五々散会していきましました。（クラブ参照）

昭和54年度収支決算書

自昭和54年4月1日～至昭和55年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	決 算 額	予 算 額	科 目	決 算 額	予 算 額
前期繰越金	2,770,882	2,770,882	総 会 費	3,788,702	2,700,000
会費収入	18,393,000	18,000,000	役 員 会 費	898,925	1,100,000
總會収入	379,500	300,000	支 部 費	1,740,000	2,000,000
利息収入	430,928	100,000	事 務 費	723,755	600,000
名簿収入	24,000	0	人 件 費	3,217,580	2,840,000
雑 収 入	397,140	0	旅 費 交 通 費	1,341,720	1,700,000
特別基金よりの収入	0	1,000,000	濼 江 編 集 費	2,923,730	3,300,000
			名 簿 追 跡 調 査 費	713,990	1,000,000
			学 簿 追 跡 調 査 費	2,200,000	2,000,000
			濼 江 奨 学 金	0	1,000,000
			慶 弔 費	138,760	300,000
			50周年記念積立金	1,000,000	1,000,000
			特別基金引当金	1,624	0
			予 備 費	(1,790,037)	2,630,882
			次 期 繰 越 金	3,706,664	0
合 計	22,395,450	22,170,882	合 計	22,395,450	22,170,882

昭和55年度収支予算表

自昭和55年4月1日～至昭和56年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算 額	摘 要	科 目	予 算 額	摘 要
前期繰越金	3,706,664		総 会 費	4,000,000	
会費収入	30,000,000		役 員 会 費	1,100,000	理事会・常任理事会・各支部
總會収入	300,000	普通預金利息	支 部 費	3,000,000	運営費、支部總會援助
利息収入	400,000		事 務 費	600,000	事務局人件費
			人 件 費	5,000,000	
			旅 費 交 通 費	1,700,000	
			濼 江 編 集 費	6,500,000	
			名 簿 追 跡 調 査 費	1,000,000	大学祭・クラブ活動援助
			学 簿 追 跡 調 査 費	2,500,000	
			慶 弔 費	500,000	
			50周年記念特別基金	1,000,000	
			名 簿 発 行 特 別 基 金	4,000,000	
			予 備 費	3,506,664	
合 計	34,406,664		合 計	34,406,664	

国際化時代の中小企業の理論と情報

中小企業季報

経済の国際化時代にふさわしい
今後の中小企業のあり方を示す
論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購読料¥1,500（〒とも）
バック・ナンバーあり（〒別）
1972年～1974年 1冊200円
1975年～1980年 1冊300円
お申込み先中小企業経営研究所

全国各地に広がり活躍する同窓生……。年々その数は増加の一途をたどり、とりまじめをする各支部活動も大変なところ、察せられませんが、各支部の近況は……。

支部の活動

大きく伸びる「絆」

東京支部

誰とでも冗談の言える 雰囲気支部にしたい

地震群発の関東より、東京支部の現況をご連絡いたします。

昭和54年度支部総会は、昨年十月十九日(金)開催されました。当初出席人数は、百名以上を見込んでおりましたが、あいにく台風二十号襲来というアクシデントに見舞われ、交通

機関が全面ストップし、開催も危ぶまれました。しかし、そのような悪条件下にもかかわらず、出席予定者の半数以上が参集され、無事総会を終了し、幹事一同安堵した次第であります。また、新幹線が大幅延着のため、上京を断念された門坂教授ならびに深夜ようやく到着された萩原・松本両氏には、大変ご苦勞をおかけ致しました。この誌上をかりて、あらためてお礼申し上げます。

さて、東京支部では四年ぶりに支部名簿を作成致しました。昭和五十四年十月現在の関東地方在住卒業生は、約六二〇名(ただし昭和五十四、

五十五年春卒業生を除く)と推定されますが、その内支部総会出欠返事を戴いた約二四〇名の皆様に、名簿を配付致しました。その後の卒業生を加えますと、関東地方在住卒業生総数は、七五〇名以上と推測されますが、どうすればもっと多数の方々に連絡できるのか、人の動きの激しい地区の幹事全員の悩みであります。転勤・転居等で関東地方へ移られた方々は、大阪本部への連絡と同様、是非「〇三二四八四二二八七三 鮫島」までご一報下さい。

昭和55年度にはいり、六月十三日東京支部幹事会が開催され、本年の



支部長 鮫島 圭

東海支部

オヤジさんから孫まで 同じ釜の飯の感覚で

東海支部はこの一年、静かだが、確かに息づいているという感じでした。関東から、関西から、名古屋へ来ましたからと連絡をいただいた方は二十人近くにもなっています。静岡県で高校教諭をしている同窓生は『激江』で東海支部の存在を知りました。仲間へ入れてくださいと便りをしてください。

同窓生の動きもよく耳に入ってくる。ある繊維問屋のセールスマンは、同業の既製部門の課長で、最近すごく実績を上げている強敵が現われた。大阪の経済大学を出た名古屋の人だそうなんです。富士屋産業(株)の井上武彦氏(昭四十年卒)だとすぐわかった。ある高校の体育教諭は、愛知陸連の副会長をしている人はあなたと同窓で、学生時代には長距離のレコードホルダーだったそうなんです。びっくりした顔で尋ねた。名古屋市長区長を昨年退職した翠忠明氏(昭四十八年卒)である。前支部長の岡田佐市氏は最近、名古屋の近郊瀬戸市で

行われた同業者の結婚式に招かれたが、仲人の紹介で新郎が経大卒だということがあった。「初めはテンプレラかと思ったが、なかなか賢そうな顔だったので、あるいはとも思いました。確かめたら上新庄の話もぼつちり、本物でしたわ。母校も大きくなりましたね。エッヘッヘ……」と例の笑顔である。

母校といえば、夏休み最中の八月一日、経大吹奏楽団と愛知大学吹奏楽団の定期合同演奏が名古屋市民会館で開かれた。五十人近い楽団員が、あの赤いオモチャの兵隊のような制服で舞台狭しと飛び回り、やんやの拍手を浴びた。

さて、年一回の東海支部総会は、昨年十二月八日市内中区錦三、テレビ塔西の「円庄」で行われた。同窓会本部から名誉会長渡辺達好氏、同窓会副会長磯野齊氏、同事務局長比企重氏。大学側から松原和男教授のご出席をいただき、支部員は大先輩の井戸田幸一氏(昭十年卒)から新卒者水谷達明氏(昭五十四年卒)まで、オヤジから孫までといった感じの三十二人が集まった。

司会者河盛富三氏(昭十八年卒)の名スピーチで始まった総会は、湯川晏尚氏(昭十六年卒)による閉会の言

京都支部

年一度の会合が楽しい ことは11月8日開催

葉までたっぷり三時間。なごやかで、同じ釜の飯を食べたという触れ合いを感じさせる楽しい会だった。かつて支部員に日本舞踊を教えられた元教授の中島三郎氏もお元氣な顔を見せ、オールボーイの円座の主役を果たされていた。

54年度京都支部総会は、例年通り五十四年十一月十日(土)岡崎の洛陽荘において開催されました。

本年度は、大学側から松尾先生のご臨席をたまわり、出席者二十六名が学校の近況を聞きながら、お互いになつかしく旧交をあたため、楽しい歓談の一夕を過ごしました。

毎年七百通以上の案内状を送っていますが、三十名たらずの出席に終わっています。

出席者の顔ぶれも毎年ご出席という人もあり、年一度の会合を楽しみにしておられる人もあり、その意味では楽しい会合になっていると思います。しかし、新しい方の出席をい

なお、総会の返信に名簿作成用の備考欄を設けたが、一〇〇部回収をめざして、ことしの総会通知状にも同様、備考欄を付記します。出欠に関係なく、支部員皆さんのご協力をいただきたいと思います。

支部長 加藤正秋

神戸支部

学園歌のBGMで歓談 新支部長に町田氏就任

一、支部総会開催のご報告

神戸支部総会は昭和五十五年一月十八日、午後六時より国鉄元町駅前「金閣」において盛大に開催いたしました。

当日は同窓会本部より萩原常任理事、比企事務局長、大学より藤原教授、内田経理部長のご臨席を賜り、



ゴルフを楽しむ高知支部

が、硬式野球部が念願の関西六大学入りを果たした嬉しいニュース、学歌などを集録したレコードの出来たことなど、脈々とした息吹を感じますが、反面、なんでも反対式反体制分子の動きのあることが心配です。高知ではこれから猛暑の夏をむかえます。高知城を見上げる追手筋には黒々と広がる大樟の並木が続きますが、；諸汗にしっかりと植えた融和のシンボル 繁れ自由の花咲く学園；の学歌の一節を思い出します。(幹事 記)

北陸三支部

大役引き受けた世話人 初会合にてんやわんや

本年四月に母校就職部の井手口課長、蝦名主任が来られて、同窓会本部のご協力のもと、六、七月頃に北陸で就職懇談会を開催したいと思っ

合い、学校時代のことなど尽きることなく話し合ったものだ。マメヒー一杯で、何時間ネバったことか。そこで、二人の間で出たのが「せっかくお互いに生き残ったのだから、徳島県で生き残りの同窓生を探して、一緒にマメヒーでも飲もう」ということであった。そして二人は、その日からコソコソと徳島県在住の生存者の名簿の作成を始めた。

私が本社から交際費を引き出して、彼と二人で眉山荘(当時、徳島で一流の料理旅館であった)で夕食をもにしながら、集めた資料を中心に一夕を楽しく過ごしたのは、その年も押し迫ってからであり、これが「徳島県支部」の発足の序曲であった。その時、彼が「先輩、これでやっと来夏頃に支部が発足できそうなので、ぜひとも来て下さいよ(彼はこの世を去るまで、私のことを先輩という代名詞で呼んでくれた)。この敗戦の混乱の中で、神戸支部に続いて徳島支部を発足させることのできる見通しがついた。

翌昭和二十四年八月八日、母校より大北、藤原両先生のご来臨のもと、二人で調査した二十八名中十四名が出席して徳島支部の発会式が挙行されたのである。この過程には、谷君

昭和二十四年三月に発刊された『大阪経専同窓会報』第一号にさきかけること約半年、すなわち、昭和二十三年盛夏の頃、私は会社の命により四国・瀬戸内側の牟岐、宇和島間を対ソ貿易の関係で、日に夜をついで東奔西走していた。

その頃のある日、今日は徳島でゆつくりと骨休めをしようよと、まだ日は高かったが、徳島銀座を会社指定の宿舎に疲れた体を運んでいた。当時の徳島は、もちろん今日の面影はなく、一面の焼け野が原の中、バラックがあらちこちに密集しているが半無人のコンクリート建ての残骸がみられるだけで、人通りとほとんどない状態であったことは、爆撃を受けた地方都市ではどこでも見られる風景であった。ちよと、その銀座の中ほどにさしかかったとき、「先輩と違いますか?」と声をかけられた。

と見ると、暑い盛夏に国民服をきつちりと身につけたスマートな青年であった。私は一瞬とまどった。な

谷徳島支部長の霊前に捧ぐ

レクイエム「マメヒー」

比企重



ありし日の谷徳島支部長

のなみなみならぬ努力があったことはいままでもないことである。

爾来三十有余年、徳島支部長として(初代名目支部長は五回卒の内田庄蔵氏であるが)母校のため、同窓会のために多大の功績を残してきたことは、同窓会報、旧瀬江、現瀬江に紹介されているところである。特に、地元の阿波踊りには母校のPRのために経大連を結成して氣勢をあげたが、彼が努力して作成した経大連の第二回目の浴衣は、あまりの人氣に彼の手もとにかえらなかつた。晩年、彼が職をかえて、会社の仕事を関係上、大阪に、名古屋にと住地を移動していても、彼は徳島支部への情熱を失わず、ある時は盛大にある時はささやかに支部総会開催への意欲を燃やし続けていたことに對し、心から敬意を表する。

また彼が、同窓会総会と、同窓会理事會に欠席したことがないというところにも、彼の性格の一端がうか

がえる。それほど彼は、母校と同窓会への純粋な情熱を燃やしていたものの一人であった。

彼が大阪に來れば必ずといってよいほど連絡をとって(私は飲まないけれども)、兎我野町で、西中島で、はたまた十三で、私が徳島へ行けば、駅前で、銀座で、はたまた××でと飲み歩いた。彼の酒量がだんだん減ってくるのに気がついて、

「お互いに年やから、身体は大切にしろよ……」

といったのも、今はみみずのたわごとになってしまった。

このように元気で、正義感、責任感が強く、母校、同窓会のために尽力した谷君が、私が心不全という老人病で倒れ、一昨年の同窓会総会(昭和五十三年十一月三日)の記録を病床でみたとき、徳島支部長 谷俊一郎(⊗)とあった。何か不吉な予感がしたので、直ちにはがきを出したら、彼から「……あと一カ月もすれば外出も可能と思われます。必ず、ご連絡申しあげますので……」と、徳島の日比野病院五三号室からの返信をいただいた。私も療養中であつたので、忠告をかねた見舞状を出したが、これが彼との最後の交信になろうとは夢想だにしなかつた。

三十有余年、二年後輩の学友、そしてともに苦労してつくりあげた徳島支部の改新工作を半ばにして逝った彼を思うと、病というものの恐ろしさを痛感するとともに、徳島支部長と同窓会事務局長ということではなく、三十有年来の友を失つたことは、私にとって、出会いが会いであり、支部の育成に苦楽をともにし、彼の情熱を膚で感じていただけに別れ難い心で一杯であるが、「会者定離」やむを得ないと、今は彼の冥福を心から祈るのみである。

同窓会本部としては、彼の生前の功に対し、昨年(昭和五十四年十一月三日)の同窓会総会の式典の席において銀盃を贈り、ささやかながら感謝の意を表したことを付言し、谷俊一郎君の安らかな永遠の眠りを祈るのみである。

(付記) 徳島県在住の同窓生の皆さん、この故支部長の意志をついで、徳島支部を再建して下さい。心からお願ひいたします。なお、故人の努力により新調された経大連の浴衣は現在、故人の奥様、谷幾代様が次期支部長が決定するまで保管しておくとのご厚志をいただいております。徳島の皆さん、故支部長の霊をなぐさめるためにも、徳島支部の再建に努力して下さい。同窓会事務局)

ようとする三支部合同同窓会は母校と各支部長との調整も終わり、七月十三日(日)と決定していた。

さて、その希望の三支部総会開催の日がきた。朝から私はもちろん、内田福井支部長、石地石川支部長、重松富山支部長をはじめ吉田福井支部事務局長、小泉富山支部事務局長を含めた世話人は、こんなことははじめてでありわくわく、てんやわんやである。十時頃からぼつぼつと出席者が集まってきた。そして十時半を

少しすぎた頃、玉置学長と同窓会本部を代表して磯野副会長と比企事務局長が受付に顔をだされた。

誇り高き支部総会始動

定刻がきた。一〇〇名を超す三支部の同窓生が、そして、演壇を中心に、向かって左側に北陸三支部長、右側に玉置学長、山本教授(理事長代理)、磯野副会長、母校の玉岡総務部長、比企同窓会事務局長、さらに

母校の発展に思いをはせて

福井支部長 内田 甫

最近では公民館、市民ホール、婦人青少年会館などで、若者から中高年齢者に及ぶ教養講座が各地において行われている。また、日々新聞紙上にはさまって、特技の養成、教養嗜好を中心とした通信講座等の広告が目をはびわっている。ということとはとりもなおさず、生涯学習に取り入って見たいと思ふ人が多いという実証ではないかと思われる。そこで、その教育には

わるものではなく、卒業後もたえずその人なりに自学自習の自己教育が必要なのは、昔も今も共通で、自己教育には終着駅のないことも古くから説かれている。いまや、日進月歩の激しい時代であるから、それだけに、各自の生活にわたって学習を続けなければついて行けなくなっている。コンピュータ、テレビ、自動車等の普及によって、人間はそんなに頭は使わなくても、日常生活にさ

ほど支障をきたさない世の中になっていることも事実である。しかしながら、人間の体や頭脳は、使わないと次第に鈍化していくことは衆人の容易に認めるところである。スポーツ等で身体をサビつかせないようにつとめ、いわゆる健康づくり運動も盛んとなるゆえんである。これと並行して、政治、芸能、宗教、哲学等、科学、技術や発明、開発といった専門的なものとは、別な分野での自己教育により、頭をサビつかせない努力と工夫を続けることが大切ではなからうか?

考えてみれば、大きな時代の流れに沿い、母校、大阪経済大学ならびにわが同窓会は、今や五十年近い貴重な校史の中で、尊い恩師、先輩諸兄の善意と、それこそ血みどろの努力によって、今日盤石の土台が築かれたもので、全く感謝にたえない。しかし、時代の変容によって、より高度な運営が要求され、先輩後輩を問わず、誰からも愛される、そしてまた、たえず適切さが認められるように、常に特段の配慮が必要となろう。これには、もちろん同窓会を通



じ、同窓会員の人間形成に連なる自己教育につとめ、会員一人一人がそれぞれの与えられた職場、そのおかれた立場において、母校発展のための、サービスマンの一員としての責任を全うしなければならぬものと強く感ずるものである。

このたび、大学側では大阪経済大学北陸(富山、石川、福井)就職懇談会を七月十三日金沢市において開催された。かかる行事も世の移り変わりに従い、大学が同窓会を通じ同窓生一人一人に対する生涯教育の道を開くものとして、誠に意義あることであるし、その成果を大いに期待してやまない一人である。

最後に、大阪経済大学、ならびに同窓会の益々の発展と諸先生方のご活躍、会員各位のご健康、ご多幸を心から祈ります。

その右側に、本日の司会をしていただいている母校就職部の方々がそれぞれ席につかれた。こんな支部総会は同窓会がはじめて以来のことであろうと、少し誇らしさを感じるとともに、石川支部のお世話をしている私にとっては、こんな肩身の狭い思いをしたこともはじめてであった。というのは、石川支部は本部でいう休眠支部の一つであり、前から比企事務局長にハッパをかけられながら、入試協力以外は何もせず過ごしてきたからである。



北陸三支部総会で

を代表して石地石川支部長より挨拶があり、磯野副会長より同窓会の現況について、詳細にわたりご報告をかねてご挨拶をいただいた。母校より玉置学長、理事長代理の山本教授および玉岡総務部長より母校の近況ならびに将来ビジョンについてのお話をいただき、永らく母校を離れていられるわけにとっては、手にとるように情勢がわかり、心強く感じた次第である。堅苦しい式典かと思っていたら、ユーモアたっぷりな比企事務局長の事務連絡があり、私も少し肩の荷がおりたように感じた。

このようにして一応、三支部合同総会は散会し、三階の別室で各単位支部総会が各個に開催された。その中で特筆することは、石川支部総会で石地支部長よりご提案があり、支部長更迭が行われたことである。すなわち、七月十三日付で私が若輩、微力ながら石川支部長の大任を命ぜられたことである。

各単位支部総会も無事閉会し、学歌、学園歌、逍遙歌のBGMの流れる食堂で中食をともにして、記念すべき北陸三支部合同総会が皆様のご協力により盛会裡に幕を閉じた。これで私の属する石川支部も福井富山の隣接支部に負けず支部活動を

行い、母校ならびに本部のために貢献することができ喜びと、反面、責任の重大さを痛感し、意を新たにされた次第である。

越前・越中と肩並べる

引き続き、午後は母校主催の就職懇談会に入ったが、これは就職部からのご報告があると思うので、ここでは割愛させていただきます。

石川県在住の皆さん、これでやっと石川支部も越前、越中に肩を並べることができましたので、次回の支部総会にはぜひ、一人でも多くご参加いただいて、同じ学舎で学んだ同士が肩を組み、逍遙歌を声高らかにうたいたいと思います。

また、福井、富山両県にご在住の諸兄姉もぜひ、私のいわんとする意を了とされ、各支部総会にご参集い

ただ、旧交を温めるとともに、比企事務局長のいわれるように経大の名のもとに公私ともに結果し、北陸同窓生の意気を示し、この内外ともに困難な経済情勢を乗り切るうではありませんか。

最後に、母校ならびに同窓会のみましますのご発展と、北陸にご在住の同窓生諸兄姉のご健康を心から祈つてやみません。

(備忘ながら本部事務局よりのご指名により、北陸三支部合同総会のご報告をさせていただきますことをご海容下さい。)

追記

二年か三年に一度、このような北陸三支部合同の総会を開催されてはと私考いたしますが、いかがでしょうか……ご意見をお聞かせいただければ幸いです。(事務局 比企)

三重支部

恩師交えて旧交をあたためる

三重支部 会員数(四十四回卒業まで) 同窓会名簿による三重県在住者一六六名。

日時・五十四年十一月十日(日)一時

場所・津市大谷町「光悦」

出席者・大学から玉置学長、同窓

会本部から磯野副会長のご来臨のもと、支部会員十六名が参加して開催。玉置学長から大学の現況、磯野副会長から同窓会の実情などのご説明があり、久方ぶりに恩師を交えて旧交をあたためた次第であります。

・議決事項(会規約)

- ① 支部長の選任
 - ② 副支部長若干名をおくこと
 - ③ 北勢、中勢、南勢、伊賀、紀州にそれぞれの地区幹事をおくこと
- (地区幹事は常に地区内会員を掌握し、会員相互の連絡をはかるよう配慮し、総会等への行事参加に協力し、平素の地区内および地区相互間の親睦をはかるよう努力する。)

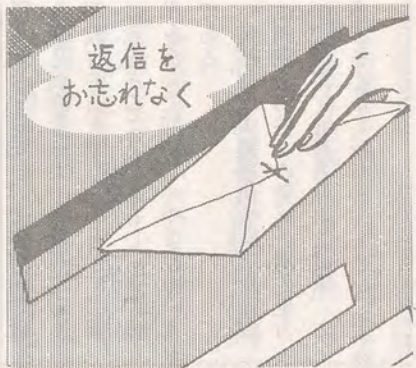
④ 昭和55年度の支部総会は十一月の第一または第二日曜日に予定する(場所、時間等は追って支部長から全会員に通知する)。

⑤ 昭和55年度役員
支部長・水上敏夫

副支部長・山辺富巳生

同・山本利夫

幹事・紀州地区・今西春也



同・北勢地区・水谷直

同・中勢地区・川井滋樹

西宮支部

「惜春の賦」をおみやげに

梅雨明けも間近い七月十八日(金)午後二時三十分より、第六回西宮支部総会を昨年と同じ阪急西宮北口の厚生事業会館二階ホールで開催しました。

例年、開催時期を七月上旬にと心がけているのですが、本年も、衆参両院のダブル選挙のため、西宮市議会六月定例会の開催日程が大幅にずれ込み、市議会議長の要職にある八木

同・南勢地区・澤田嘉彦
同・伊賀地区・木戸薫

・お願い・三重県在住の会員諸君は最寄りの幹事または、各役員にご遠慮なく連絡を下さいまして、地区の会員の現況、変化などをお知らせ下さい。なお、年一度の総会には奮ってご参加をお願いします。(参考、昭和54年度総会の案内状の発送は百六十通で、返事をいただいたものは八十三通でした)。

支部長 水上敏夫

支部長の日程等も配慮した結果、中旬以降になってしまったことをお断りしておきます。

当日は、大学側より山本晴義教授同窓会本部より西宮支部の顧問でもある広田実副会長ならびに比企重事務局長を来賓としてお迎えし、総会参加者三十余名でもって盛会とはいえぬまでも、なごやかな雰囲気の中に開会することが出来ました。

例によって、山本教授から大学の近況、特に、野球部の関西六大学リーグ初昇格など現役、後輩達のめざましい活躍ぶりの報告があり、広田副会長からは同窓会の動向、他支部の活動状況等の報告をいただきました。

続いて比企事務局長からは、同窓会誌「澗江」の規格・内容の全面改善を図ることになったこと。それに伴い郵送料も高くつくので出来る限り効率良く発送したいと考えており、あて先不明で回付されることのないよう、名簿上、消息不明になっている人の情報提供について協力をお願いしたい。また、来年は同窓会名簿の作成も予定しているので、それにも資したいとのことであった。

支部としても、毎年、総会案内状を発送した際、判明した住所異動や転居先不明で回付されたものについては、その都度チェックし同窓会本部へ報告していますが、当日、出席されなかった皆さん方も、この点、今後協力をいただければ有難いと考えています。

今回は、昨年の本部総会においておみやげ用として製作されたレコード「惜春の賦」(学歌等収録)を、出席された諸氏におみやげとしてお持ち帰りをいただきました。余談に

なりませんが、私はオーディオに血道をあげておりますが、私の装置で聴いた限り、このレコードはなかなかの「出来栄」であったことを強調しておきます。

なお、今年から支部運営費の増額措置が図られたこと、および支部名簿の作成にあたって同窓会本部事務局の皆さんに大変お世話になったことを特に付言し、感謝の意を表した

大阪市役所支部

設立満30年、200名の大世帯

昭和二十五年二月、初代支部長 広田実氏(第一回卒)をはじめ十数名の諸先輩が設立された当大阪市役所支部も、満三十年を迎えることができました。

この間、二代支部長 中村宗啓氏(第三回卒)、三代支部長 村上静夫氏(第五回卒)、四代支部長 砂山保氏(第七回卒)と引き継がれ、現在金子昭典支部長(第十五回卒)の下に活動を続けている。

当初十数名の会員であった当支部も、学校の著しい発展と共に成長し、また、一昨年から市立高等学校教職員に在職される同窓生も加入され、

大阪市役所支部のみなさん

現会員数は、二百名を超える職域支部となりました。

本年は、この創設三十年を記念して、去る三月二十八日市立労働会館において、同窓会から世良会長並びに磯野副会長、学校からは、門坂経営学部長及び藤原光治郎先生をお招きし、恒例の支部総会を開催しました。

創設当初の諸先輩も、ほとんどの方々が職域を卒業されましたが、特別会員としてお元気なお顔を見せていただき、当時の思い出話に花が咲き、楽しい一夕を過ごしていた

奈良支部

いつか実現したい屋外の総会

奈良県支部総会も年々に盛会をきわめ、本年度も例年通り、奈良県文化会館中ホールにおいて、大学側より倉辻平治先生、同窓会側から広田副会長、比企事務局長をお招きして、十一月二十三日、午前十時半より開催いたしました。

奈良県在住の同窓生は約八百名ほどですが、八回の高井美春氏、二十三回の西本集一氏のお骨折りで、支部の中にゴルフ同好会があり、年に三、

大きくことができました。また、昨年、東淀川区から選出された寄吉哲司市会議員(第三十回卒)も、特別会員として新規加入され、予算市会開会中の大変忙しい中を、同期の酒井七夫市会議員ご同伴のうえご出席され、今後の支部運営に心強いものがありました。

この伝統ある大阪市役所支部を、金子支部長以下、同じ職場で働く同窓生として、職域に大いに活用するとともに支部の発展を期していきたいと考えている次第です。

支部幹事 藤川保治

四回集まり親睦を深めています。支部からもわずかながら補助金的なものも支出し、この盛会を願っています。

本年の支部総会も四十数名の同窓生が参集し、第五回の堀林業社長、堀忠弘氏をはじめ、各界でご活躍中の諸先輩、新進気鋭の後輩諸氏をむかえ、倉辻先生の講演後、自己紹介やら、在学中の思い出話、ゼミの話など時間の経過も気にならず、午

一度訪問したいと思いつきながら、今日までその機会に恵まれなかった高知行きを実現した。

七月八日、当日は雨雲が低くたれこめ、豪雨来襲を思わせる悪天候であったが、渡辺名誉会長とともに無事、雨の高知に到着した。

どこの支部長も、その面倒みの良さに定評のある人ばかりであるが、以前からの印象で高知の場合、特に支部長の熱心が伝えられている。

聞くところによると、二十六事業所を擁する高知トヨタ自動車社長のほか、パシフィックゴルフ場、第一ホテル、飼料会社等々、数多くの事業を経営され、実に多忙な毎日にかかわらず常に支部発展に尽くされている。また、この人を

助ける支部陣容も吉本、植田両君をはじめ多士済々で、呼吸のあった運営が窺われた。

第一ホテルでの支部総会は、南海化学大阪本社へ栄転されたばかりの吉本さんが急ぎ、帰郷しての司会に始まった。雨の中、遠く離島からの出席もあり、なかなかの盛会であった。

大学からは、鈴木正里、岡本正両先生のご出席をいただき大学の近況が述べられ、運動部も盛んで、野球部の関六入りは宿願が果たせて喜ばしいとのお話に、新聞の切り抜きを持参してきた若い会員の笑顔がこぼれた。

同窓会本部からは、最近の同窓会活動について報告され、本年は名簿編纂の年に当たり、目下、鋭

高知から北陸へ 多士済々「イキ」の合った会運営

副会長 磯野 齋



意整理が進められているので、異動などについては至急連絡されるよう要望した。

宴会にうつり、いつまでも歓談は尽きず、時の経過を忘れさせた。

七月十三日は、大学の重要行事の一つとなった就職懇談会が北陸の要衝、金沢で開催されることになり、これを機会に富山、石川、福井三支部が一堂に会することになった。

場所は金沢駅前ホリデーイン金沢ホテル。三支部合同会という画期的な会合に集まる者、実に百十数名。会場は経大一色に塗りつぶされた。大学から玉置学長、山本、玉岡両理事をはじめ、高城就職部長以下スタッフ全員ご出席のもとに支部総会は開幕した。

石地、内田、重松各支部長の挨拶に始まり、玉岡理事から本年の志願者状況のほか大学定員に対する文部省指示等についてお話があり、同窓会本部からは、十一月三日の同窓会総会行事、名簿編纂についての協力要請、各支部活動等についての報告があり、極めてスムーズに総会をかわり懇談会となった。

藤田理事長ご病気のため、山本先生のご講演に続き自由討論の形式で始まった懇談は、母校を愛するがゆえの白熱した雰囲気となり、社会人としての貴重な体験をもとに語る言葉は、真剣そのもので予定の時刻を遙かにオーバーしてもなお活発な発言が続出し、大学当局も、学長はじめ、その成果に満足されたのではなからうか。

この意義深い懇談会の進行に尽くされた三支部長ならびに支部役員諸氏のご協力に心から謝意を表すると同時に、これを機に、合同支部総会が隔年にでも開催され、地区同窓会の緊密な交流によってますます盛大さを加えるよう期待する次第である。

後四時すぎ、盛会裡に幕を閉じることでできました。
毎年感じるのですが、マンネリ化をさける意味でも、また奈良は全市が公園という、立地条件もいたってよいところから、一度、屋外で家族ぐるみの総会を、という声が上がっているのですが、天候の関係でい

南九州支部

思い出の茶屋で10周年記念

「十年一昔」といいますが、月日の経つのは早いもので、現支部の前身である有志による鹿児島県人会が結成されてから、もう十年目になりました。

思えば、比企先輩（同窓会事務局長）がご来席され、伊伏氏と支部結成の予備会合が行われた結果、本部のご尽力と、当町の荒牧九州支部長様のご理解あるご配慮とにより、九州支部を北と南に分け、鹿児島、宮崎、熊本、沖縄の四県を南九州支部として独立させていただくことになりました。

そして五十年五月五日、緑したたる城山観光ホテルに、母校より大槻先生、本部より当時の渡辺理事長、

まだ屋外で行っていませんが、一度は実施してみたいな、と思っ

奈良は観光都市。同窓生諸氏も訪れる機会が多くあるかと思いますが、ご来訪の節はご一報いただければ幸いです。

支部長 平尾義之助

荒牧九州支部長、および比企事務局長のご来臨をいただき、正式に同窓会の二十四番目の支部として産声をあげさせていただいてからでも、もう六年になりました。

この記念すべき十周年記念総会を去る二月二十四日、午後一時より思い出の城山観光ホテル、滝の茶屋で、同窓会本部より渡辺名誉会長、磯野副会長、大学側より玉置保学長のご来臨のもと、盛大に挙行いたしました。総会は、ご来賓のごあいさつ、ご祝辞に始まり、自己紹介のあと懇親会に入りました。鹿児島名物の焼酎が入るほどに会は大いに盛りあがりましたが、特に、渡辺名誉会長、磯野副会長、玉置学長ら諸先生がた



南九州支部のみなさん

から、学校の現況および将来ビジョンなど、いろいろと有意義なお話を拝聴し、支部員一同、意を強くいたしました。大いに話がはずみ、わいわいがやがやと時のたつのを忘れていましたが、定刻の午後四時になり、桜島をバックに記念撮影をした後、運動をかね城山を降り、天文館まで歩き、ご来賓の皆さんを当日の宿所である林田ホテルにご案内して、一応、支部総会を閉会いたしました。さて、恒例の二次会は、午後七時より天文館のさつま料理専門店「えびす」に集合し、今度は無礼講で話

に花が咲き、尽きるところがありませんでしたが、十時過ぎに来年の再会を約して別れました。
本日に楽しい十周年記念総会でした。特に、熊本より太田竜馬先輩（七回卒）が出席されて「来年は熊本でやるか……」とお言葉もあり、錦上花をそえていただきました。
ただ残念なことは、比企事務局長様のご健康上ご出席いただけなかったことです。一日も早く全快されることをお願いしておりますとともに、来年のご出席を支部員一同お待ちしております。

最後に、鹿児島、宮崎、熊本、沖縄にご在住の同窓の皆さん、来年こそ、この楽しい会合にぜひご参加下さい。心からお待ちしております。

支部長 宮田順一郎

本号にご寄稿がございませんが、二月八日(金)に北九州支部の支部総会が盛大に開催されたことをご報告申しあげます。

北九州にご在住の同窓生の皆さん、来年開催される支部総会にはぜひご参加のうえ、同じ釜のめしを食べたもの同士が肩を組み、学歌、道通歌を声高らかにうたい、公私ともに親交を深めようではありませんか。

(事務局 比企 付記)

教育・研究の質的充実へ

四年ぶりに学費改訂



整備進む教室

昭和五十四年十一月、大阪経済大学は諸般の情勢により、昭和55年度以降の新生に對して、学費改訂のやむなきにいたりました。

「最近の私学が置かれている立場は極めてきびしいものがあり」、「ことに高度成長以後におけるわが国の国際的地位の向上や、石油ショック以来の経済の複雑困難な立場は、従来の大学教育のあり方を、量的拡大から質的充実へと急転換することを不可避なものとしております。」したがって「質的充実を行うための収入の減少」に加えて、「連年のインフレによる予算の増大」のため、やむなく学費を改訂せざるを得なくなりました。

本学の主要課題を箇条書きに紹介しますと、(一)学生定員超過の是正、(二)教員の充実(増員と外人教師)、(三)教育・研究条件の改善(教職員・学生の留学と国際交流、環境整備、

コンピューターの充実など)、(四)奨学金貸与制度、給費制度の拡充、(五)学生の課外活動と厚生施設への援助、などです。

四年ぶりに改訂された学費は、第一学部(昼)で入学金を含めて五十五万円、第二学部(夜)が十七万五千円となりましたが、全私学との比較では、昼は平均を若干下まわり、夜は大幅に下まわっています。

(学費改訂について、昭和五十四年十一月 大阪経済大学発行のパンフレットより)

C・D館の冷房化

で騒音から解放

わが大隅キャンパスは、時計台のある校舎(B館)や大樟をしのぐ勢いで、新しい建物が増改築されましたが、周囲の環境も都市化(悪化)が激しく、新幹線や車の騒音に悩まされ続けてきています。

そこで、今年の夏期休暇を利用して、本学の主要な教室がおさまっているC・D館の防音対策として冷房工事に着手しました。せめて教室の冷暖房化を図り、窓を閉め切った状態で授業を行い、周囲の騒音から解

私は、学園の将来計画について、長期・中期・短期の三時期に分けて考えています。長期というのは十年ないし十五年後、中期というのは五年後、短期というのは五年以内に実現しなければならぬ計画です。まず、長期計画としては、学園都市化、総合大学化を考へるべきだと思います。

現在の校地・校舎は、騒音になやまされ、環境の悪化は避けられそ

ん。

理由としては、総合大学の方が、自己の好む学部・学科の選択ができること、課外活動などで効率をあげるることなどが考えられますが、時代の趨勢ともいえます。さらに、教育・研究の面で、各学部・学科とも、隣接学部・学科との密接な連携の必要が叫ばれている現在、各学部・学科が、一カ所に集中することは、成果をあげるために、経済的ともい

これに對処しながら本学が發展するために、(1)学生の実員減と定員増、(2)教員の大幅増員、(3)世界的時代にこたえるためのカリキュラムの改正、(4)特色ある学部・学科の増設、(5)推薦入学制度の導入、(6)公開講座や生涯教育の実施などの施策が考へられます。

この中で、(2)、(3)、(5)、(6)は、教授会・理事会の了承さえあれば、実現は極めて容易ですが、(1)について



学園の展望

学長 玉置 保

えましよう。

にもありませんし、グラウンドも狹隘で地域社会に迷惑をかけている実情から、これらの弊害除去のためには、学園都市は無理であっても、静謐な田園・山林に囲まれた学園の建設以外にはないと考へます。また、本学の格付けの問題として、偏差値の問題が一部学内・学外で論じられています。私は、このこと自体はあまり気にしていません。しかし、受験生・合格者の一部が、新設の総合大学に流出する事実は否定できません。

中期は、短期計画を実現したうえで、その質的充実ならびに量的拡大をはかり、長期計画実現の足掛りをつくる時期であります。次に、短期計画のことですが、その内容については、昨年『澱江』第15号に述べさせていただきましたように、文部省当局が、量的拡充よりも質的充実をした大学、建学精神をふまえた特色ある大学を要望し、国庫助成も、今後はこの方面に重点がおかれるので、

は、実員減は容易であっても、消極策で大学のクラブ活動その他の萎縮にもつながるので、積極的に定員増に努力する必要があります。この問題と(4)の問題は、校地・校舎の増設とからみますので、現在、理事会に努力していただいております。本学創立50周年にあたる昭和六十年までには、この短期計画をぜひ実現し、さらに、中期・長期の展望の実現を希求してやみません。

森田助教授ら 五氏を新採用

退職者は松原講師など

本年四月より左記の方が新採用として着任しました。活躍が期待されます。

経済学部助教授 森田寿一(近代経済学)

同講師 齊藤栄司(経済原論)

同講師 山本恒人(中国経済論)

経営学部講師 藤本寿良(販売管理論)

図書館職員 大門由秀(46回卒)

また、左記の方が退職されました。

永い間ご苦勞様でした(退職年月日順)。

経済学部講師 松原保太郎(死亡)

5. 55年度入試結果資料

(1) 志願者・受験者・合格者・入学者数および倍率

() は女子内数

1・2部	学部	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
第1部 (昼)	経済	7,464 (56)	7,311 (55)	1,792 (11)	685 (3)	4.1
	経営	7,443 (79)	7,258 (75)	1,886 (23)	794 (8)	3.8
	計	14,907(135)	14,569(130)	3,678 (34)	1,479 (11)	4.0
第2部 (夜)	経済	771 (1)	730 (1)	307	149	2.4
	経営	737 (6)	712 (5)	304 (1)	142 (1)	2.3
	計	1,508 (7)	1,442 (6)	611 (1)	291 (1)	2.4
合計		16,415(142)	16,011(136)	4,289 (35)	1,770 (12)	

(2) 志願者・倍率の推移(過去5年間)

指数は51年を100 () は女子内数

1・2部	学部	志願者数	55年	54年	53年	52年	51年
第1部	経済	志願者数	7,464 (56)	8,227 (82)	8,284 (88)	7,121 (86)	6,762 (96)
		倍率	4.1	5.3	4.9	4.0	4.4
	経営	志願者数	7,443 (79)	7,556(110)	8,923(167)	7,684(128)	7,561(150)
		倍率	3.8	4.3	5.3	4.2	4.5
	計	志願者数	14,907(135)	15,783(192)	17,207(255)	14,805(214)	14,323(246)
		指数	104	110	120	103	100
第2部	経済	志願者数	771 (1)	936 (8)	839 (9)	705 (10)	586 (7)
		倍率	2.4	2.9	2.3	2.0	2.0
	経営	志願者数	737 (6)	787 (3)	942 (8)	677 (10)	525 (8)
		倍率	2.3	2.4	2.5	1.9	1.6
	計	志願者数	1,508 (7)	1,723 (11)	1,781 (17)	1,382 (20)	1,111 (15)
		指数	136	155	160	124	100
合計	志願者数	16,415(142)	17,506(203)	18,988(272)	16,187(234)	15,434(261)	
	指数	106	113	123	105	100	

(3) 合格最低点(過去5年間)

学部	年度	55年 (450点)		54年 (450点)		53年 (450点)		52年 (450点)		51年 (450点)	
		点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%
第1部	経済	262	58.2	240	53.3	220	48.9	251	55.8	245	54.4
	経営	296	65.8	240	53.3	252	56.0	241	53.6	237	52.7
第2部	経済	184	40.9	172	38.2	159	35.3	156	34.7	156	34.7
	経営	209	46.4	167	37.1	181	40.2	147	32.7	150	33.3

(4) 両学部併願者・単願者の合格率(第1部)

学部	年度	55年				54年				合格率
		志願者		受験者		合格者		志願者		
		人数	全体比%	人数	全体比%	人数	合格率	人数	全体比%	
単願者	経済	4,560	61.1	4,427	60.6	1,176	26.6	4,955	60.2	19.7
	経営	4,539	61.0	4,374	60.3	1,169	26.7	4,284	56.7	21.7
併願者	経済のみ	(2,904)	38.9	(2,884)	39.5	225	7.8	(3,272)	39.8	6.3
	経営のみ	(2,904)	39.0	(2,884)	39.7	326	11.3	(3,272)	43.3	13.4
	両学部共	(2,904)		(2,884)		391	13.6	(3,272)		11.7
	合計(合格者)	(2,904)		(2,884)		942	32.7	(3,272)		31.4



年々増加する志願者

同教授 岩井茂(定年)
同教授 園田理一(〃)
経営学部教授 原田博治(〃)
教養部教授 奥村日出男(〃)
経営学部助教授 下谷政弘(依頼)
なお、岩井・奥村・下谷先生は現在非常勤として勤務され、下谷先生は京都大学が本務校です。
なお、本学の名誉教授であった菊田太郎先生が本年の三月二十九日、信垣直一先生が四月八日に、それぞれご自宅で逝去されました。心より、冥福をお祈りします(追悼文別掲)。

56年度入試要項

1. 学部・学科・入学定員

学部	学科	入学定員
経済学部第1部(昼間部)	経済学科	400名
経営学部第1部(昼間部)	経営学科	400名
経済学部第2部(夜間部)	経済学科	100名
経営学部第2部(夜間部)	経営学科	100名

2. 試験日・科目・時間・配点

試験日	教科	科目	時間	配点
経済学部(1・2部) 2月11日(水)	外国語	英語B	9:30 10:40 (70分)	150点
		現代国語 古典1乙	11:20 12:30 (70分)	
経営学部(1・2部) 2月12日(木)	選択科目(1科目)	政治・経済、日本史、世界史、地理(A・B共通)	13:50 15:00 (70分)	150点 (計450点)
		簿記会計I・II		

①地理(A・B共通)は地理A、地理Bの共通分野から出題する。
②簿記会計I・IIは簿記会計Iおよび簿記会計II(ただし工業簿記、原価計算を除く)。

3. 試験場

試験地	試験場	所在地
大阪	大阪経済大学(第1部)	大阪市東淀川区大隅2
	大阪北子備校(第1部)	大阪市淀川区十三東1-20-10
	夕陽丘予備校(第1部)	大阪市天王寺区堀越町6-3
	浪速予備校(第2部)	大阪市北区芝田2丁目9-20
姫路	姫路市農業協同組合 姫路子備校 播磨漁友会館	姫路市北条220 姫路市東延末211-5 姫路市東延末国道355
高松	高松国際ホテル大ホール	高松市木太町2191-1
広島	河合塾広島校	広島市南区大須賀町16-10
福岡	水城学園長浜校舎	福岡市中央区長浜1-3-1
金沢	北陸放送MROホール	金沢市本多町3-2-1
名古屋	河合塾名古屋校15号館	名古屋市中村区亀島2-6-6

4. 出願手続・合格発表

- ① 入学案内書(願書) 11月上旬発売 千共700円
- ② 検定料 18,000円
- ③ 出願期間 1月16日(金)~1月29日(木)必着 郵送に限る。
- ④ 合格発表 2月22日(日)(予定)

来年度入試要項決まる

2月11日 経済学部 同12日 経営学部

今春の入学試験実施に際しましては、格別のご援助、ご協力をいただき有難うございました。厚くお礼申しあげます。
先般、来春の入試要項が決定されましたのでお知らせいたします。主な変更点は、入試日が今年より二日遅くなり、二月十一日(水)経済学部、十二日(木)経営学部となったこと、詳細は右記の通りです。

浪人の合格率大幅増加

志願者総数は一六、四一五名で昨年より一、〇九二名六・二%減少し、五十二年と同水準となった。第一部では、経済学部が七六三名九・二%減となり、経営学部志願者数がほぼ同

数となった。
第一部についてみると、①合格者を入試日が例年に比べ約一週間早くなったことから、入学辞退者増が予想されたため少し多く発表したこと、②一人で本学の経済・経営両学部を受験したいわゆる併願者の合格率は三二・七%であり、一学部のみ受験した単願者の

合格率は経済学部二六・六%、経営学部二六・七%で、併願者の合格率が例年通り高い結果となったこと、③浪人の合格者が昨年に引き続き大幅に増加し、現役の合格者は経済学部四二・六%、経営学部三三・六%に減少したことなどが目立った。詳細は左表の通りです。

母校愛に燃える心と心の触れ合い

7月13日 金沢市で開く

北陸地区で就職懇談会を開催する

ことについて

三月下旬、同窓会本部比企事務局長と打ち合わせの後、福井・石川・富山県の各支部長にお会いし、



北陸地区で就職懇談会開かれる

快諾をいただく。合わせて同窓会支部総会も開催して盛大に実施すること、開催場所を「金沢」とすることも意見の一致をみ、石川県支部長石地氏、柚木幹事に全般のお世話をお願いして帰阪、本格的な準備に取りかかりました。

最大の作業は、各県支部名簿の作成でした。五月の下旬には福井一五七名、石川二〇二名、富山一〇〇名の名簿が出来上がり、六月早々に一人でも多くの先輩のご出席をお願いしつつ、案内状を送付いたしました。名簿作成にあたっては同窓会本部、石川・福井・富山各支部長、事務局長の方々、および支部員の方々には大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

七月十三日(日)、前日まで降り続いた雨は朝からカラリと晴れ上がり、北陸ムードが充満する中、十時頃から続々と受付に列をつ

り出す。十年前の懐かしい顔も見える。定刻(十一時)よりやや遅れて、いよいよ支部総会の開会宣言らしい。ひととき大きな拍手が、会場外の受付にまで鳴り響いた。

(支部総会の模様は、石川県柚木新支部長から報告されます。)

講演に深い感銘

昼食後、「私学教育の質的検討」と題する講演を、本学理事長藤田先生にお願いしていましたが、前日頃から風邪による熱が下がらず、残念ながら欠席されました。熱にうなされながら書き綴られたという原稿をもとに、本学理事の山本先生が藤田先生に代わってお話をして下さいました。

私学教育、とりわけ大阪経大の将来について、情熱と信念を燃やしつつ藤田先生の講演の主旨に深い感銘を受けたのは、私一人ではなかったようです。

2時間に及ぶ意見の交換

高城就職部長の開会の辞、玉置学長の挨拶、遠路ご出席をいた

いた磯野同窓会副会長からご挨拶を賜った後、意見交換へと進行。

座長団に石川県石地支部長、福井県内田支部長、富山県重松支部長が選出され、内田支部長の軽妙な進行とあいまって、会場を埋めた一〇〇余名の熱意は、約二時間に及ぶ長時間の意見交換にもかかわらず、時のたつのも忘れさせ、その熱気あふれる雰囲気は圧倒されました。

過去、京阪神で三回、地方で二回の就職懇談会も、それぞれの地域の特長性を織り込みながら、母校愛に燃える心と心の触れ合いに、胸にこみ上げてくる熱いものを覚えましたが、今回の北陸地区はそれに輪をかけ、私の心に強く焼き

つけられ、永久に消えることがないでしょう。これほどまでに後輩を思い、母校を思う先輩諸兄姉がたえず母校の発展を気にかけておられることを目のあたりにして、大学に身を置く一人として、省みて自らを問う一日でした。

ひとつ………

「硬野球部の関西六大学入り」に感激した。大阪経済大学五十年の悲願が今、後輩の頑張りで達成されたのです。聞くところによるとグラウンドは狭隘で、間借り練習場という。新練習場の建設のために寄付を呼びかけようではないか

この件は午前中に行われた富山県支部総会で提案され、了承。午後の懇談会に再提案されたのです。この発言がなされるや、座長団はじめあちこちから拍手がおこり、会場はひときは熱気につつまれた。

ふたつ………

「Uターンを希望する学生を、各県支部長宛に連絡してほしい。可能な限り、情報提供やお世話をしたい」

みつつ………

「北陸地区の有名高校から関西地区の大学を受験する生徒が、できるだけ母校も受験するよう、PRを目的に福井県支部、富山県支部は吹奏楽部やマンドリン部を呼

就職懇談会の歩み

第一次石油危機後、日本経済は高度成長経済からゼロないし低成長経済に移行し、深刻な不況に直面したわけですが、それに伴い、産業界は大手企業の採用ストップが続出、昭和五十一年には倒産旋風が吹き荒れ、大学卒の就職事情は一変しました。

そうした中で、学生の就職動向も変化をみせ、大企業志向から中堅企業へ、そして公務員志向、地元志向へと移り、本学の昭和五十二年三月卒者のUターン希望は、出身者の八〇%に達しました。

就職部はこうした状況を踏まえ、社会の各分野で活躍しておられる先輩の方々に直接お話を伺い、就職指導に役立てたい。また、Uターン希望者のために地方にお

る最新の経済情勢や、企業の求人情報の収集にご協力を願おうと企画したのが、三年前の昭和五十二年、第一回京阪神地区就職懇談会であった。五十三年は京阪神地区と四国地区(於高松)、五十四年、京阪神地区と岡山県、そして五十五年度の開催地は、Uターン希望が四国、岡山について多い北陸地区に決定しました。

んで演奏会を実施した。今後も企画したい」等々。

母校を思う発言は、次から次へと止まるところを知らない。座長団、内田支部長の汗だくの交通整理?のおかげで、ようやくにささやかなパーティー会場へ移動したのは、予定時刻を三十分超えた午後六時二十分であった。

同窓会製作のレコードから学歌が流れる中、重松支部長のカンパの音頭を皮切りに、懇談会で話し足らなかった先輩は次々と語りかけてくる。

しばしの歓談の後、演台に駆け上がった富山県支部、石川県支部の代表が詩吟を、続いて昭和高度時代の大先輩の逍遙歌、新制大学になってから卒業された学士の面の学歌が会場を揺るがす……。

最後は石川県支部の北元先輩の音頭で万歳を三唱、短くも意義深き一日を、肩をたたき、手を握って、別れを惜しみつつ散会したのだ。

最後に、開催地石川県支部の柚木新支部長にはひとかたならぬお世話になりましたこと、心から厚くお礼申し上げます。(暇名記)

学歌制定の由来

建学の精神 学歌にこめて……



恩師の善意こもる歌詞・メロデー

東京都広報部長 牧田安夫 (19)

大阪経済大学の誕生は、伝統ある昭和商、大阪経専という基盤があったとはいえ、文字通り「学徒師弟」が心をいつにして努力した結果といえる。
資金集めから、図書集め、時には、師弟がともに校舎内外の草引きをした日々。

また、黒正イズムを受けつぎながらも、新しい理想と理念に燃える大学の建学の精神を学歌として残し、未永く伝えたいと思った。それが、皆の願いでもあったと思う。
大学の国文学の教授で、その間の事情にも詳しく、また、私が監督をしていた準硬式野球部の部長をされていた関係もあって、故秋本吉郎先生に話をし、作詞を依頼した。
その時の経緯は、先生が亡くなら

一時は途方にくれて

旬日を経ずして届けられた学歌は、私達の願いをあますところなく表現された立派な歌詞であった。

それまでに、他に数多くの校歌の作詞をされていた先生も、「いままで

にない感慨をもって作詞できた。新しく誕生した自分の学校の歌を作詞したこと自体、何にもましてうれしい」と感想を語ってくださいましたことを覚えておられる。

しかし、作曲については依頼する心あたりもなく、また、多額の作曲料を支払うあてもなく、一時は途方にくれていた。

その時、故大北文次郎教授（当時学長代理）が、ご親戚である音楽家の伊藤武雄氏（隻腕のバリトン歌手として、当時有名であった方）を紹介して柴田南雄先生を紹介してくださいました。

私は、直ちに上京し、先生の目白のお宅にうかがって、無理を承知でお願いしたところ、心よく承諾され、すぐに作曲をしてくださった。
先日、偶然の機会から、先生のご

一節ずつ口うつしで歌唱指導

山中良夫 (19)

牧田君の、学歌制定当時の思い出話を読みながら、私はまた、私なりの感慨にひたっています。

そう、あの時、大北教授から、学歌

の作曲が出来上がったので、「伊藤武雄先生が浪商まで持って来て下さるから受取ってくるように」といわれ、私達合唱部はおそろおそろ（というのは、当時では、伊藤先生がわ

ざわざおいで下さるといのは並みだいたいのことではありませんので）淡路にあった浪商高校まで出かけていったのです。

目をとじると、うす汚れた校舎の中のうち暗い音楽室。そしてグラウンドピアノの前の隻腕の大声楽家。ピアノを囲んで立つ緊張したいくつかの顔。

楽譜も良く読めない私達のために、伊藤先生は、一節ずついいねいに口うつしの歌唱指導をして下さいました。数時間後、どうにか歌える状態になったので、私達は口々に感謝の言葉をのべて伊藤先生の前を辞しま

トイレでレコード化のウンチク

本学広報部 北山勝英

膚にまだ余寒を感じる昨年の早春、必然的所として手洗いで比企同窓会事務局長と私、何のきっかけからか、「困ったコッチャ、学歌もともに歌えん卒業生が居らんやデ。」それなら、まして応援歌なんか知ってる人は少ないでしょうネ。「そんなもん、ワシかて知らんデ。」……

これはチト問題であるということ、同窓会で学歌のレコードを制作

した。
片手でピアノを弾きながら歌われた伊藤先生の姿に、われわれはどれほど感激したことでしょう。

私が学歌を唱う時、秋本先生を想い出すとともに、あのうす暗い音楽室での伊藤武雄先生のお姿がまざまざと思いおこされるのです。

大北教授、秋本教授、そして柴田南雄先生、伊藤武雄先生、この方々のお名前を学歌とともに皆さんの記憶にとめていたいただきたいと思うのです。なぜなら、この方々があつてこそ今の大阪経済大学学歌が出来あがったのですから。

することに、トイレ会談でクサキ伸となった行き掛かり上、私が小用のお手伝いをするようになった。そんなわけで、（手伝った張本人が無責任なことをいってはいけないが）正直、出来上がりは上等とはいえない。例えば、作曲者松川氏からは逍遙歌のテンポが早すぎる点を指摘いただいた。収録時間の制約から今風の速度になったが、確かにこの曲の持ち

新名簿の予約申込みについて

第一回卒業生より第四十六回卒業生（昭和五十五年三月卒業生）まで

を収録した総合名簿を来年「限定出版」します。そのために、名簿発行特別委員会というプロジェクト・チームが結成され、現在、鋭意努力いたしております。

この名簿は「限定出版」ですから、事前に申込予納金をいただくこととなります。ご入用のかたはこれをご了解のうえ下記要領によりお申し込み下さい。

なお、次回発行予定は昭和六十年になりますので、今回、ぜひお買い求めおき下さい。

記

一、新同窓会名簿予約代金

五〇〇〇円也

一、予約〆切 昭和五十六年三月末

（予約者に限り、送料本部負担）

一、予納金支払方法

(1) 銀行の場合

大阪経済大学同窓会

(2) 郵便局の場合

(イ) 郵便振替

大阪経済大学同窓会

(ロ) 郵便為替、現金書留

いずれも〒五三三・大阪市東淀川区大隅二一八、大阪経済大学同窓会宛。

一、発送予定

昭和五十六年五月頃の子定

なお、銀行をご利用の際は副報告書（写しでけっこうです）を必ずご送付下さい。

何分とも数が多いので、この副報告書が未着の場合は、発送が一番最終になります。よろしくご協力下さいませようお願い申し上げます。

また、いろいろのトラブルをさけるため郵便番号、送付先住所、氏名、卒業回数（あるいは年次）を楷書で、はっきりとお書き下さいませよ、ご協力をお願い申し上げます。

B面に吹き込み、原譜、歌詞折込みのドーナツ板のレコード「惜春の賦」がまだ少し在庫があります。

ご希望の方は、五〇〇円を現金書留でご送金下さい。送料は本部負担です。

「よくできている」と評判がよいので、在庫のある間にお買上げ下さい。なお、切手による送金はご遠慮下さい。

■経大のマークのタイピンはもう残りが僅かになりました

これも一個、五〇〇円です。記念

事務局から

■古い名簿を探しています

昭和三十八年以前に発行された同窓会名簿を本部保存用を探しております。

同窓会名簿は、昭和二十二年に大阪経済専門学校として、各回別に一冊五円で、各回の世話人が発行してました。現在、本部で保存しておりますのは七回卒分だけです。

各回の当時の世話人の方。お手持ちがございましたら、ご寄贈下さるか、ゼロックスをとりますのでお貸し下さい。

に、また、実用のために早くお買上げ下さい。売切れ間近です。

■同窓会報第三号を探しています

ご存知の通り昭和二十四年三月十五日、『大阪経専同窓会報』第一号が発刊されたから、第二号、第三号と続いた会報は、昭和二十七年五月十五日に『澱江』第四号として姿を変えて以来、五号、六号、七号（昭和三十年十二月二十五日発行）で中絶されました。そして、昭和四十年七月に新しく『澱江』No.1として発

行されたものが現在No.16まで、毎年定着して発行されております。

その中の『大阪経大・同窓会報』第三号（昭和二十六年発行だと思えます）を探しています。

本部にもございませんので、もしお持ちの方は、資料整備と同窓会の歴史を探るためにも必要ですから、ご寄贈いただくか、あるいはゼロックスをとる間、本部へお貸し下さい。皆様の書棚の古いところを探してみして下さいお願いします。ご連絡を鶴首してお待ちいたしております。

■黒正先生に関する資料をお貸し下さい

黒正先生の直筆の書簡、たんざく、色紙、あるいは黒正先生に関する諸資料を集めております。

お持ちの方にとっては貴重なお品だと思えますが、同窓生のためにお貸し下さい。ある物は写真に、またあるものはゼロックスする間、同窓会本部で責任をもって保管し、用済みのうちは責任をもってお返しいたしますので、ご協力をお願いいたします。

十年一昔というのが、私と澱江とのつき合いは、実に十五年に及んだ。雑誌の編集をしていたというだけの理由で、大役をおおせつかったわけだが、正直なところ同窓会の機関誌



『澱江』との十五年

松本義和 (16)

ということになると、一体どんなものをつくってよいのか、途方にくれたものである。従来のB5版でいくのか、新聞形式で帯封でいくのか、随分迷った。

物の値上げの際に、二つ折りにすれば定形になり、半分近い郵送料でお手元にお届け出来るようになったのだから皮肉である。

当時は、同窓会の台所も裕福というのには程遠く、いかに少ない費用

でもよく、原稿を書くのも億劫になつてきたのも事実である。そろそろ年貢の納め時と思つていた矢先、編集の方も、特別委員会が出来て、すべてやっていただくことになった。無罪放免ということである。

しかし、十五年も続けてくると、何故か分身という気がしないでもない。手放してはみたものの、どこか寂しさが残るのも事実、これが澱江に対する愛情というものであろうか。

ただ、あとはこの十五年を肥にしたいので、よりよい澱江がいつまでも続けられる事を祈るや切なるものがある。十五年の協力とご愛読を心から感謝するものである。

同窓会総会ごあんない

とき：昭和55年11月3日 A.M. 11:00~
 ところ：レストラン・パレス
 会費：お一人 ¥3,000-
 新卒者に限り ¥1,500-

お誘いあわせのうえ、ご参集下さい。
 ごちそう、記念品もどっさり用意しております。

味はスローテンポでより生かされる。さらに、末尾に掲げた通り、何カ所か誤認や誤植がある。全くわずかず半ピラ一枚にウンチク傾けるところか小用も足せぬとは。

それでも、こうした私の非力にもかかわらず、快くご協力いただいたOBの方々や、グリー・吹奏・マンダリン、各クラブの諸君の努力のお陰で、現在ある経大の歌を何とかレコードに残せた。このうえは、さらに新しい経大の歌の誕生と、より多くの曲を収録したレコードを期待したいものです。

【訂正】（ジャケッ）軽音楽部の松川氏→音楽部の：

【誤植】譜面）吹奏楽総部・管弦楽団→音楽部

逍遙歌・最終小節の八分音譜は半音上へ。

【注】（譜面）第二応援歌・十五小節目を「ざをしめる」の譜面と演奏は編曲により音が異なっております。

【お願い】第一応援歌のみ作詞、作曲者が不明です。お心当たりの方がいらつしやいましたらご一報願います。

●本レコード「惜春の賦」ご希望の方は同窓会事務局へご連絡下さい。

恩師を囲んで

ゼミナールを担当されている先生が、あるいは恩師を囲んでのゼミ同窓会などの近況をお尋ねしました。

- 一、最近開催のゼミOB会について
- 二、先生の御近況について
- 三、その他、雑感随想など

82歳の園田先生囲んで 会の運営に夢ふくらむ

園樟会

爽やかな季節となりました。皆様方にはご清栄のことと存じます。さて、私も園田理一先生に教えを受けました園田ゼミOBは(昭和三十九年)五十五年まで総員四二七名(先生のご退任を記念し、園樟会

を発足させました。今春早々、園田先生が大阪経済大学をご退任との連絡を受け、各年度の世話役が会合を持ち、二月二十四日、大阪・梅田花月近くの「レストラン・ブーン」で、その第一回を開催し盛会に終わりました。当日の出席者は七十名。先生は八十二歳のご高齢にもかかわらずお元気なお姿をわれわれの前に現され、先生を囲んで、全員、在学当時に戻って昔話に花が咲き、これから園樟会の運営に夢をふくらませ、

親交を深め有意義なひとときを過ごしました。

いつの時代でも、同じ学窓で学んだ同窓、同ゼミという共通の思いは年月が過ぎ去っても楽しく懐かしいものです。特に、時代は違っても同じゼミナールで学んだということは社会的地位とか、財産などとは全く無関係に、一対一の対等な人間としてのふくらみや、暖かさを感じてのふくらみを感じさせてくれるものです。そしてこのような会合での暖かな交流から

明日へのエネルギーも生まれてくるといえます。

さて、私も幹事一同は、次回からは一人でも多くの出席者と努力してありますが、中には消息不明の方もあります。この欄を拝借して近況報告などご連絡をいただきますように、また、園田ゼミOBの消息をご存知の方はご一報願えればうれしく思います。

なお、新しく作成致しました四二七名全員の名簿をご希望の方は左記口座宛(一〇〇〇〇円)ご送金下されば幹事より送らせていただきます。

最後になり恐縮ですが、園樟会発会式当日、日曜日にもかかわらず同窓会本部より比企事務局長様のご来臨をたまり、さらに過分の発会お祝金をいただいたことに対し厚くお礼申し上げます。今後とも本部におかれましても、われわれ園樟会の育成にお力添え下さいませようお願いします。

ご参考に園樟会の役員を左記いたしますので、今後のご連絡をお待ちいたしております。
名簿保管幹事 村上信一



口座名 住友銀行 平野支店 普通預金
五二二二六一
園樟会会長 多田智章
会長 多田智章(32)
副会長 矢野勝彦(32)
会計 村上信一(32)
連絡係 (32)多田智章、矢野勝彦、村上信一、(33)木原義一、清水宏保、(34)田中潤一、(35)門永久彦、高柳弘和、(36)村上健三、(37)寺井成男、(38)熊沢総一郎、(39)藤木恵一郎、(40)広嶋久夫、(41)細川寿弘、

山本和重、(42)森岡孝、(43)鉢嶋勉、与野木公雄、(44)山上博朗、(46)中井直幸
園樟会会長 多田智章

藤原先生退任記念に スーツとオーバー贈る

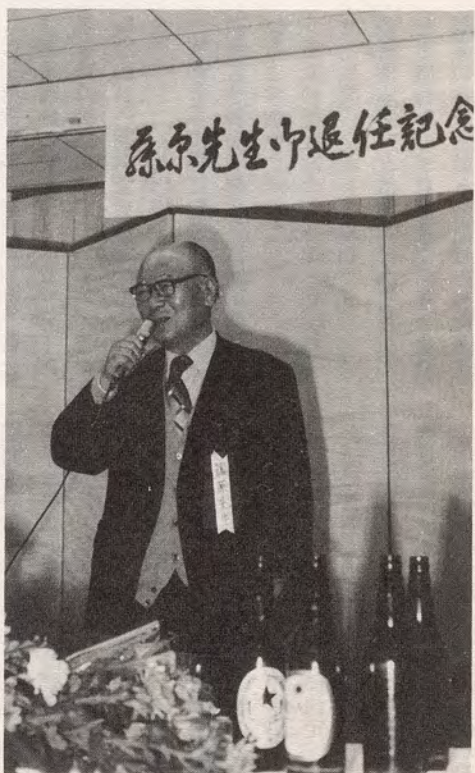
藤友会

さまざまの同窓会の中でゼミナールの集まりは、結束が強いわりには、何かないと集まらないものである。

藤原ゼミの「藤友会」も藤原先生のご退任を機に動き出した点では例外でない。昭和高校、大阪経専、大阪経大と学校の歩みと共に、半世紀近く研究・教育生活を続けられた藤原先生の弟子は五〇〇名を超す。今回の先生のご退任記念行事準備の第一段階は、まず名簿の整理から始まった。

藤友会世話人の努力で名簿が整理され、記念行事の内容が決まり、案内状の発送となるわけだが、この時萩原市郎先輩(十回)が毛筆で宛名を書いて下さるという思いもかけぬ申し出があり、世話人一同、感激するやら、恐縮するやら……。

そのほか多くの先輩からあたたかいご助言をいただいて——これはポ



藤友会であいさつする藤原先生

クチャン(藤原先生のニックネーム)の人徳のためもの——一月二十六日(出)、レストラン・パレスで「藤原先生ご退任記念パーティー」を持つことが出来た。北から南から八十名の卒業生が集まり、同窓会本部から比企、萩原、玉岡各氏が出席された。

席上、先生への記念品が贈られた。これは藤友会世話人女性グループからの発案で、イギリス製布地によるスーツとオーバー。仕立も大阪で一、二を争うメーカーだけあって、先生の身体にぴったりである。早速オーバーを試着された先生は、二十歳は若返られて、女性グループは大いに気をよくしたものである。この記念品は、当日出席できない方々か

らも多数のご協力をいただいで実現したもので、改めて誌上を借りてご協力下さった方々へ感謝とお礼を申し上げます。

パーティーは、久方ぶりに聞く先生のお話のあと、学年ごとに歌を披露、先生も「Das gibt's nur einmal...」と、「会議は踊る」を歌って下さって、あつという間に教時間が過ぎてしまった。

はじめて顔を合わせた先輩、後輩が多かったのに、年齢を超えて話題が広がり、藤原先生を通じて結ばれた友情の強さを確かめあった。経大校歌の合唱を最後に、お互い藤友会の発展を期し、再会を約束して別れた。
文責 柴田悦子(14)

次回から有名人の講演 など内容をさらに充実

清壽会

井上ゼミナールの第一回卒業生(昭和二十四年卒)から第三十一回卒業生(昭和五十五年卒)をまじえて、二年に一回のわりで開催されている清壽会総会は、去る四月六日(日)大阪市北区梅田町二丁目レストラン・パ



ンタリアで盛大に開催されました。今回は、特に同窓会本部より比企重事務局長(七回卒)をおむかえして、午前十時より大ホールにおいて比企事務局長よりのご挨拶で始まり、ついで、井上清先生の「最近の国際経済と我が国経済の関係」と題する講演がなされました。

ひき続き、清壽会事務局より、活動状況および事業報告と、会計報告があり、役員選出の審議を行い次の通り留任決定致しました。

代表幹事

中村昭吉(21)

小西幸雄(27)

平島慎一(28)

なお、今後、清壽会をますますもり上げて、内容を充実させていくために、次回より有名人による講演、経大関係者多数のご来臨、かくし芸コンクール、チャリティーショー等を企画致しておりますのでご期待下さい。

小西幸雄(27)

視野広く力強く生きよう

井上 清

井上ゼミOBのみなさん、お元気ですか。小生も無理できませんが、

く友の顔を思い浮かべた。当日は、国鉄天王寺駅に午後三時に集合し、阪和線で和歌山へ。参加者の中には、東京・岡山・大分などの遠方から駆けつけた者もあったが、疲れなどなかったように話し込んでいた。旅館には、午後五時頃に到着し、夕食時には、皆すっかり二年前の学生時代に戻った様子でカラオケに熱中し、松原和男先生もご自慢(?)の歌声を披露された。

夜は、松原和男先生を囲み、大部屋で一夜を明かした。中には、学生時代を懐かしんでか、夜通し話し込んだ者も数人いたようである。

恒例のソフトボールで

三年のAチーム優勝

松原和男

小生のゼミ恒例となりましたソフトボール大会、今年は五月十日に淀川の河原でおこないましたが、久しぶりに三年のAチームが優勝しました。三年は、また、秋の関西プロックおよび全日本の学生ゼミナール大会に出場すべく頑張っています。

同窓会関係では、昭和五十三年度卒業Aゼミの同期会(五月三、四日、紀三井寺)をもちましたが、諸兄に

一応、大過なく勤務しています。ゼミ生も、このころは三十名が基準になり、キメ細かく指導できないのが悩みとなっております。

四月六日に清壽会第六回総会を開きました。比較的少数者の集まりとなりましたが、和気あいあいのもとに楽しいひとときを過ごしました。

世界の資本主義経済が不況の中で、いかにも日本だけが好況を謳歌しているようにみえますが、それは大企

54年卒A講座の第一回 同窓会を和歌山で開く

松原和男ゼミ

五月晴れの五月三、四日、五十四年卒業の松原和男ゼミナール(A講座)の第一回同窓会を和歌山で催した。

ゼミナール生二十名のうち、半数の十名が参加、そして松原和男先生にもご参加いただいた。

松原和男ゼミナールは、在学当時、ゼミ生間の交流を重んじ、そのための行事(ソフトボール大会・コンパ・ゼミ旅行など)も数多くあり、また、本来のゼミ活動も活発であったと自

戻してくれたうえ、快晴の日向灘では海岸まで二キロに航路を寄せたり、運転室を案内したり、極めて教育的だった。

定員九九五名の客室に一般客を含めてもたった三十人では、乗っていて会社が気の毒な気がするが、ステップをさ迷い降りてフト船艙を覗くと、そこには移出中古車が一杯詰まっていた。再建団体でも、さすがに企業会計の吃水の深さは家計の窺い知るところではない。

さて新港安謝埠頭接岸に時を合わせて船側まで迎えてくれたのは、今回も那覇交通バスだった。既に、クーラーを入れ琉大生のガイド嬢を二人も積んでいた。もともと、冬の大坂から夏を求めてやってきたわれわれだから、運転中は省エネに協力したし、当今大学生の物識らずは何処とも変わりなく、戦禍の記憶さえ世代を経て風化していた。

「沖繩で降ってもこちらは晴れる」という日和自慢の伊江島に、島民にも珍しい暴風雨が、われわれがバスで島を回ったその時間帯だけ吹き荒れた。

旅館の運ちゃん、嵐に興奮してか、日頃の基地公害の憤懣を捌かそうとてか、それともこの天候ならよ

業に当てはまることで、増税、物価の値上がり、中小企業の倒産、福祉の切り下げなど、国民にとっては決してかんばしい状態ではありません。このような状況を打ち破りうるのは国民大衆の団結した力であり、私たちは、その力の一端を担っているのだと思います。視野広く、社会の歴史的發展方向に沿って物事を考え、力強く生き抜いていけるよう期待します。

負している。卒業後も、ゼミ生間の交流を絶やさないでおこうと、卒業をひかえたゼミの時間に提案があり、定期的な同窓会を行うという決定がなされた。同窓会は、閏年(オリンピックの年)に行われることとなり、今年が第一回に当たり、その幹事役として、溝口・坂口の二人が選ばれた。

昨年の十一月頃から、ゼミ生に同窓会の日程についてのアンケート調査等々を行い、なるべく多数の方々が参加できる日を選び、今年に入って、日程を五月三、四日に決定。さらに二月中に場所を決定し、ゼミ生各自に連絡。ゼミ生から寄せられるハガキには、近況等々が書かれていて、一枚一枚何度も読み返し懐かし

もや米軍機は降りて来るまいとの賭けからか、視界ゼロの米軍滑走路を南端から北端まで真一文字にカッ飛ばした。白砂青松の名勝も本島と黒潮の展望も、バスの窓に吹きつける白雨の外に想像して島回りを終えた。それでもその夜はカラオケで機嫌よく騒いだし、また、その前夜は本部のホテルでテーブルマナーに恥かきながらも値段の割に豪華なホテル気分を満喫していたので、別れ際には「来年はフェリーで北海道へ」と、三回生は調子づいていた。

帰宅して数日後、母が突然言葉を喪った。医師に診察を仰ぐと、「どこもお悪い所はありません、痛みも苦しみもありませんから、このまま静かに休ませてあげなさい」ということで、母はそれから四昼夜半、昏々と眠り続けた。呼べば目を開き、手を握れば握り返す、ただそれだけの現世との連絡も、遂に途絶えた三月七日の午前六時半、母はもうすっかり寝飽きたとばかりに大きなあくびを二つ三つ、満足をうにゆつくりと噛みしめたあと、お腹の底から胸一杯に深呼吸をした。すると、閉じた両の目にキラキラと涙が溢れ出で、こぼれてこめかみに二条の糸となって垂れた、と見る間に、艶やかな頬

ひどい暴風雨の

伊江島巡り

稲原康雄

もお会いしたいものです。なお、小生、相変わらず多忙ですが、元気で過ごしております。

この冬のゼミ旅行は、大阪南港西埠頭から「ゴールデンオキナワ」で本島に渡り、伊江島に脚を伸ばした。四年前の「ダイヤモンドオキナワ」以来久々のご縁ながら、琉球海運は十余名ものキャンセルを快よく払い

や顔から薔薇色の生気が嘘のように消えた。恰も一瞬の汐に、砂中に、見失った桜貝の色だけが瞼の裏に消え残るように。それは算えて九十五歳の母の永眠の始まりだった。

追記

昭和五十三年二月、博多から沖繩へわたった「エメラルド・沖繩号」も琉球海運だった。山西君がパーサーから料理屋あての紹介状をもらっていたのを思い出した。

就職シーズンひかえ

ゼミOBから活

倉辻平治

①、ゼミナール近況。ゼミ生数は、三〇四年各三〇名。この人数になるとゼミナールの運営が難しく、頭を悩ましています。

②、六月半ば、ゼミ先輩で南海電鉄営業課長の松尾剛男氏が来校。就職シーズンをひかえながらいささか消極姿勢のゼミ四年生に活を入れてくれました。

さる四月、スーパーダイエーの人事担当重役に抜てきされ、マスコミ界を賑わした鈴木達郎氏は、松尾氏とゼミ同期生。両氏とも在学当時剣道三段の猛者でした。

③、例年七月初めに開催のゼミOB会の倉春会は、今年は都合で十月にもつことになりました。

「高翔会」名簿できる

高城 寛

お元気でご活躍のことと拝察しています。

最近に入ってくるゼミ生たちは小生の主観とはまったく別に、小生はどうみてもオヤジくらいにしか映らないようです。そんな「お年ごろ」になりましたが、ゼミ旅行・合宿と一応は頑張っております。

「名簿」整備の件は、多くの方のご協力を得てかなり整いました。名前もどうやら「高翔会」(コーしようかい)ということで落ち着きそうです。いずれ、その総会の席で名簿をお渡しできるのを楽しみにしております。

風雪四十年

竹林庄太郎

同窓先輩諸兄弟が各方面にわたってご活躍のこと大慶至極に存じます。

同窓生からの便り

上岡正行

異常気象が話題になる昨今ですが、同窓生の皆さん、お変わりありませんか。今回は、最近いただいた二人の同窓生のお便りを、両君にお許し願って、ご紹介を兼ねて話題としてみましよう。

一つは、昭和四十七年卒業の松山市の観光レジャー会社勤務のH君からのもので、同窓会会報で私の名前を見てペンをとった、とのことです。

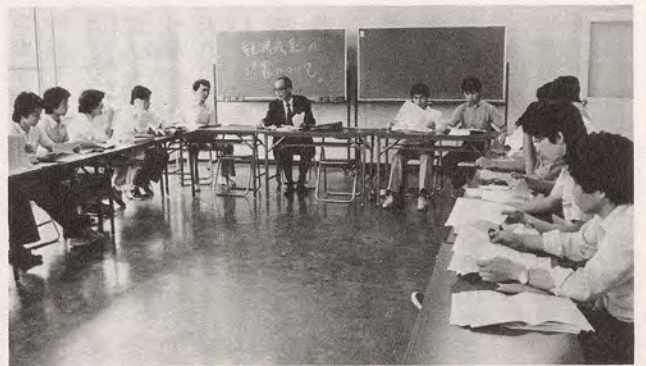
「先生にはもう、記憶がないかもしれませんが、私も先生のゼミをとらせていただきました。……卒業以来八年余りが経過致しましたが、学生時代もう少し勉強しておけばよかったです」とのべ、時たま出張の「新幹線」の車窓からキャンパスを眺めて学生時代を懐かしく思い出して「いる、というものです。」

いま一つは、今春卒業のN君からのものです。近年は毎年卒業前

にゼミ生に就職先を記載した名簿を作成するよう話していますが、卒業後、だいたい二、三カ月してから私のところへも送られてきます。今年も世話係の彼から、その名簿と共に近況を知らせる便りをいただきました。

社会人一年生の余裕のなさと理論と実際の違いによる悩みを訴え、「学生生活がいかに気楽で素晴らしいものであったかを思い知らされています。」という内容です。

皆さんから頂戴するお手紙では、右のようなが共通した内容であるといえましよう。文面からは、学生生活への懐旧の念ひとしおという感じもしないではありませんが、一年以上を経た卒業生に実際に会ってみると、学生時代とは見違えるほど頼もしい姿に、私の方では、現実の社会の中での体験とはなんと素晴らしい教育であろうかと驚いてしまうのが常なのです。



教員増対策を求める

田中健一

にもなりません。幸い、私は心身ともに健康を保ち、専らゼミ学生の育成と、変化してゆく学問に対応する勉強をしております。皆様もお元気で一層のご健闘とご健康を祈ります。

田中ゼミ卒業生ご健勝でしょうね。個人的には夏冬の挨拶状や結婚式招待等で接するのですが、OBコンパは四十七年度の初ゼミ担当後、一回のみです。もっとも、老生が四十九年七月脳溢血で二カ月近く入院前歴をもつための健康を配慮してくれてでもありません。五十四年九月以降は、遺憾ながら持病の肩こりと高血圧の不安は拭えぬため、研究面はギブ・アップながら、外面は健勝で六十四kgと体重増加し、まあ安心ですからOBコンパもOKです。でも一途に体調調整に努めおり、老生の一信条「汗し涙し血を湧かす」を生かして、夏休み中も二日一度は内外の清掃が、一時間近い散歩で汗した後の夕食ビールを楽しみおります。

次に現ゼミナールの近況を一報し

ます。

47年度―50年度間のゼミ学友を四回卒業させて後、52―53年度の二年間ゼミ指導を放棄・猶予ねがい、54年度から復活しましたが、現在四年次十二名、三年次七名と、老生の学生時代と同様、小教ゼミなのです。これも、最初から「心底からの教職員希望者十名内外」と条件づけた関係です。教職希望校種は高校(社・商)、中学校(社)はもちろんですが、これらの教員採用試験の激化をさげ、あるいは自己の個性・能力・使命感等から、小学校(通信教育一年履修後)がかなり多いのです。いずれにせよ教職オンリーなのですが、彼らの教職志向には次の二理由をあげています。

(一)経済的理由―「教員人材確保法」により、教員が他の商社員・公務員より比較的収入多。戦前の教員清貧イメージ全く払拭され、また、不況期影響から安定した収入職をとということ。

(二)人生の生き甲斐的要因―教職が専門職視され、他職のような分業・管理化された単純労働の自己疎外の職業よりも、広い自己の主体的判断・行為に基づく仕事―自己実現性の秘められた職―につき

たいという人間性回復への希求からのようです。

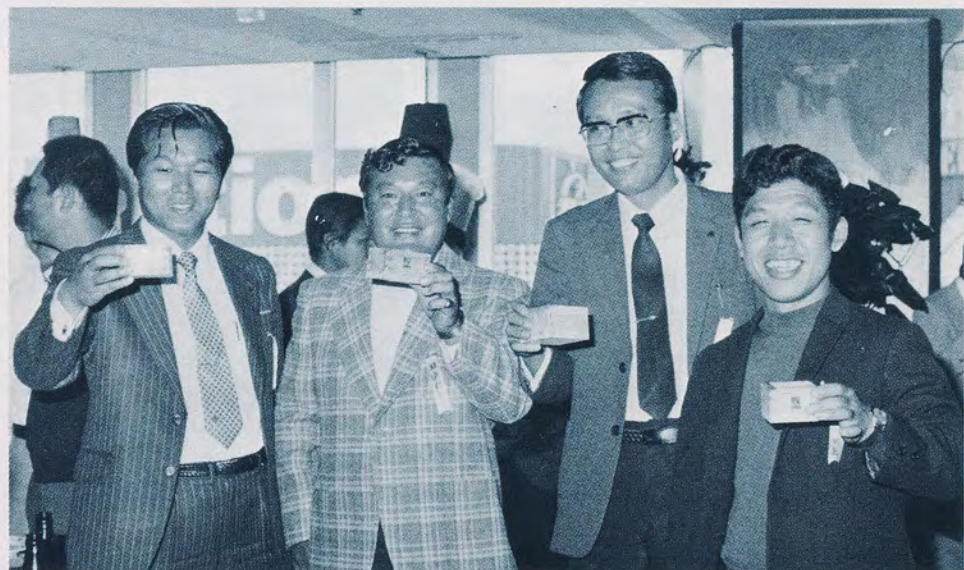
もっとも教職についても、いわゆる疎外的諸状態から逃れることはできないが、自己実現の生き甲斐的教員となるか、労働と給料の単純交換に墮すサラリーマン教師となるかは、当人の主体性いかんの問題ですが、いずれにせよ、ゼミ生諸君は教職志願に燃え、涙ぐましいほど採用試験合格へと背水の陣をはるのです

が、この激競争下、ただただ、小・中・高校教員増対策を求めるのみの現心境です。すなわち、昨今は高校への進学率九十四%を上回る一方、落ちこぼれ・非行少年の激増現象等から、当然、学級児童生徒数の削減(教員数増)を、先進諸国の学級編成なみに高める対策が講じられてしかるべきだと考えるからです。老生手元の記録によれば左の通り。

国名	初等	中等	備考
日本	(四五人)	(四五人)	
ソ連	(四)	(五)	
西独	(四)	(五十四)	(一、二の州)
仏	(五十二)	(五十四)	
英	(四)	(三)	(一六六年度)
米	(三)	(七)	オハイオ州の例、教員の一人当たり生徒数

“経大氣質”ここにあり

54年度 同窓会・懇親会盛大に開く



心に残る一つの同窓会総会



人間は過去における自己の苦しみを美化するという本質を持っている。そして、その度合が大きければ大きい程、美化度も大きく、鮮明に記憶に残るものであるといわれている。

今年も十一月三日(文化の日)、同窓会総会がレストラン・パレス(梅田・新阪急ビル12階)で開催されるが、思えば、私の記憶から一生消えることのない総会の一つは、昭和二十九年十一月二十一日、母校で開催されたそれである。

昭和二十三年から開通した市バスが沿道の民家(といっても数える程しかなかったが)の屋根を真白にする程の砂煙りをまきあげて、ガタガタと走る。女の車掌さんの「大阪経大前(現在のミリオンマートの信号のところ)」という声で下車。今はなき鉄柵のある橋を渡り、懐しい母校の通用門をくぐる。学生時代の気分が心の中を走り、なんとなくわくわ

くしてくる。支那経済研究所(現大学習館)、雨天体操場テニスコート(現体育館)を右に見て突きあたりの受付(現第二教員控室)へ。ハガキと引換えに神戸屋のサンドウィッチと記念品(毎年変わるがこの年は花瓶であった)をもらい、二階の講堂(現26・27・28号教室)へと歩を運ぶ。入口でビールかジュースを一本受取り会場に入る。卒業回数を表示する立札が、長机に白い布をかけたテーブル?に立てられている。そこには、ピーナツ、おかし、さきすめなどが盛りられている皿を前に懐しい顔が待っている。

総会で議案審議が行なわれ、その後は、学生の演技をみながらの懇親会、話に話が咲く。これだけならば、通常の総会と大差がない。

この日の総会が、なぜ、忘れ得ないものであるかといえは、それは、この総会において、永年懸案になっ

ていた二十七カ条からなる「同窓会会則」が提案され、また、昭和二十四年八月に組織された総務、企画、編輯の三部制が、総務、会計、編輯、監査という、同窓会としての基盤が確立され、総会で可決承認されたからである。

さらに、昨年はテイチク製作のレコード(五〇〇円)という立派なものになったが、当時の世良総務部長(現会長)の提案による総会参加の記念品(当時は一〇〇円程度)は、名刺入、灰皿、花瓶、ふろしき、タンブラーなどと姿を変えたが、これが今日まで定着する基盤も確立されたということである。

今日、これらが私の心の中で美化されていることは、やはりその当時は相当苦しかったのであろうか、と、ふと考えることがある。

事務局長 比企重

大阪経済大学同窓会総会



硬式野球部が関西六大学入り



永年の念願であった関西六大学リーグ入りを果たした戦績をふりかえって、ともに喜びを味わうとともに、関係者一同に謝意を表し、今後の活躍を祈念したいと思います。

◇まず、近畿大学リーグ首位決定戦において、13-4という大差で阪南大学に快勝した。

◇次に、阪神大学リーグ優勝戦、大阪学院大学と六月三、四日、日生球場で戦い、3-2、3-2のストリート勝ちをおさめ、余勢をかって、六月十、十一、十二日、西京極で京滋大学リーグ優勝校京都産業大学を、5-4、0-1、2-1、と二勝一敗でくだし関西六大学入替戦出場権を獲得した。

◇そして、六月十四、十五、十六日、西京極球場で行われた神戸学院大学との関六入替戦においては、2-0、2-3、8-4と二勝一敗の成績をおさめて、ついに、本年から関西六大学リーグの一校として活躍することができるようになった。

写真は報知新聞社提供



各方面で活躍中です

学術・芸術・体育会・独立総部

頑張ってます

体育会本部

〈本部主催による行事〉

- 4月9～10日 新入生歓迎演武祭
- 6月2～9日 第16回淀都5大学総合定期戦(総合優勝)。
- 6月25～26日 フレッシュユマン・キャンプ(於・高石市羽衣青少年センター)。
- 7月3日 事故防止会議
- 7月9～15日 本部夏期合宿(於・長崎五島列島)。
- 10月10日 「経大スポーツ」発行
- 10月12日 体育会総会
- 10月31日～11月5日 大樟祭
- 11月1～2日 球技祭
- 11月5日 一般競技祭(スポーツ)

祭。

2月21日 本部春期合宿

〈空手道部〉

- 全関西個人選手権大会、安田(4)
- ベスト16、西日本学生空手道選手権大会(団体)ベスト16、全関西学生空手道選手権大会(団体)3位、
- 〈日本拳法部〉
- 関西学生拳法選手権大会(団体)4位、全日本学生拳法選手権大会(団体)ベスト8、全日本個人王座選手権大会、稲垣(4)5位。

〈柔道部〉

- 関西学生柔道選手権大会(団体)ベスト8、
- 〈剣道部〉

- 関西女子学生剣道優勝大会(団体)3位、大阪府剣道優勝大会(団体)優勝

勝、関西学生剣道優勝大会(団体)ベスト8。

〈合気道部〉

- 関西学生合気道連盟演武大会出場
- 全国学生合気道演武大会出場



〈硬式野球部〉

- 近畿大学硬式野球春季リーグ(1部)4位、秋季リーグ優勝、近畿・阪神・京滋3リーグ首位決定戦出場
- 〈準硬式野球部〉
- 近畿6大学準硬式野球春季リーグ優勝、近畿大会準優勝、全日本大学準硬式野球大会出場。秋季リーグ2位。

〈軟式庭球部〉

- 関西学生春季リーグ戦(4部)優勝、全日本学生庭球選手権大会、岡野(4)出場、関西学生春季庭球トーナメント(個人)岡野(4)
- 〈軟式庭球部〉
- 大阪学生軟式庭球大学チーム対抗大会(団体)優勝、西日本大学対抗軟式庭球選手権大会(団体)ベスト8、

今回、母校硬式野球部が開西六大学リーグへ昇格しました。誠に快挙であり、現役はもちろんのことOBならびに関係者一同、大変喜んでおります。



母校を思う心

硬式野球部監督

内田 茂

(34)

(電電公社勤務)

しかし、それ以上に驚いたことは、全国に散在しておられる野球に直接関係のない一般同窓生の方々の反響であります。祝電あり、電話あり、そして手紙ありで、嬉しいお祝いの

メッセージをいただいたことであります。

野球というスポーツの性格からしての影響大も当然かもしれません、要は野球というスポーツを通じて懐

かしい母校を、また、諸先生方を、そして一緒に学んだ、また遊んだ学友を思い出していただいたということとであり、あわせて、お仕事の励みの一助になったということではない

かと思われま。

そう思えば、何か胸にジーンとくるものがあり、別の責任感が湧き、頑張らねばと思う気持ちで一杯です。これも永年にわたり、精神的、技術的に基礎作りをしていただいた現中島総監督(2回)のお陰であり、監督就任早々にこのような立場におかれた私は幸せであります。

今後とも、全国の皆様の一層のご活躍をお祈りしますとともに、寄せられた激励に対し厚くお礼申しあげます。

頑張ります!!

大会6位、全日本学生サイクルサッカー選手権大会5位、関西学生自転車競技大会総合7位。

△アイススケート部▽
日本学生ショートトラックスビードスケート競技大会総合10位、関西学生氷上競技選手権大会総合5位。

△ゴルフ▽
関西学生インターカレッジトーナメント(団体)総合10位、関西学生春季2部校リーグ戦5位、秋季2部校6位。

△競技スキー部▽
全関西スキー選手権大会(2部)総合14位。

△カヌー部▽
大阪学生カヌー選手権大会総合2位、全日本学生カヌー選手権大会9位、関西学生カヌー選手権大会5位。

△自動車部▽
全日本学生自動車整備技術選手権大会43位、全関西学生自動車運転技術競技会11位。

△ヨット部▽
関西学生ヨット個人戦(470級)総合2位、全日本学生ヨット選手権大会(470級)総合6位、関西インターカレッジヨット選手権大会総合5位。

△洋弓部▽
春季関西学生アーチェリーリーグ(3部)3位、大阪府アーチェリー選手権大会、清水(4)24位、関西学生アーチェリー選手権大会、橋(3)

△陸上競技部▽
大阪学生陸上競技対抗選手権(トラック)3位、関西学生対抗駅伝競走大会6位、関西学生陸上競技対抗選手権大会(1部)(トラック)4位、(バドミントン部)▽
大阪学生バドミントン選手権大会(団体)優勝、(個人)田島(4)2位、西日本学生バドミントン選手権大会(団体)優勝、全関西学生バドミントン選手権大会(ダブルス)田島岡田(4)ベスト8。

△自転車部▽
関西学生サイクルサッカー選手権

△バスケットボール部▽
全関西学生バスケットボール選手権大会ベスト16、西日本学生バスケットボール選手権大会ベスト32、下部リーグ決勝リーグ2位。

△バレーボール部▽
西日本学生バレーボール大会ベスト16、関西学生バレーボール春季リーグ(2部)4位、秋季リーグ7位、2部・3部入替戦で3部降格。

△ボクシング部▽
近畿地区大学ボクシングリーグ戦(4部)5位、近畿学生ボクシングトーナメント戦ベスト6。

△ハンドボール部▽
西大学ラグビーAリーグ戦3位。

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

△卓球部▽
関西学生卓球春季リーグ(1部)5位、秋季リーグ5位、全日本大学対抗卓球大会(団体)ベスト24、

6月20日 第11回定期演奏会開催
7月14日 愛知大学吹奏楽団と第9回交歓演奏会を開催

10月10日 御堂筋カーニバルパレードに参加演奏(御堂筋大阪球場)

10月18日 応援団演舞祭に参加(森の宮青少年会館文化ホール)

10月20日 大阪タイヤモンドシティ・カーニバルパレードに参加演奏

10月31日 11月5日 大樟祭

11月10日 毎日新聞社主催社会人野球閉会式に出演(阪神甲子園球場)

12月1日 ウィンターコンサートに出演(森の宮ビロテイホール)

3月8日 10日 関西学生吹奏楽連盟リーグスキップに参加

3月26日 27日 京都産業大学と合同練習に参加(京都産業大学内)

3月29日 卒業式演奏

△ゼミナール協議会▽
(学内)

6月5日 代議員総会実施

11月 大樟祭参加講演(藤田敏三先生)▽代議員総会実施▽ゼミ説明会実施

(学外)
4月 第1回加盟校会議(関西プロック)

5月 第1回テーマ設定会議▽第2回加盟校会議

6月 第2回テーマ設定会議

7月 リーグスキップ

10月 第3回加盟校会議

10月26日 28日 第17回近畿大学大



会参加、大会までの論文の集約等を集め発送
(インター)

4月 第1回理事校会議

5月 第1回テーマ設定会議▽第2回理事校会議

10月 論文提出

11月 第3回理事校会議

12月20日 22日 第2回関西大学大会参加

△ワンダーフォーゲル部▽
4月2日 4日 第3次リーグー養成実施(京都・北山)

4月11日 部員総会開催(成毛氏より西山主将へ)

4月29日 30日 第1次新人養成実施(淀川河川敷)

5月8日 大淀三大学顔合わせに参加(大阪工業大学)

5月11日 13日 第2次新人養成実施(京都・北山)

11月 定期演奏会開催

△落語研究会▽
4月 新入生歓迎寄席実施

6月 大樟寄席開催(森ノ宮青少年会館小ホール)

10月 ふれっしゅ寄席開催

11月 経大上方落語会開催

△本部主催による活動▽
4月 新入生歓迎祭

学術会

- 5月 春季学術会総会開催▽第19回学内定期討論会実行委結成
- 6月 第19回学内定期討論会実施
- 7月 第32回大樟祭実行委結成
- 10月 第32回大樟祭講演シンポジウム祭
- △社会科学研究部▽
5月 資本論、経済学の研究実施
- 8月 夏期合宿
- 10月 機関誌「探究」の発行
- 11月 研究、討論活動実施
- 2月 春期合宿

芸術会

- △本部主催による行事▽
4月 新入生歓迎祭
- 6月 ミュージック・フェスティバルを挙行政(森の宮青少年会館文化ホール)▽こくつぶしの夕べを挙行政
- 9月 リーグスキップ実施
- 2月 リーグスキップ実施
- △軽音楽部▽
5月 ライト・ミュージック・コンサート開催
- 11月 同窓会総会に参加演奏
- △演劇研究部▽
8月 地方公演
- 12月 定期公演開催

△写真部▽
4月 新入生歓迎展

6月 OB例会

11月 部展開催(ビルゼンギャラリー)

12月 卒業生展開催(心斎橋ギャラリー)

△映画研究部▽
4月 新入生歓迎シネマ・フェスティバルを挙行政

10月 シネマ・フェスティバルを挙行政

11月 幹部交代シネマ・フェスティバルを挙行政

△グリークラブ▽
6月 ジョイント・コンサート開催(毎日ホール)

10月 関西合唱コンクール開催

11月 同窓会総会に参加

12月 定期演奏会開催

△美術研究部▽
5月 部展開催(国道画廊)

6月 回生展開催

11月 部展開催(国道画廊)

12月 卒業生展開催

△吟詠部▽
6月 岡山大学・大阪経済大学交歓吟詠発表大会に参加(学館ホール)

10月 日本大学総長杯争奪詩吟大会に参加(日本大学)▽学内吟詠発表大会実施

△茶道部▽
7月 部内茶事

11月 単独茶会開催



△部活研究会▽

5月 狭山差別裁判糾弾中央集会

8月 夏期合宿

10月 狭山差別裁判糾弾中央集会

△経営経済研究部▽
5月 日本学生経営学会春期西部部会参加

8月 夏期合宿

11月 日本学生経営学会参加

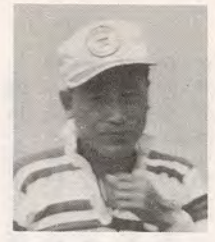
12月 関西4私学経営学会参加▽第23回3校討論会参加

△簿記会計研究部▽
5月 第26回関西学生会計研究会参加▽第23回3校討論会参加

7月 第26回全日本学生会計学研究会参加

心で駆けるグラウンド

柴田秀一 (8)



闘志をむき出しにしたグラウンドでの激しいぶつかり合い、試合後のさわやかな交歓、まさにラグビーの醍醐味である。
ラグビーとの出会いは、昭和十四年昭和高校に入学した時にさかのぼる。まさにラグビー一筋の高商時代であった。当時の同期生は若狭勝海(十八年海軍少尉で台湾で戦死)、足立武敏(アトスベース(株)会長)、石村清(旧川端、淡路米穀社長)の四人であった。足立、川端両君とはラ

事に、昭和五十四年から協合理事長に就任させられ、母校だけでなく、中学、高校、大学、社会人、クラブの世話をさせられ今日に至っている。このようにラグビーと永いつき合いを続けている私だが、昭和四十四

年に試合で負傷、腰を手術して「もうあかんわい」と思ったが、ラグビースクールの子供達と一緒に走りだしたら意外と足が軽いので、「まだいける」という助平根性が出て、またやる気を出す。家では「いい年してやめて。しまいは……」と家内、子供からいわれる。

今となつては体力的にもかつてのようにはプレー出来ないのが残念。ただ心だけはいつもグラウンドを駆け回っているつもりである。若き日の情熱をこめたあの円形のボールをかかえて……

勤務先 日機装置(株)社長
関西ラグビーフットボール協会理事
大阪ラグビーフットボール協会理事長
大阪経済大学ラグビー部OB会長

九州の片田舎在住の小生に、ようこそお便り下され誠に有難うございました。

幾多の曲折と、長い年月をけみし成長して来た大学の今日の隆昌を心から喜び、今後なお一層の発展を祈念するものであります。高商設立当時の実情を一番よく知る私どもにとつては、誠に感慨深いものがあります。

それでは、お言葉に甘えまして、とりとめもない懐古録でも書くことにいたします。

一、二年に一回は私用で東京する機会がありますが、新幹線の列車が新大阪駅を発車すると、すぐ右車窓に流れて行く街の風景を凝視します。ほんの瞬時ではあるが、

ヤル気起こさせた上新庄移転

大坪光雄 (1)

あの上新庄の近く、その昔、芦そよく清き流れにそって、母校の方面に通じていた思い出多い瑞光寺横の大通りと、母校の姿が懐かしく目にとびこんできます。古色蒼然としていた瑞光寺の石の太鼓橋はまだ保存されているだろうか。ひよろひよろとしていた松の並木はどうなつたのだろうか。そんなことを思いながら旅をいたします。

現地永住を決意する。やがて歴史的な激動の時代に突入した。昭和十一年現役兵として陸軍に入隊。現代の若人達には当時のわれわれの胸中はおおよそ理解されないことと思いますが、克苦勉勵の果て、甲種幹候をパスし、青年将校として胸を張った時代もあります。戦線は拡大し、昭和十六年より十九年まで召集され、外地で小、中隊長として軍務に励んだが、みじめな敗戦を迎え、二十年秋、傷心の姿で故国に帰る。その後、国鉄に再就職し、昭和四十四年田舎駅長を最後に定年退職す。ついで国鉄関係のジャパン・エキスプレス社に勤務の後、五十四年末で会社勤務を終わりました。現在、郷里佐賀市の貸ビル会社に自由勤務で経理事務を担当し、晴耕雨読という現況です。

最後に、当時のことを回想してすこし書かせて下さい。古い話になりますが……

昭和七年瓦町仮校舎に入学。ついで八年阪神沿線野田仮校舎へ、そして九年に待望の上新庄本校舎へ移転したわれわれ学生は、初め



てホツといたし、勉強への希望と学生のプライドを満たしつないでくれました。それと同時に、若い力は必ずスポーツにその情熱を発散させるものです。二年生の後半から数人の同志が集まり、ラグビーの楯田球を持ち近くの空き地で走り回っては気を晴らしていましたが、新校舎に移転と同時に本格的に部結成と取り組み、部長の佐伯先生

を中心として上級生であった私、豊田山口の諸兄と計り、鋭意部員募集に努力した結果、浪商やその他中学で経験したラグビーや、元気な同好の士があいついで集まり、十五名のメンバーも十分揃うようになりました。そして新校舎の東側、川沿いの新しい赤土のグラウンドで夕方おそくまで、どろんこになりながら練習に汗を流したものです。

気心の合った連中はばかりでしたので、実りある練習ができ、また夏休み後半には奈良のグラウンドで強化合宿などやり、学生生活の最後のページを飾ることができました。高専大会では花園ラグビー場で天理外語と対戦し二十数点対三の大差で敗れましたが、終生忘れ得ない懐かしい思い出となりました。

ちなみに同窓会名簿から当時の部員の名前を拾いますと、二回生では、伊東、木原(広島)、寺本、山田の諸君、三回生では下川、杉田、小松?の諸君の名前が遠い記

憶からよみがえります。三年の学生生活を通じ起居苦楽とともに、一番頼りにしていた豊田(真)兄は戦死の由、二十名あまりいた部員の半数は戦死を含む物故者の方です。歳月の流れには抗しがたき限りです。

そのほか第一回生では当時浪曲をうなり人気があった広田兄や宇野、豊田、内田の諸兄、第二回生では野球で知られた中島兄がまだ健在で活躍の由、誠に喜ばしいことです。遠い思い出に残る諸兄達よ、今後ともなにとぞ健康に留意され、残されたこれからの人生を有意義にエンジョイされますよう、そして母校の発展を見守って行きたいと思えます。

余談ですが、秋のシーズンになりますと、経大ラグビー部の活躍を新聞紙上でいつも見て期待しております。心から後輩の奮闘を祈っております。

ナ1参加

11月 関西証券学生連盟秋期セミナー参加▽東京経済大学交歓会実施

△速記研究会▽
5月 第36回全日本大学速記競技大会支部交歓会参加

8月 支部リーグ1スキャン参加

10月 新人戦参加

12月 第37回全日本大学速記競技大会参加

△英文タイプ部▽
5月 検定試験参加

8月 夏期合宿

11月 検定試験参加

△珠算研究会▽
5月 関西学生珠算連盟主催競技大会参加

6月 全日本学生珠算連盟リーグ1スキャン参加

7月 関西学生珠算連盟リーグ1スキャン参加

8月 夏期合宿

11月 関西学生珠算連盟主催競技大会参加

12月 全日本学生珠算連盟リーグ1スキャン参加

△将棋部▽
4月 春期一軍戦参加

5月 春期二軍戦参加▽個人戦参加

6月 学生名人戦参加

8月 夏期合宿

10月 一軍、二軍戦参加

11月 個人戦参加

△広告研究部▽
5月 春期広告展実施

8月 夏期合宿

11月 秋期広告展実施

△ユースホステル研究会▽
5月 新入生歓迎ホステリング

6月 野活研究会(2週)

8月 夏期合宿

10月 ホステリング実施

2月 ホステリング実施

△社会福祉研究同好会▽
5月 豊里学園カーニバル参加

▽青い麦の子運動会参加▽介護活動実施

7月 ワークキャンプ実施

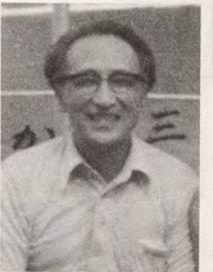
△英語研究会▽
△法学研究会▽
△文学研究会▽
△朝鮮文化研究会▽
△囲碁部▽
△ロシア語文化研究会▽
△唯物論研究会▽
△神学研究会▽

* *
このほかにアルバム委員会、アマチュア無線研究会、鉄道研究会、グイピング愛好会、日本美探求会、航空研究会、釣研究会、郊外散策サークル、旅行研究会、アメリカ民謡研究会、ハイキング愛好会、科学研究会、ソフトボール愛好会などがあり、それぞれが青春を謳歌している。

一九三〇年代への断章

文化と政治

山本晴義 教授



一、ナチスの犯罪

政治と文化とのかかわりが、世界の文化の発展にとってどれほどかけがえない影響をあたえるかについては、いまだら強調するまでもないことであろう。最近、論壇において一九三〇年代が現在との関連で、とりわけ論議の対象になるのもそのゆえである。ピーター・ゲイは「アメリカのニューイングランドは、イギリスからの移民によって作られ、彼らは荒野を文明にかえた。しかし、これらの移民たちは、一九三三年初めナチスが政権をとるとともに始まった大量脱出に比べると、もの数ではない。ヒトラーが作り出した亡命者たちは、世界がかつてみたこと

がないような知識人、才能ある人びとや学者たちの最大の移住集団であった。」と書いている。アインシュタイン、フロイト、カッシーラー、ケルゼン、レーデラー、マンハイム、テイリーリッヒ、トーマス・マンやブレヒト……、三〇年代から四〇年代初めにかけて、ヨーロッパからアメリカに移住もしくは亡命した知識人は大体一万五千人前後と目されている。このことによって事実、かつてドイツ文化が保持してきた世界の指導的活動は停止し、それは今日でもいまだ回復されていない。

だがナチスの狂気が、どれほど人類の文化を破壊したかについては今ではもう多くの人びとによって語りつくされている。ここではピーター・

ゲイのほかにスチュアート・ヒュー

ズの三部作『意識と社会』『ふさがれた道』『大変貌』（みすず書房）、ローラ・フェルミラの『亡命の現代史』（六巻、みすず書房）、それにジェルジ・ルカーチ『理性の破壊』（白水社）をあげるだけで十分であろう。むしろ私の関心はナチスの迫害からのがれて社会主義国ソ連国境を越えようとした反ファシスト運動家やユダヤ人に対してスターリンが行った、ロシア文化のすぐれた伝統や人類の文化に対する裏切りである。

二、スターリンの犯罪

たしかに二〇年代、ロシア革命によって解放された人民大衆のエネルギーは人文、社会、自然のあらゆる

文化の領域において開花した。それはまさにソウエト・ルネサンスと呼ばれるにふさわしかった。例えば、世界のマルクス、エンゲルスの研究に、はかり知れない貢献をした『マルクス・エンゲルス全集』MEGA（わが国で戦前刊行された改造社版全集も独自の編集方針をとりながら基本的にこれにもとづいている）の編集にはじめてのりだしたタウイド・リヤザノフは革命前の亡命時代からドイツ社会民主党の指導者たちと親交があり、のちの西欧マルクス主義の出発点となる『ゲルユンベルク・アルヒーフ』（一九二一—三〇、

一九二三年設立されたフランクフルト大学の「社会研究所」の初代所長カール・グリユンベルクが出した雑誌『社会主義と労働運動の歴史紀要』の（こと）にもルカーチ、カール・コルシユや第二代目所長になり、実質上「フランクフルト学派」の指導者になったマックス・ホルクハイマーらとともにいく度か寄稿していた。革命後モスクワに設立（一九二二年）された「マルクス・エンゲルス研究所」の初代所長になったリヤザノフはドイツをたびたび訪問しマルクス・エンゲルス関係の資料の購入、そのころドイツ社会民主党のアルヒーフ

（資料館）に集まっていた両者の全遺稿の写真コピーの収集、その出版の権利契約をドイツ社会民主党から得た。こうして二七年から全集の発行を開始したのであった。

しかしそのころソ連ではレーニンの「遺言」を無視したスターリンによって党内闘争は激化し、トロツキやジノヴィエフらスターリンの政治的ライバルは、相互の意見の相違を行政的手段でもって抹殺されつつあった。二九年スターリンは例の「社会主義における階級闘争激化論」を唱えてブハーリンを追放し、さらには当時においては、まず、なをいっても台頭しつつあったファシズムに対抗して、彼らとの広汎な統一戦線結成のために全力を傾注すべきであった社会主義者、とりわけ、その左派に対して、彼らを「社会ファシズム」と規定したのであった。一九三〇年代実質上スターリンはほとんど無限の権力をにぎり文化に対する露骨な行政的抑圧をはじめた。二〇年代頭初からスターリンに対して批判的であったリヤザノフは三一年「社会民主党、メンシエウイキ全団ビューロー」事件に引っかけられ、「党の裏切り者」として、マルクス・エンゲルス研究所」所長の職を解か

れ、彼による全集発行は、彼のきわだった才能をしめす六冊で打ち切られた。

哲学界に対してもスターリンの主観的、恣意的な政治的介入（正確には三〇年十二月九日）が行われた。これ以後、二〇年代をつうじて自然科学者やブハーリンらの「機械論グループ」とデポリーン派との、デポリーン派とミーチン派との、あるいはデポリーン派と西欧マルクス主義派ルカーチやコルシユとの間に行われてきた、華々しい哲学論争も終息し、スターリンの超セクテリな政治主義的断罪は、ミーチン派によってブハーリン派、デポリーン派、西欧マルクス主義派—フランクフルト学派これらすべてを「社会ファシスト」あるいはその傾向をもたらしものとして圧殺した。もっともこのことはブハーリンにもデポリーンにも、また

西欧マルクス主義者の思想に基本的な誤りがあったこと、ミーチン派の哲学体系はスターリンの哲学体系と必ずしも同じでなく、よりすぐれていたことは事実である。しかしその後、「粛清」の過程で、例のフルシチヨフによる「スターリン批判」にいたるまで、ソ連の哲学界は、スターリン賛美の卑屈な枕詞をならべたて





た、卑俗なスターリンの哲学の解説書以外存在しなくなった。一九二九年末から四五年までソ連に亡命していたルカーチは、名著『若きヘーゲル』(白水社)と『理性の破壊』をスターリン時代の最盛期に執筆したが、出版したのは四五年、解放された母国ハンガリーに帰国した後、前者執筆完成は一九三八年、一九四八年、後者は一九五四年になってからであった。

三、亡命の悲劇

一九三三年冬ナチスが政権を掌握したとき、ユダヤ系左翼グループと目されていた前述のフランクフルト「社会研究所」は、たちまちナチス突撃隊の襲撃をうけ、蔵書を焼かれ閉鎖された。もともと「研究所」のメンバーにはウイトフォーゲル、ボルケナウ、ユリアン・グンベルツのようなコミンテルン系の活動家があり、所長のホルクハイマーも一九三四年の頃でさえスターリンのソ連社会主義にたいして、いまだ「ヒューマニズム的社会主義」の可能性を信じていた。だが、その希望も、かのリヤゾノフ(彼は二、三年後には追放される運命にあったのだ)によって一九二七年の「ロシア革命一〇周年」

に招かれた「研究所」員フリードリヒ・ポロツクのソ連に対する疑惑とそれにつづく「粛清」事件によって崩れさり、さらにはつぎつぎとヨーロッパを席巻していったドイツ・ファシズムに対する彼らの誤算が、結局アメリカを残された唯一の可能な国にしたのであった。

ジュネーヴからパリと転々とした「研究所」は、ついにニューヨーク市に本部を移し、三四年から所員のアメリカ亡命が始まる。だがアメリカのマーティン・ジェイが述べているように、コロンビア大学の客員教授として迎えられたホルクハイマーは別として、他のメンバーの生活は苦難に充ちたものであった。ヴァルター・ベンヤミンはホルクハイマーから送られたアメリカ行きヴィザを手にしなからヒレネーを越えようとして、スペイン国境で足止めされ山麓の小村で自殺する。一九四一年、一〇年にわたって発刊されてきた機関誌『社会研究』も遂に廃刊され、メンバーも四散し、フランクフルト学派の灯は、わずかに大戦末期ロスアンゼルスに籠ったホルクハイマーとテオドーア・アドルノによって守られていた。しかしここではホルクハイマーの思想は、もはやかつての

突鋭な社会批判、実践的ラディカリズムをうしない、諦念と近代文明へのペシミズムの影を色濃くおとしてゆくのである。

四、三〇年代と現在

一九三〇年代の良心的な知識人の悲劇は、ドイツ・ファシズムの側からと、スターリン体制の側からと、つまり腹背に矢をうけたことにあった。もつとも私がこの断章で言おうとしたのは、最近の反ソ連ブームにのっかって、ファシズムとソ連を同一地平でとらえようとしたら、ソヴェト社会主義をスターリン主義と同一地平でとらえようとしたのでは無い。私が言おうとしているのは、民主主義の喪失が、官僚主義の支配が、そして戦争が、いかに自国のすばらしい文化の伝統を、人類の文化の交流と、豊かな発展を退化させ、破壊してしまふものであるかを、一九三〇年代の無限の悲劇のなかの断片をとおして警鐘を打ちただけである。

もしもナチスの狂気による文化の殺戮と「亡命の現代史」がなかったら、もしもスターリンの異常な権威主義によるソヴェト・ルネサンスへの介入と、独善的な「社会ファシズ

不生不滅

教授 北里武三

無老死 亦無走 死盡 武三焚香敬書

近衛家熙卿の般若心経の字を做つたのです。私はいつか自分を宇宙だと思つようになりなりました。私の全身のどの部分でも宇宙の要素でないものはないのです。私は宇宙から生まれ、死んでも宇宙になるのです。まさに般若心経にいう不生不滅です。本当にそう思いこんでいます。だから本来老死なんてないんです。涅槃とは輪廻転生を離れることだという仏教者があります。私は涅槃とは自分が宇宙と一如だと悟り切るのだと思

っています。そして私はむしろ輪廻転生したいのです。亡き父母にもいろいろなつかしい人達にも、親しんだ犬や猫にも会いたいです。生まれかわってまた相会うのだという思いこそ、生きてよし、死するまたよしという私の最近の死生観につながるのです。本来老死はない、しかし宇宙の永劫の現象として老死は尽きません。私は般若心経のこの句を、古来の高僧禪師にもないこんな解釈をして、好きなんです。

ム論」がなかったら、もしもヨーロッパの良心的な反ファシズム主義者に対する協力が広汎に行われていたら、どれほど人類の文化の発展のテンポの様相が変わっていたことであろうか。

ノアの洪水さえ

永久に続きはしなかった

あの黒い濁水も

一度はひいていった

ブレヒト

注 (1) ヒーター・ゲイ『ワイマール文化』(みすず書房六頁)。(2) 一九六六年、この復刻版が Char Austria で刊行された。(3) この辺の事情については杉原四郎『MEGA』(社会思想社)、『社会思想社所収』小島恒久『マルクス遺稿をめぐって』(マルクス・エンゲルス紀行法律文化社所収)など参照されたい。(4) 『大会への手紙』(レーニン全集第三十六巻、大月書店所収)。(5) 『ソ同盟共産党内の右翼的偏向について』(『スターリン全集』第十二巻、大月書店所収)。(6) 同。(7) この事件の詳細な経過についてはロイ・メドヴェージェフ『共産主義とは何か』(二書房、上巻)を参照されたい。(8) この興味ある論争については池田浩士編訳『論争・歴史と階級意識』(河出書房新社)を参照されたい。(9) このスターリンの「介入」は介入前のミーチン派の論文「哲学戦線における情勢についての決議」一九三〇年十月十四日(『デボリン派』批判のために)、『白揚社所収』と、介入後のミーチンの「哲学論争の総決算と反宗教的宣伝」一九三一年一月一日(『ソヴェト哲学の発展』青木文庫所収)を対比すれば明白である。(10) この問題については拙著『増補・若きマルクスとその批判者たち』(福村出版)第三章を参照されたい。(11) この「研究所」の歴史についてはマーティン・ジェイ『弁証法的想像力』(みすず書房)、『アルフレート・シュミット』(フランクフルト学派)、『青土社』清水多吉『一九三〇年代の光と影』(河出書房新社)等参照。(12) H. Reagus, 'Dämmerung', pp. 152-153.

帰国後も鮮明な英国の魅力

ロンドンの印象

教授 松村幸一

昨年の四月はじめ、ロンドンに着いての第一印象は、何と汚い街だろうということであった。地下鉄の駅から下宿に向かう街角にうず高く積まれたごみ袋の山が、いつまでもそのままになっている。一年前から滞在している友人の話では、ごみ運搬人組合がストを続けているせいだという。地下鉄には喫煙車両と禁煙車両とがあつて、喫煙車両には灰皿がないから、吸殻が散乱してきたらしい。

あるイギリス婦人にロンドンの印象を問われてこのことを話すと、彼女は、ロンドンには美しいところもありますよという。いわれてみるとなるほどそのとおり、さきほどのごみ袋の横町を入ったところに公園があつて、冬でも青々とした広い芝生に、初夏から秋にかけて色あざやかなバラの花が咲き、樹齢を重ねた大木を上がりおりするリスが目を楽しませてくれる。リージェンツ・パー

クやハイド・パークなどの巨大な公園はいうにおよばず、ちよつとした街の行くさきさきぎに大小の公園と緑のあるのが羨ましい。

人についてまず気のついたことは、言葉づかい、態度がていねいだということである。サンキュー、プリーズ、ソリー、エクスキューズ・ミー

喚ぶ声満つ

蝶

気狂うて蝶のとびゆく空を断つ障子たちまち閉ざされにけり
手のひらに蝶のからだはつつまれてゆうべ静かに死にゆくさまよ

黒曜の羽もつ蝶にピンを刺すわが背ふかぶかがまわりおらむ

落花

白き蝶地にゆくまでのいのちかも桜花びら息づくあわれ

蜻蛉

山の池に昼を静けくたまご生む蜻蛉のしぐさ淋し一生は
幾世代山の池にて生れにしかとんぼの愛のかたち清けし

青年

乱れたる世にしありせば深酔いの喚び声たて身をば忘ると

ただだに学べといえど乱れたる世にあるものくるしみをいう

核兵器廃絶と書く炎天の平和行進に君のゼッケン

松本 剛

程度の英語を知っていれば、日常生活に不自由しない、というのは冗談半分の話だが、それほどこれらの言葉は始終イギリス人の口について出ている。

地下鉄の切符売場で観察していると、切符を買う人はきまつて行先を告げたあとにプリーズとつけ加える。英語を使うにはまず真似をするに限ると思つて、たとえば大英博物館に行くとするば、「トナム・コート・ロード・プリーズ」とやるのだが、なれないとこのプリーズがすらすらと出てこない。日本語にこうした便利な表現がないせいであるが、かれ

らの言葉を聞いてみると、ただ一つの単語のあるなしで、日本語的表現がいかにぶつきらばうに聞こえる。人ごみや地下鉄の中で、ほんの肩がふれあう程度のことでもすぐにソリーという言葉がかえってくる。店で買い物をした人が品物を受け取る時にサンキュー、レストランで食事をすると人が料理の運ばれてきた時にサンキュー、これに対して店員もサンキュー、ウエートレスがサンキュー。万事がこの調子だからいさかいがおこるわけがなく、たいへん気持ちがいい。

日本では国鉄の切符売場でつっけんどんな応対をされ、いっせ自動販売機は相手が人間でないだけに不愉快な思いをせずすむと思つたことが何度かある。ロンドンでは国鉄の駅に自動販売機はなく、地下鉄の駅にあることはあるが、日本のように釣り銭の出る機械ではない、この点、産業革命の祖国イギリスも今日では日本よりおくられている。そのかわり人と人との対話にあたたかみがあつて、一年をつうじ、ロンドンでも地方でも、人と接してついで不愉快な思いをしたことがない。

ロンドン大学の歴史研究所でよく雑誌論文などのコピーをとつた。受



アルト・ハイデルベルク

倉辻平治

Gaudernus 'gitur, …… プラー
ムスの大学祝典序曲歌詞の最初の
一句である。ドイツ中世以来の太
学の学生歌としてよく唱われたと
いうこのラテン語の歌詞とメロデ
ィーに私をはじめ接したのは、
半世紀以上の昔である。

昭和三年春、中学四年を終えて、
旧制大阪高等学校（現阪大）の入
学試験を受けに行ったおりのこと、
試験の前日親類の小母さんが、道
頓堀松竹座上演中の若き日の岡
田嘉子・竹内良一座を観に連れ

もまた、永遠に残る青春時代の想
い出を刻んでくれた。私が後年、
藤田敬三先生のご指導で、大学都
市ハイデルベルク最盛期の神話的
存在といわれたマックス・ウェー
バーにいささか関心をもつようにな
ったのも、こうした経験とどこか
で結びついているのかもしれない。

ついでに言い添えておけば、こ
の劇の終わり近く、主人公の岡田
と竹内とが馬車で旅に出る場面で、
観客の一人から「また駆け落ちか」
と野次がとんだが、間髪を入れず

岡田が舞台から「馬鹿」とやり返
す一幕もあった。（岡田は前年、先
夫の山田隆弥を離れて竹内のもと
に走っていたのである。）

て行ってくれた。出しものは、「想
い出」II「アルト・ハイデルベル
ク」である。下宿の娘ケティII岡
田と、皇太子カール・ハインリッ
ヒII竹内を中心に、河と古城と太
学の都ハイデルベルクを舞台とし
てくり展げられる、美しい感傷に
満ちた青春ドラマは、Gaudernus
のメロディーとともに、旧制中学
四年生を夢中にさせるに十分であ
った。おかげで入試の方は見事に
失敗したが、代わりに覚えた学生歌
とそのメロディーは、私の心に

Gaudernus 'gitur, juvenes
dum sumus…は、いまでも「琵琶
湖周航の歌」とともに筆者の愛
唱歌である。ただし歌詞の後半の
部分は知らない。岩波の「ギリシ
ヤ・ラテン引用語辞典」にも出て
いない。ご存知の方があればぜひ
教えていただきたいものである。
（本学教授）



ロンドンでの松村幸一先生

付で鍵を借りて複写機を使い、終わ
つたら受付で何枚コピーしたかと尋
ねるので枚数をいうと、一枚五ペ
ンスの割で代金を請求する。自分で枚
数をチェックするでもなく、こちら
のいう枚数を疑うそぶりもみせない。
受付にはひげのおじさんをはじめ、
二、三人の女性が交代で働いていた
が、その態度は皆に共通してかわり
なく人間的であった。あたかも人間
は嘘をつかないものだと思つてい
るかのように。

こうした善良、おうようで人を疑

わないイギリス人を見てみると、人
はよいがだまされて先代、先々代の
築いた家産をくいつぶす三代目のぼ
んぼんという感じがしないでもない。
もっとも、私の接したのはイギリ
ス人のごく一部にすぎず、かれらの
一面を見たにすぎないのかもしれない。
実際、大学の図書館にも「スリ
に注意」との貼り紙が見られたし、私

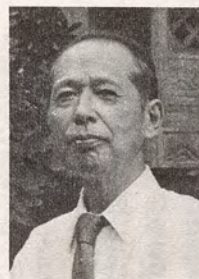
と同宿の若い日本の会社員は、繁華
街にとめておいた自動車の窓ガラス
を破られてレインコートと鞆を盗ま
れたという。
そしてまた、テムズ河に灯影をう
かべるロイヤル・フェスティヴァル・
ホールでは、夜ごと演奏会が終わる
十時半ごろ、その入口でハーモニカ
を吹いて物乞いをする老人が見られ
その対岸、チャリング・クロスに至
る橋の下に、夏の夜、ねぐらを求め
てたむろする人びとを見かけるのも、
ロンドンの他の一面である。
帰国後すでに四カ月になろうとす
る今、ロンドンのみならずイギリス
のあちこちで接した人と土地の印象
は、私の記憶からうすれていくどこ
ろか、かえって鮮明になつていく思
い出される。よいことづくめでない
のにもかかわらず、その魅力がます
ます私をひきつけるのは不思議なこ
とである。（一九八〇年七月十七日）



黒正イズムと私

(続)

伊藤音七郎(6)



前回の澱江十五号で、私の生涯のバックボーンとしての黒正イズム、すなわち、
①青白いインテリになるな。
②いかなる職場にも必要とされる人間となれ。

③自分の人生は自分の力で拓け、ということについて書いた。今回は、このバックボーンにより、私かどのようになんて来たかを述べてみよう。

臨時雇の悲哀

昭和十五年春、長い病欠から、追試験という救助措置により、やっと卒業証書を手にした私は、就職戦線がすでに幕を閉じた学校就職課の前に、茫然と立っていた。こうなったからには、友人知己を頼るか、新聞広告等による公募によるし、あらゆる機会をとらえることである。朝には朝刊にくまなく目を通し、求人欄をあさる。名の知れた企業には、逃さず履歴書を送る。友人知己はいまでもな

い。ところが困ったことに、履歴書はほとんど返送されてくる。中には親切にも私の成績が悪いこと、欠席が多いことを挙げて、何卒次回に、とある。やむなく三、四流とおもわしき企業にねらいを定めてみると、さすが書面だけで採用してくれるところもある。だが、そういう相手は、いざとなるとこちらが二の足を踏む。

その時、知人からの電報で、中流貿易商社だ、どうだという報せ。早速飛んで行き、どうにか採用にこぎつける。入社してみると、机を並べている連中が全部

官立高商出身、英語力も私とは雲泥の差、ソロバンもたしかなし、時には彼らの間で、経済論争をやる。後でわかったことだが、私は急場の臨時雇だと知り、落胆しきりだったが、これより外に道がない。クソツとばかり、何とか皆に伍することを考えた。志を立てて、夜は英語学校とソロバン塾に通う。教科書に再度目を通す。新聞は経済面重視。通勤には英字新聞まで携える、涙ぐましい努力。黒正先生はお笑いだろう。在学中、英語の時間まで増やされた先生の親心を、私はいたずらにむだにしていた。ハッラー先生の英

会話も、時には抜け出す不心得者。その科が早くも訪れたのである。

三カ月を経て、やっと正社員の辞令を受けた時は、思わずホッとしたものだ。半年もすれば、職場の雰囲気にも慣れる。これならついて行けるぞと、自信もわいてくる頃は、もう私の周辺には召集令状がしのび寄っていたのである。

短いサラリーマン生活であったが、ここでも貴重な教訓を得た。私を勇気づけたものに、上司の温かい目がある。そして、叩けよ、されば開かれんのとえ通り、新しい人生を得たのである。

最近の新卒者の就職状況を、新聞紙上で目にするが、数年前と様変わり、就職難を反映して、企業間を右往左往する学生諸君を、むしろ興味本位に報じている。私はこれらの記事を読むたびに、身につまされ、苦しい思いにかられるのだ。かつての私も、そうであったろう。だが、学生諸君に、「黒正イズム」の認識があり、自主性を備えていれば、今さらあわてなくてすむかもしれない。

地獄からの脱出

余談ついでに、もう少し私事を述べる。昭和二十年春、インパールの敗退から、

連合軍は怒涛の如き勢いで、ビルマ中部に日本軍を追撃していた。私の部隊は、マングレー付近に陣を構え、大迎撃作戦を展開したが、物量の差は如何ともし難く、数々の激戦で壊滅。私は生き残った数人と共に、野良犬のような敗残兵と化し、荒野をさまようしかなかった。

ビルマでは、連合軍の外に反乱軍、マラリア、アメーバ赤痢の大敵がある。おまけに時期はちょうど雨期である。自分の生命は自分で守るしかない。不毛、未開の土地では、単独行動は死を意味する。自決者が相次いだのもその頃である。

私は生命の危険におのきなながらも、時として在学当時の楽しい思い出にふけた。上新庄から学校までの長い道を、級友や諸先生方と肩を並べ、談笑して歩いた。春には菜の花の毛氈の中を、雲雀の声を聞き、青い空を写した疎水の緩やかな流れにも時を忘れた。日の丸の小旗を振り、級友を戦地に送った道でもある。あるいは、学校付近のとある小さな茂みを、私は秘かにH・D・ソローに真似て「ウォルデンの森」と名付けていたが、その柔らかな芝生に身を埋め、大空を仰ぎながら、級友達と語りあった。あの時の、異性への憧れ。

死を前にしての、思い出はすべて美しく

い。私が敗戦によって得たもの、それは、自分の生命は自分で守る、という「黒正イズム」に外ならない。それに戦友との連体感、そして異民族であるが、原住民の「心」である。

わが心の在り処

昭和二十二年秋、永い抑留生活から、敗戦の匂いのまだ抜けぬ大阪に着いた時、先ず明日の生活から考えねばならなかった。入社一年四カ月で出征した私の勤務先は存続していたが、貿易が再開されず、これという仕事がない有様。かつての上司も今はなく、そこで意を決して退職。さてどうしたものかと、思案投げ首の時、真つ先に頭に浮かんだのが、昭和学園。人づてに聞くと、学校はあるという。早速懐かしい上新庄に足を運ぶ。

何と驚いたことに「大阪女子経専」と校名はかわり、運動場は百花繚乱の花ざかり。ボロ復員服をまとう私が場違いな程、そこには乙女の躍動、青春の歡喜が溢れんばかり。私はしばらくわれを忘れ、美しい光景に見とれていたが、われにかえると、急いで教員室へ。大北、梅田、藤原、浅沼、石川諸先生の名づかいお顔

が揃っておられる。しかも昔と変わらない笑顔で迎えて下さる。私は初めて、祖国の土を踏んだ実感が湧くのを覚えた。

私の軍隊時代、あんなに懐かしんだ昭和、高商、実をいえば、お世辞にも立派な設備、堂々たる校舎等とはいえなかった。

しかし入学した日から、自分の学校が良い学校であれかしとは、だれしもの願いだろう。米津先生を先頭に、運動場の整備、庭木の植え込みに汗を流す。今日よくいわれる、「手づくりの学校」が出来上がっていったのである。今、中庭に大樹となり、豊かな緑と日陰を拡げているくすの木を見るにつけ、感無量である。そこには、学生間の心の交流があった。師弟の融和があった。それは貧しいがゆえだと、私は思う。

近頃、大学を訪れる時、立派な校舎は、今昔の感に堪えない。私をとまどわせてしまう。だが、学校は立派な設備を持つべきなのだ。その中において、心の育成を工夫すべきである。

日本は敗戦によって、精神至上主義から一変して物質至上主義へと変貌した。そのことは、日本国民に多くの恩恵を与えはしたが、反面奪った面もなくはない。その一つに、「心」がある。外への思いやりが無い。最近続発する不正入学、かつ

ての学園紛争、すべてはかりである。

世に、自分のおえた学校を母校と呼ぶところが、得てして学校は錦を飾るところだと考えられがちである。だが、失意の時にこそ、母なる愛情もち抱きとめてやるのが、その名の如く、母校といえる。それには、学校と学生の間が常々密着していなければならぬ。すなわち、双方の努力にまつしかない。そこに大学生生活に賭ける、青春の燃焼がある。やがて諸君は、そこに心の在り処を見出すであろう。

鶏口牛後の教え

黒正先生のお話の中で、外にも貴重な思ひ出がある。その一つに、「鶏口となるも、牛後となるなれ」の諺を思い出す。今さら解釈の必要もないが、当時の私達には強い魅力をもたえていた。それも当然のこと、大企業がだめなら、小企業の親方に、という考え方はだれしも抱くものである。先生も同じ考えを抱いておられたのであろうか。現在もそうであろうが、企業を選び好みしなかったら、就職はさして困難ではなからう。本当をいうなら、小企業ほど立派な人物が必要なわけだが、現実はいかにない。

戦後三十余年、私も小企業の中の一員として過ごして来た。小企業は大企業に比べて、何かと苦労が多く、報われ方も少ないものだ。だが小企業にも長所がある。チームワークを十分発揮しやすいし、その上にスキンスリップの良さがある。前述の人間形成の場でもある。どうか今ままで無事経過した私の企業だって、これからが大変である。ご存知の石油不足、高騰が企業をどんな方向へ変えるか、予測し難い。

私には、これからも謙虚に、黒正先生のお言葉を何度も噛みしめる必要があるだろう。

昭和学園もやがて、創立五十年を迎えるという。その記念すべき時期を前にして、学園では色々な企画があるやに承る。私は先日の同窓会理事会の席上、五十年史編纂の必要を提案申し上げたが、この永い年月に、学園を彩り、貢献された諸先生、先輩諸兄は多いことだろう。黒正イズムの名はどうにでもあれ、先生のご業績を真つ先に、私達の心の中に、留めておきたい。過去五十年の学園の歴史を振り返り、それを礎として、将来に大きな飛躍を期待する。これは私独りの願いでもないであろう。ここに学園の生気ある発展を夢みて、擲筆する。

(三進商事KK代表取締役)

信垣直一先生を偲ぶ

玉井乱水

この春、四月に急逝された信垣直一先生の霊に、謹んで哀悼の意を捧げます。

生前の先生は大人であられた。下世話にいう旦那衆であった。むしろ、大旦那というべきか。世俗的な名利に恬淡としたお人柄であった。定年で退かれ、特任教授として出講していただいていた頃、廊下で出会ったわが輩(当時、教養部長であった)

に、「玉ちゃん、そろそろやめさせて貰いたい。老人は疲れるのよ」「ナニ？そんなお年じやないじゃないの。お屋敷に籠っていたら、ほけるだけ。二駒でも三駒でもいい、出でらっしゃい。健康によろしい。」先生は叱られた子供のように、ニヤリと笑って「玉ちゃん、ありがと。そのように努めます。」

こんな会話ががあった、なつかしい思ひ出が脳裏に去来する昨今である。天界で楽しんでおられる先生の霊よ、安らかれよかし！

(本学教授)

二つの場面を思い起こして

藤本周一

一昨年(昭和五十三年)の夏、信垣先生のご自宅にお伺いしたのが、わたくしにとつて先生に拝眉した最後となつてしまった。あのころ、先生はご自宅の屋敷門を中心に、かなり大がかりな改築をなさっておいでになつたが、経大教授の職をご退任になり、悠々自適の日々をお過ごしのようにお見受けしたことであった。

先生は、たまたまお邪魔したわたくしに、そのときはまだ取りつけられていなかった檜造りの豪華な新しい

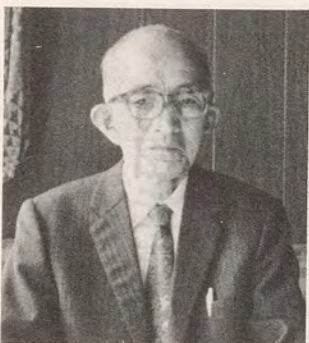
門扉を、その細部の造作までごまごまご説明くださったのであった。あの折の、先生の気品たかくにこやかなお顔は、今も、昨日のことのように眼前に浮かんでくる。

その門扉は、いまはしつかりと門に取りつけられてある。それは、先生が意をそそがれただけあって、機械万能の画一主義の産物などでは断じてない。それは、安易に時代に迎合することを頑強に拒否されていた先生の孤高の精神の象徴のようであ

る。かつて経大にご出講になつておられたころ、信垣先生は講義の合間の短い休憩時間を、当時設けられてあったC館二階のロビーで過ごされていたことがよくあった。そんなとき、時おり玉井先生が来合わせられて、信垣先生となごやかにお話になつておられたことがあり、そこへ時としてわたしが加えさせていたたくことがあった。

信垣先生は、日ごろから、当代学生に見受けられる不熱心な学習態度を腹に据えかねておいでになつたらしく、「もつ今のような勉強しない不真面目な学生にはついてゆけん。経大退かせてもらったほうがよいかもしれん。」と匙を投げたようにおっしゃることが時々あった。そういうお話になると、玉井先生はいつもきまぐれで、「まだお元氣なのに、そんな老い込んだことを言ってもらっちゃ困りますよ。」といつて、信垣先生のお気持ちを何とかして経大につなぎとめようとなさるのであった。

少なくともわたくしにはそのように印象づけられている。両先生のことのお話も昨日のことのように思い出される。それはもう数年も前のことで、あのC館二階のロビーも



故信垣直一先生

その後の改造工事でなくなってしまう
ったというのに……。
ここに改めて信垣直一先生のご冥

福を心からお祈り申し上げます。
(本学助教)

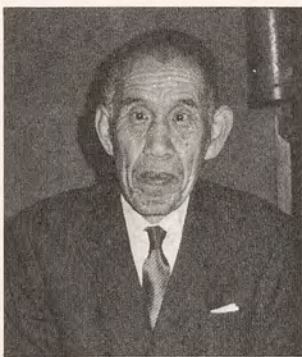
菊田先生のこと一つ一つ

黒羽兵治郎

菊田先生は、高校でも大学でも、
私には二年の先輩である。ご研究の
分野は、経済地理から中国経済事情
あるいは統計学などと、随分その幅
が広がった。先生とはちがいが融通の
きかない私は、昔から今に至るまで
日本経済史にひっかかってきたので、
つい先生のご指導を仰ぐこともなし
に終わった。しかし先生はご造詣の
深い方であったから、「これは自分の
本業ではない」などといわれながら
日本経済史関係の立派な著書・論文
を公にされており、私はそれらによ
って学恩を受けたことは少なからずな

菊田太郎君の追憶

藤谷謙二



故菊田太郎先生

去る三月末、菊田太郎君は、薬石
の効もむなく永眠された。悠々自
適の余生を永く楽しまれるよう陰な
がら祈念していたのに、残念至極で
ある。
菊田君とわたくしとは、三高・京
大を通じて同窓、しかも同期であつ

た。しかしそれにもかかわらず、二
人の交友関係はあまり深かったとい
えない。というのも、三高時代彼
氏は文乙、わたくしは文甲であった
し、京大でも同じ経済学部でありな
がら、専攻を異にした関係もあつて
元來行動半径の狭いわたくしとは、

ほとんど接触の機会がなかったから
である。
菊田君と親しく言葉を交わすよう
になったのは、わたくしが本学に就
任した昭和三十九年の春以来のこと
である。しかしこの段階になつても、
常時来往して会談談笑を重ねる域に
は遂に達しなかった。結局両人の間
柄は、終始一定の距離をおいての交
際であつたというのが真相である。
しかし、それでもなおお互いに親
近感を持ち続けたし、特に同君の地
味ではあるが知る人ぞ知る深い学殖
には、常に敬意を払ってきたのであ
る。さらにまた忘れ難いのは、菊田
君の隠れたる余技である。それはた
またま同窓会などの席上で同君が披
露した謡曲のひとつきりであつて、
音吐朗々全く素人ばなれの芸であつ
た。今にして思えば、菊田君は専攻
の学問以外に、芸能の趣味の領域に
おいても、謡曲に限らず幅広く、し
かも深い本格的な素養を身につけて
いたに違いないのである。
いま在りし日の君を偲びながら、
謹んでご冥福を祈る。
(昭和五十五年七月十一日記)
(本学教授)

恩師菊田太郎教授を偲んで

申岡茂 (10)

『支那経済概論』上巻、菊田太郎著
と黄色の背表紙に見える活字が本棚
上段から常に私を激励してくれた。
研究指導に使った『実用統計学』と
『東海道守口宿・守口駅』も並んで
いる。殊に後者のとびらには「共々
に窮めんと思ふ道の奥に至る一夜の
かりそめの宿」太郎、串岡学兄恵存
と書いて下さった今は亡き先生に鳴
咽、落涙数条を禁じ得ないもの
があります。何のご恩返しもできず、
内心忸怩たるものがあります。

昭和十三年三月、昭和商高に付設
された支那経済研究所(北京・上海・
新京・青島・張家口に支所をもち支
那経済日報を發行)の主事としての
活動は、当時、黒正巖校長の述べら
れた「高邁なる東亜の認識と識見
は…大陸に關し調査研究する所、深
く私の敬服措く能わざる青年学徒で
ある」とおり私達も東亜経済事情
の特講を受けたが、今日、華国鋒首
相の来訪等日中親交の深まる折、先
生の残された中国の経済地理の学術

藤田敬三 理事 長 令閨寿夫人急逝

大阪経済大学藤田敬三理事長先
生のご令閨寿夫人が八月十五日午
前十一時三分、結腸ガンのため大
阪厚生年金病院で急逝されました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご
冥福を心からお祈りする次第です。

クラブ中央委員、大阪家庭裁判
所堺支部調停委員などの要職を兼
務されて、大阪の婦人解放などに
大きい功績を残されています。さ
らに、最近、日中婦人友好など
にも力を注いでおられました。

故寿夫人は、昭和三十一年、ス
イスで開催された世界母親大会に
は日本代表として出席され、また、
大阪母親連絡会を結成し初代会
長に就任されたほか、婦人民主

告別式は八月十七日午後三時か
ら堺市上野芝の向ヶ丘町自治会館
で関係者多数参列の中で盛大に挙
行され、ご遺徳をしのびつつ悲し
いお別れをいたしました。

研究の偉大なる足跡を思うと、殊更
その逝去を悼むものです。

私はクラブでも菊田先生の「国防
科学研究班」に属していた。大学高
専の会議で先生と岐阜の馬場英一君
(十六銀行支店長と京都四條の東華
会館等へ行ったが、昭和十七年夏、
京大を主としたホルネオ踏査隊に加
わる菊田先生の随行で私も参加が決
まり、三種混合の予防接種までした。
しかし、戦局に災いされ中止のやむ
なきに至ったのを残念がられた先生
のお顔が、いまだに眼に浮ぶ。翌年、
繰り上げ卒業で私は三菱銀行に入社、
神戸支店勤務二カ月で入営、その際、
「軍隊では針仕事などに困らされ
る…」など心齋橋でお茶を飲みなが
ら話されたが、そのような繊細な一
面をもっておられた。

守口文庫には再三ならずお訪ねし
た。訪問者名簿に墨書記名するとき
「経済史を学ぶ者は古文書解説の要
あり、書を学ばねばならぬ」と教え
られた。飛びつきたいの庭の茶室で、
淀川上流での蒐集とかの繩文土器に
お茶を立てて下さった。守口大根の
起源、改良、保存に熱意を示され、
伊勢路の講演回りから帰られた時な
ど、エネルギーシユで衆議院にでも
出られるのかと思われる面も私には

感ぜられた。政界入りされていたら
菅野先生とはまた違った活躍があ
つたと思つた。

ヨーロッパ遊学のみやげにとナイ
フ一式を仙台に送って下さったが、
説明文が独和辞典で引けない、ヘヒ
ヅ・ウルドウ系か」といったら笑つ
ておられた。昭和四十六年五月、私
が文部省派遣でソ連・北歐・英米等
八カ国十三都市の教育事情視察に出
立のおり、予備知識をいただいたが、
中でも「欧米ではいかに国旗を大切
にするかがわかるだろう」と言われ
た。帰国して、学校現場の「日の丸」
の扱いについて強く感ずるものがあ
つた。

灘江6号に松本編集部長は黒正先
生を父とするなら、大北先生は母親
的存在だったと書かれたが、菊田先
生は私達同窓の大兄貴といえは失礼
だろうか。これ程偉大で身近にお
られた先生が今や幽明境を異にされ
たと、神仏頼れずの愚痴も出でん
とまれ、私達教子一同、菊田先生の
ご霊前にありし日を偲び、ご偉業、
ご遺徳を讃えて心よりご冥福を祈念
いたします。
(昭五十五・七・三比企事務局長の
長距離電話要請によりしたためる)
(宮城県立湧谷高校教頭)

明治の気骨・奥村先生

玉井乱水



奥村先生

吾が輩が経大に赴任してきた時、日出男先生が英語の主任教授。優しい、人なつこい面の中に、ある厳しさをひめられた、いわば、明治の気骨豊かな紳士であられる。数多くのお子さんたちを教育界に送り出し、それぞれ教育者、社会人として活躍しておられる。また、学会、休暇の折には温泉に夫人を同伴されて、労をねぎらわれる。よき父、よき夫たることの何と難きや。日出男先生

は平然と、素直に実践しておられるのだ。忸怩たるものがある。先生お得意のジョークが生きているのだ。定年で退かれ、特任教授の期限も切れる前のある日、非常勤として、是非お願いしたい」といわれた。この活力とこの情熱、以て範となすべきであらう。

日出男先生、これからもよろしくお願い申し上げます。(本学教授)

人間「沼さん」を愛す

玉井乱水

経大の生き字引といわれる「沼さん」こと浅沼玄恵先生。この先生ほど、表にしゃやくり出たがらない仁はない。それでいて、自分に与えられた仕事は、たとえ雑務であつ

ても誠実にこなす仁はない。定年で退かれる前、



浅沼先生

「特任教授をお願いします。」
「もつ、ええわ。のんびりしたい。」
「何をいうんじや。お願いしとるんじや。ほけるぞ。」
「へへ、考えとくわ。」

生真面目で誠実な顔に、時折浮かぶ猥褻な笑いが、吾が輩は大好きである。人間「沼さん」をこよなく愛す。これからも、よろしく願います。(本学教授)

オールドボーイの

アイドル注連さん

今の学生諸君には、「注連さん?どこの人?」といわれるかもしれない。しかし、経大のオールド・ボーイ、すなわち昭和和商、大阪女子経専(この場合はオールド・ガールになるが…)、大阪経専、また、初期の経大生にとつては、「ああ、あの色の白い眼鏡をかけた、かわいらしいお嬢さんの…」から、「ああ、あのおばちゃん…」と、年代によってその評価も異なるであらう。



注連さん

が、最近の卒業生には馴染みの薄い部課名ではあるが、生徒課、教務部、庶務部(会計課)歴任といえは格好はいいが、当時は女子職員がほとんどいかなかったためもあってか、学生のアイドルの一人であったなんでも屋の「窓口」の注連ミヨ子さん

新刊紹介

大阪経大論集

大槻 弘著

越前自由民権運動の研究

(大阪経済大学研究叢書 8)
法律文化社 昭和55年3月刊
定価 二一、二〇〇円

大槻先生は現在、法人の理事として大学の経営にも関与しておられ、多忙の身であります。昭和三十年



敬司教授の追悼論文集が『大阪経大論集』の特別号として、本年一月に出版され、一周忌には、学長によりご霊前に捧げられました。

浅沼玄恵教授古稀記念論文集

浅沼玄恵教授は、本年三月で定年とされましたが、その古稀をお祝いした記念論文集が三月に発刊され、献呈式も盛会のうちに行われました。先生は実に四十四年にわたって本学と共に歩んでこられました。現在もお元気で、特任教授として教鞭をとっておられます。

右記の特別号を含む『大阪経大論集(年六回刊)』は、卒業生の皆さんに年額二千円で郵送しています。申し込みは本学内の大阪経大学会まで。

中小企業研究奨励賞 受賞

中小企業研究 潮流と展望

大阪経済大学中小企業経営研究所編 日外アソシエーツ株式会社発行

昭和53年12月刊 A5判

定価 六、八〇〇円

本書はわが国の一九七一一七六年の五年間における中小企業研究の動



中小企業経営研究所

経営経済16

特集・80年代の中小企業問題

と関西経済

昭和55年3月刊 205頁

定価 一、三〇〇円 一、一六〇円

80年代の中小企業と地域社会……竹林庄太郎 大阪経済の国際化と「大阪企業」の特性……濱本 泰 地場産業振興の課題と方向……上田達三 衛星都市小売商業の構造……竹林祐吉 都市型中小企業における技術開

代以来書きためてこられた民権運動に関する諸論文を今回まとめられたわけです。「あとがき」によれば、何度も現地に足を運ばれ、関係文書(杉田定一文庫経大図書館所蔵)を発掘され、史実をつきとめての力作だといふことがよく理解されます。本書の購入については書店へお問い合わせいたします。

なお、昨年の杉浦貴一著『英国不法行為法論(大阪経済大学研究叢書7)』を、ご入用の方は、三、〇〇〇円(送料含む)で頒布しますので、本学庶務課までご連絡下さい。

『大阪経大論集』特別号

渡辺敬司教授追悼論文集

昨年一月十八日に逝去された渡辺

発力の分析……榎上邦夫 中小企業の財務管理……伊達 陽 シュマーレンバッハ「小鉄工業のカルテル形態」(翻訳) 松本 剛

経営研究所

両大戦間における企業経営の総合的研究

創立十五周年記念論文集

昭和55年3月刊 236頁

定価 一、六〇〇円 一、一六〇円

第一部 両大戦間における企業経営の総合的研究 産業合理化期とアメリカ経営学……濱本 泰 一九二〇—三〇年代の米英における主要経営理論の動向……松尾竹彦 両大戦間におけるアメリカ・マーケティング管理の動向……光澤滋朗 両大戦間における管理会計の発展……渡辺大介 減価償却費の配賦能力肯定論と更新基金の拡大……松本 剛

ほか五論文

渡辺 泉著

損益計算の展開と複式簿記

(研究シリーズ第4冊)

昭和55年6月刊 89頁

定価 七〇〇円 一、二二〇円

本書は、損益計算発展の歴史的シエマを筆者なりに再整理することによって、損益計算の展開過程と主にイギリスにおける複式簿記の発展過程を史的に実証した書である。

がその人である。

また当時は学生数も少なく、先生も職員も少なかったために、お互いに名前と顔がわかる時であった。それだけに、父兄から受け取った授業料を学校に納付せず、横へ……。その結果は「注連さん」ということになる。

そして、試験を受けられない運動部に属する学生が、「注連さん……」のおかげで試験を受けることができたのが何人いたことか……。この記事を読んで、ハッと胸に来るオールド・ボーイは相当いるはずである。

昨五十四年三月、間もなく五十周年を迎えようとする経大で、三十六年という輝かしい永年勤続を、そして彼女の青春と人生の大半を経大を恋人としてその情熱を捧げて退職された注連さん。本日に永い間ありがとうございました。いろいろご迷惑をおかけした当時の悪たれどもを代表して、心からお礼を申し上げます。なお、ご健康にご留意されて、生きていく経大の歴史の一人として一日でも永く登校され、お元気なお姿をキャンパスにみせて下さい。

(現在、注連さんは事務嘱託として、経理部でお元気に勤務しております。)(文責 比企)

飛鳥と明日香

柴田 眞典 (8)

六月二十一、二日に関西在住の同期生会を柴田秀一、高井美春両君の肝煎りで奈良で開催しました。二十一日は有志のゴルフコンペ、夜は若草山の白銀屋旅館で宴をほり、翌二十一日は飛鳥史跡見学ということでした。

最初に精の神、飛鳥坐神社に参拝し、老いて益々盛んなるよう祈り、飛鳥寺の飛鳥大佛、入鹿の首塚、板蓋宮跡、石舞台古墳、橘寺の二面石川原寺跡、亀石、鬼の俎、鬼の雪隠、吉備姫墓の猿石、欽明陵と巡り、最後に、高松塚古墳を見学し橿原神宮駅で解散しました。

五世紀から六世紀に至る間、政治の中心地であったこの山紫水明の地に何かひかれ、春夏秋冬、それぞれ格別の味わいがあり、幾度か足を運ぶこととなりました。その間、どうして「飛鳥」と「明日香」という二



つの表現法があるのかというようなことを漠然と考えておりましたので、簡単に自己流の解釈を試みました。古事記や日本書紀、また、当時の官庁の文書等には「飛鳥」の表現が

多く用いられ、かの万葉集には「明日香」の表現が多く使われています。現在、飛鳥の史跡を巡っても、明日香という表現は村役場の表示位しかなく、飛鳥という文字で表現された飛鳥は史跡そのものであり、今より千数百年前の飛鳥でもあります。

歴史的風土審議会が明日香保存計画を答申されていますが、多くのヤング達がカラフルな服装でサイクリングの列を組んで走っている現在の飛鳥は、「明日香」でなくてはなりません。「地面を一メートル掘れば、そ

れは先人が眠る史跡の飛鳥であり、一メートル上は二十一世紀の明日香である」というようなロマンを感じながら、明日香という表現から受け言葉の魅力を感じました。どちらが正しいか、また、古くから使われているか、というようなことは、歴史学の諸先生方もはつきりと定義づけされてはおられないことを付言して雑文を終わります。

思い出の記

鹿島栄之助 (2)

昭和十一年、それはあの二・二六事件勃発の年である。

私達、旧制昭和高商の第二回卒業生はその年、学園を巣立っていった。卒業とともに徴兵検査を受けて入営し間もなく応召、そして短い青春を戦場に散華した級友もすくぶる多い。当時の日本は満州帝国の建国にか



随筆



ひろば

いた重松支部長であった。

それは、実は、地元の北陸電力を相手に鉄塔工事で脚光を浴びている北陸鉄塔工業株式会社の専務取締役として、「富山で骨を埋めるんだ」と、はるばる故郷の愛知県から富山県入りしてきた鈴木博三君が、富山市郊外の眺望はるかな城山に新しくおめみえした呉羽ハイツでの富山県支部総会に、はじめて顔を出してくれたときのことであった。

そして、鈴木君については、小生から祝宴の席上で支部の皆さんに紹介したが、支部メンバーの皆さんから、改めて誇りにも似た輝きの反響を得た。しかし、この後、彼は、昭和四十九年一月二十七日に忽然として、この世を去っていったのである。本当に、愕然としたものの一人である。

さて、鈴木君が他界してから今年で早くも七カ年となり、既に七回忌も終わったが、改めて思い出すのは

ラインといわれた国家群によって経済圧迫包囲網をかぶせられ、やむなくその活路を大陸、表南洋に求めざるを得なかったのではなからうか。それがあの時代の国民感情でもあったはずだと思っただが……。

はなはだ私ごとで手前味噌なこと述べて恐縮ではあるが、私は卒業後、尼崎汽船(その後、戦時海運統合により集約されて現在の関西汽船となる)に入社したが、のち日清汽船(日露戦争後の明治四十年に設立された半官半民の当時の国策会社)に移った。昭和十四年戦局の拡大とともに、戦時海運統合によって日清汽船を母体とし日本郵船、大阪商船の対支航路および社外船各社が有していた一切の対中国航路を併合した東亜海運株式会社が誕生したのであるが、昭和十六年にいたり東亜海運株式会社法(昭一六法律第六八号)による国策会社に改組されて、第二次近衛内閣の大蔵大臣であった河田烈氏を社長として、はなばなく発足した。

私も当然その会社に継承転籍し、引き続き上海支店に在勤していたのである。そして、当時、昭和高商出身の社員は私一人であったが、その後、筆舌に尽くせなかった。柔道部長の寺尾教授はもちろんのこと、特に、黒正校長は口元をきりりと結びながらも、片手に愛用のステッキ、そして片手に風呂敷包みの蔵書といっただちで、われわれの特訓、猛練習に溶け込むように、じっと見入って下さったものだった。あの温顔入の面持ちは、どれほどわれわれの心を鞭打ってくれたことであらう。確かに、その結果、昭和十三年度を皮切りに、十四年度、十五年度、十六年度……と、激しいエスカレートぶりを展開したのである。つまり「産業界本を双肩に」の合言葉よろしく、教職員と学生が一体となり、学校あげて、いやが上にも建学の精神に燃えてのことであったが……。ここにこそ紳士の高商らしからぬ変才型の元氣な高校風景が現出されたのであらう……。

そして、この雄叫びと狼煙が昭和十五年六月十六日、為せば成るの諺の如く、ついに天六の関大道場で、当時入学してきたばかりの武川三段(現三木柔連会長・七段)らの大活躍もあって、待ちに待った宿願の真紅の大阪学連の国旗がわれわれの頭上高く、燦然と輝いたのである。まさ



四回卒の服部 博氏、七回卒の亀井弘勝氏、日笠正敏氏、八回卒の滝中和夫氏、梶村文弥氏の各氏が入社され、都合六名の同窓を数え、このべ

ースで進めば職域同窓会の組成もまんざら夢ではないと内心喜んだものである。だが敗戦に伴って、東亜海運も国策会社であったために進駐軍司令部の命によって閉鎖機関に指定され強制解散措置がとられた。

そのスタートがはなばなしかつただけに、その末路のみじめさもひとしお深く身にしみ、戦争とともに興感させられたものである。

亡き鈴木君と

柔道部歌の思い出

早川 由次 (7)

「良い先輩が来られましたな……」と、話しかけてきたのは、私の横に

に三カ年にわたる苦闘の実りが開花したのであった。思えば、今においても、ただただ感激これあるのみである。

また、全国高専大会を制覇した関学高専や同志社工商、あるいは強豪名古屋工商、さらには、名門伝統の四高（金沢）、六高（岡山）、松山の松高、そして三重工農、東亜同文、北大子科、天理外語、拓大子科などが参加した全国高専大会では、見事にこれらの強豪を打ち下して上位を奪ったのも、これひとえに、亡き難波温師範をはじめ多くの諸先生がたや、先輩、学友、部員の血と涙、意気と情熱の権化が具現開花したものであるといえる。

誰いともなく、「おい！どうだ、よその寮歌もさることながら、われわれの柔道部歌がほしい！」と……しかも、前述の第十三回大阪学連柔道大会を明年に控えた昭和十四年の暮れであった。まず作詞を誰にと……そこでわれわれは、意気と情熱の点火者であり、わが柔道部育ての親である清水忠文先輩に依頼した。既に十四年も明けて、昭和十五年の陽春を迎えていた……

会社から帰ってこられた清水先輩

みながら、改めて在りし日の男前、鈴木君を想起しているのだが、本当に鈴木君！ありがと、と呼ばずにはおれない心境である。

最後に、重松支部長は時々思い出したように、「鈴木さんのご家族はどうしておられるでしょうか……」ともらされるのだが、当時、鈴木君は羨望する豪壮な邸宅を、呉羽山麓（富山市茶屋新長割一六三―二）に新築し、奈津子夫人と、音楽大学在学中の愛娘、陽子さんとの三人暮らしであったが、現在、お嬢さんは学校を卒業されて、目下、南山大学教育部署の非常勤講師としてピアノを指導されており、さらに、奈津子未亡人は、家庭にあって特技のフランス刺繍を生かしてのご生活である。以上ご報告申し上げて、柔道部歌を作曲してくれた鈴木君なきあとのご一家のご繁栄を心からお祈り申し上げて筆をおきたい。

いかが？ 海外との合併大学

加藤 正秋 (10)

トヨタ自動車とフォードとの合併提携が具体的となってきた。ソロバ

は（卒業後も淡路島へ帰らずそのまゝ、当時選監であった小生と隣り合わせの大隅通の内田平三氏宅に下宿しながらの会社勤めであった）、いきなり「早川君！出来たぞ！」と差し出されたのが白い封筒であった。いまでもなく、中には「春繚乱の花に酔い 濁世の巷よそにみて……」と、麗筆鮮やかに、巻半紙にしたためられた歌詞であった。ついでになるが、この原本を最近まで保管していたのだが、いざとなると見当たらないのが残念至極である。

歌詞を詠みながら、なんとしても作曲は現役の手でと決意し、お願ひしたのが音楽部の鈴木君であった。彼は喜んで承引してくれた。爾来、放課後になると、あの大讲堂（現在のB館の二階）の片隅に置いてあったグランド・ピアノに向かって熱心にキーを叩きながら、楽譜に書き込んでいた姿は、今でも脳裏に焼き付いている。そして鈴木君は手を休め

随筆



ながら、「早川、柔道部はやはり意気と情熱の若人らしく、そして学生として瞑想思惟しながら、余韻をもつて歌い続けるものにしたんだ……」といってくれた。やはり常日頃「げに学生生活は、歌に始まり、歌に終わる」との台詞が台頭していたのも、むべなるかなである。つまり寮歌や部歌などは、それに秘められた詩文と、その曲に惚れての格調高い教養の尊さをいっただものであろう。

こうして出来あがった部歌を、学連大会で栄冠をものにしたわが柔道部一行は、大優勝旗を先頭に、鈴木君の努力の波にのせて放歌しながら、朴歯の音は渺渺（びょうびょう）たる瑞光寺原頭を震撼させたのであった。

なお、記事中には昭和13年度から昭和18年度までとあるが、死にもの狂いとなって修行に専念した花の柔道マンたちを、記憶のまにまに左記へ列記し、同時に、祖国のために雄々

しく散華していった本田優、山沢広畑一正、中野健三先輩をはじめ、好光積善、山川芳男、浜尾稜……（小生のこれまでの情報による）、ならびに正垣勲、斉藤寿先輩はじめ林睦……らの物故された多くの強豪柔道マシラのご冥福を心からお祈り申し上げたいと思ふ。

記

昭和13年度卒
清水忠文、平尾吟策

昭和14年度卒

本田優、山沢広、正垣勲、畑一

正、内田親吾、坂口一男、斉藤寿

中野健三

昭和15年度卒

好光積善、山川芳男、林睦、中川

修二、眞鍋弘、田中肇、塩見昇、

畑見安之、藤本（宮井）美幸、今

井清二、坂井進、比企重、田辺節

夫、早川由次

昭和16年度卒

浜尾稜、藤原恒一郎、杉浦敬一、

北村孝雄、近藤董、中沢隆

昭和17年度卒

武川茂夫、眞部清馬、浜永与十郎、

南部俊一、堀江秀二郎、田淵清一、

吉田尚介

……いま静かに柔道部歌を口ずさ

ン勘定の高いトヨタが米国自動車労働者の高賃金など、現地生産の障害をどう克服するか……など一抹の不安はあるものの、地元名古屋財界では賛成派が圧倒的である。輸出は善で輸入は悪、という昔の経済観念ではとても理解できないことである。

ご存じのとおり戦後、貿易の自由化という言葉が世界のスローガンとなってきた。わが国などつい最近まで、自由化品目が少ないなどといって、やり玉に上がってきた。ところがこのところ、ご本尊の米国が日本車の輸入にブレーキをかける立場に回っている。最近では日本製トラックの関税引き上げ説も検討されているという。こゝまでくると、これははっきりガット（関税と貿易に関する一般協定）違反である。貿易摩擦と自由化……はどこに接点が求められるか、本当に難しい問題だと思ふ。

昔、新聞記者をしていたというこゝで、女子短大や労組でよく放談を



海外へ目を向けるのは事業だけではあるまい。大学教育も海外との提携で、実績をあげているところが少なくない。私が関係している学校で、名古屋学院大学という単科大学がある。

この学校は、現在、アラスカ州立大学（UAF）と交換協定を結び、着々成果を伸ばしている。協定は一

依頼されるが、質問を受けて立ち住生することもしばしばである。結局これからのわが国の輸出のあり方として、特定商品を特定の国に集中させないよう市場を多角化する。輸出と同時に海外投資へ力を入れよう……なんて結論をボカしているが、今度のトヨタの積極進出は、この意味からも本当に立派だと感じしている。

カ月の短期と一カ年の長期留学に分かれ、とくに短期留学は希望者に広く門戸を開きたいと、毎年三十人程度が派遣されている。この交換計画について学校側は、海外留学という特徴が高校側で理解されたのか、入学志願者の出身校に公立有名校がふえ、質もレベルアップされてきた。入学後もこの選抜に洩れまいとして、語学を中心に学生の勉強態度が変わってきた。留学から帰った学生の話によると、授業の英語が判らず、テープで録音して夜中に復習するなど、相当苦労するらしいが、国際感覚も少しは身につきましたと報告にくる。教室でもこれが影響して好結果を生んでいる、と喜んでいる。

私大白書によっても、各大学が独自の特徴をつくることにやっきとなっている。紹介した大学より、伝統でも実力でも、一味も二味も違う大阪経済大学である。学生交換どころか、トヨタ方式で海外との合併大学設立という夢は実現できないものだろうか。夢のついでに、この大学へは卒業生も特別入学できる、ということになれば同窓生一同、考えるだけで胸がワクワクする思いである。

①現況について②同窓会に希望すること③同窓会の友人など④自由についてお寄せいただいた短信です。

北から南から

前田 和夫 (6)

「澱江」掲載の意見および希望
①現況について。

大へん内容が充実し、母校の動き、同窓生の活動ぶりがよく理解出来るうれしく思っています。

②同窓会に希望すること。

澱江誌上は母校の動き、同窓生の活動ぶりのニュースがまず必要だろうが、「ビジョン」も大切だと思います。たとえば、母校の新しい校舎建設予定、新しい学部、学科の新設予定や外国との交換教授や学生の計画など躍進するための計画、その他があれば二、三年前頃、さかんに同窓会報誌上でPRし、側面から資金(寄付金構想)に対する同窓生の援助などを願う必要がないでしょうか。

③同窓生(友人)など。

「インタビュ」欄で、同窓生の職場紹介―就任している社長、重役、一般職員、官公庁の部課長、一般職員、あるいは教職関係の同窓生の紹介なども必要かと思えます(これをすることによって、先輩と後輩のつながり、あるいは新しい就職のための開拓の資料ともなるかと思えます)。

④その他雑感 澱江誌上に、肩のこらない柔らかな紙面として「教養欄」たとえば、俳句、短歌その他の掲載を考えてみては。

新谷 茂 (6)

同窓生の皆様お元気ですか。卒業以来四十年になんなんとしておりませんが、澱江によって母校や皆様の近況を知ることが出来、心から澱江に感謝申し上げます。

私も卒業以来、軍隊や国家公務員生活を送り尻の温まる暇もなく転勤転勤で放浪の生活をしておりましてが、四十七年七月退官して税理士を営業しております。

最近、息子も資格を取得し二人で働いております。漸く身体も楽になりましたが、もう後がありません。是非一度母校を訪ねたいと存じております。

毎年荒牧君より同窓会の案内が届きますが、二月の月は一番忙しい時期で失礼しており申し訳なく思っております。余命少ない今後でありますが、是非同窓生諸君に会い過去を大いに語りたいものです。

っている。

学校付近の三宝寺というところの串谷春三さんの家(現当主満九二さい)に三年間下宿し、家族同様にしていただいたので、卒業以来四十年にならんとしている今日まで親類づき合いをさせていただいている。長女の綾子さん及び当時小学生にもなっていないが、良明君も母校の同窓会の一員となっている。

串谷さんの家は私が無理にお願いして、初めて学生を下宿させた家で、しかも三年間、私がずっといたので、爾後、後輩が次々と下宿させてもらっているようで、あの二階の部屋には今まで何十人の後輩が、また将来も下宿してゆくことだろうと懐かしい三宝寺の学生時代を偲んでいる。

住所 福岡県嘉穂郡庄内町有井三三五

石川 照雄 (8)

毎回澱江をお送り下さり有難うございます。永い間接触していませんが、母校がぐつと身近に感じられます。それにしても比企さんを初め事務局の方々には大変ご迷惑をおかけしましたが、お許し下さい。

藤田先生、藤原先生、梅田先生、おそろいでご健健で何よりです。気持ちの整理がつか次第、出来るだけ早い機会にご温顔に接したいと思ひます。私の子供は、上の娘が嫁してもう孫が三人、息子も目下、交際している娘さんがおり、今年中には結

平岩 正己 (3)

ただ今、病氣療養中(脳出血)。昨年、会社を退職致しました。(事務局よりお願い。右のようなお便りをいただきましたので同期生のかたがた、あるいは、お知りあいのかたはお便りをあげて下さい。)

藤田 誠一 (5)

紺碧の五月の空に薄雲が霞のように浮いている。この空は四十一年前御堂筋の銀杏並木を透して見た空と少しも変わりはない。

その年の四月、学窓から社会へ出た私は、御堂筋にある会社へ胸をワクワクらませて通っていた人生の初年兵だった。

渡辺はま子の歌「支那の夜」は私にとって大陸で過ごした二年の歳月を懐古する胸のしびれるナツメロである。

敗戦、それは予期されたものだった。無謀な、経済性の裏付けの皆無であった戦争、黒正先生、それに当時、新進の経済学者藤原先生の経済理論に逆行するものであった。私はその

理論を東海道線の車中で話していた憲兵隊へ連行されたこともあった。怒濤逆巻く東支那海を乗り切つて

やっと帰国した私を待っていたものは、無惨な祖国の姿であり、戦争は私から父を、家を、財産の一切を奪い去っていった。残された母、幼い弟妹、夜でも月の押める掘つ立て小屋で寒さに身を寄せ合つて過ごしたあのころ。

それから始まった私の喧嘩人生は最後まで続いていた。

三年前、東京都内から丹沢山景を一望にするこの地に移り住んだ。空気が澄んで散歩に良い。トシかな、と思ふ。四十一年前ピッカピカの人生初年兵も、今や四人の孫に恵まれ禿頭白髪の爺となった。

亡父の年齢を超え、血圧の高さを気にしている私の河はまだ流れ続けている。各所で経済漫談をやり、悪口を叩き、若い連中に煙たがられている。これも黒正先生の受け売りであり、なんとか最適操業度にやりたいたいものと藤原先生を思い出すこのころである。

寄り往時を思い起こしてみたいと思っております。

永末 優 (7)

われわれ第七回生は、昭和十六年三月に卒業した。その年の十二月八日に大東亜戦争へと、それまで日支事変と呼称されていた戦局は対米英戦へと拡大していった。多くの学友が戦場に赴き、戦死した友もかなりの数になっている。

私は小学校以来交友関係は広い方でなかった。高商時代でも高島良一君、石橋正俊君、久保雄一郎君、岸田竹爾君の四人が親しい学友であった。余り健康でなかった岸田君の

北から南から

佐藤(島村)智真雄 (7)

昭和二十八年ごろ母校を訪問したとき、上新庄駅前はかなり変わっていました。が、学校付近は田圃と畑に囲まれ、卒業(昭和十六年)当時の面影がいくらか残っていたように思われました。校舎の横を流れていた用水路の向かい側に浪商の野球グラウンドがあつて、五十人を超す部員が猛練習をしていたのが思い出されます。某部の合宿所に泊めてもらい、夜半、空腹のあまり付近の畑から甘藷を盗み掘りし、蒸して食べるといふようないたずらもよくやつたものです。

私も齢六十歳を超え出無精になっておりますが、もう一度母校に立ち

昭和五十四年三月十七、八日、日本

三景の一つである宮島の対岸、宮島口、広電観光ホテルに同期生十九名が集い、恩師寺尾宏一、河野実両先生、および八期生の阿寿賀淳三氏を囲んで、初春の一夜、三十七年前に

九期生会 37年前にかえつて

廻り、本当に、懐かしい高商時代の思い出話に花が咲いた。

とくに、その殆んどが、昭和十七年九月卒業、直ちに陸海軍に入隊し、第二次世界大戦(当時は大東亜戦争と呼称)を経験、敗戦時が二十三、

四歳の若者であり、戦後の荒波を体験した、いわゆる戦中派であるだけに、その感激も一入深く、僅か二カ

年半の高商生活に培われた母校への愛校心は異常なもので、武川氏の音頭による「教授数え歌」も記憶に新

しい程で、蜜声をはり上げ大合唱となった。

翌日は、宮島に参詣し、お互いの武運長久を祈り、再会を約し、名残りを惜しみつつ有意義な会合の幕を閉じた。(佐々木一義)

み兵役に服さなかったが、卒業後二年余りで世を去ってしまった。私は終戦後、復員してから彼の墓参りのため郷里を訪れた。私同様に無事復員した久保、石橋両君は今なお健在であるが、高島君は昨年病気で亡くなり、彼の悲報を知った時は一瞬、私は虚脱感を覚えた。彼からは高校教師を勇退したので今後は余生を趣味に生きたい、と便りをもらって僅かに一年余りのことだっただけに、戦後の荒廢の社会をどうにか生き抜きつつ、職場職場で日本の復興に微力をつくしているうちに、日本は予想だにしない急激な復興ととげ、さらに発展して、世界の経済大国になった。

私も日鉄鉱業株式会社を停年退職し、引き続き関連子会社に四年勤め、一昨年から郷里の寒村に引きこもり、昨年六月より厚生年金を受給している。晴耕するにも土地はなく、晴雨にかかわらず毎日が日曜日であり、無趣味のためか読書する日が多い生活を送っている。

年金生活者は物価の上昇には消費支出を押える以外に対処する方法がないけれども、福祉国家の恩恵に感謝している。六十五歳まではわが国の労働行政では労働人口として取り扱われているので、なんとか再々就職して働かねば申しわけないと思ひながら、寒村では適職もないまま二年間自分なりの気ままな生活をしてきているが、適職につきたいとは思

本会は昭和四十五年有志数名により発足し、本部を神戸市須磨区の神戸市保養所「千鳥荘」におき、現在会員十一名によって構成され、非常にまとまりのある小グループです。数年前には宿泊旅行をやったこともあり、毎年数回、懇親会を開いて大いに親睦を深め楽しくやっております。今後とも末永く活動を続けてまいりたいと存じますので同窓会の皆様のご支援をお願い申し上げます。

氏名は左記の通りです。

(世話人)城三七男
奥村義弘

千鳥会 大いに親睦を深める



(小池記)

- 坂本克己
- 野間 浩
- 寺田順一
- 岡本満寿男
- 木村正人
- 長谷川清高
- 林 利男
- 小池幹夫
- 藤 忠雄

婚といふことになりましょう。

栗野孝之 (9)

同窓生の皆様ご無沙汰しておりますが、お元気ですか。小生、昨年八月故郷の広島へ帰ってまいりました。昭和十五年、郷里を出奔以来、各地を転々として、実に四十年ぶりに懐かしい古里に落ち着くことが出来ました。懸案の我家も本年五月に完成、子供や孫は東京におりますので、ただいま妻と二人だけの閑静な生活を送っております。

何もせずにぶらぶらしてはボケるので、銀行を定年退職したとき、世話をしていた子供会社に引き続き勤務、第二の人生を過ごしています。

今まで大都市ばかりでサラリーマン生活を送っていましたが、やはり生まれ故郷は実にいいものです。身近に海あり、山あり、緑に恵まれ、気候温暖、人情も厚く、空気も新鮮つくづく帰郷して本当に良かったと喜んでおります。

山口 定弘 (10)

芦屋市に就職して二十九年。現在は、市立芦屋病院の事務局長として市民の健康を守る医療の補助部門を担当しています。

かたわら、学生時代からの文学熱が、今では「諷詠」という俳句雑誌

により、俳人協会の一員として俳句に親しんでいる状況です。

鳴田 茂 (11)

昭和十九年九月、第二次大戦中の練り上げ卒業で母校から離れ、陸軍経理部特甲幹として入校、終戦に復員後、現在の税務の道へ進み、三十数年が過ぎました。卒業以来、母校を訪れることもなくご無沙汰いたしております。

同期生も当時は関東地区出身が少なく、数名の同期生と会う機会もありましたが、当時をしのび懐かしく思っています。近い将来、母校への訪問を考えておりますが、よろしく。

山田(藤堂)尚子 (13)

多忙のため返信が大変おくれましてことをおわび申し上げます。

何か意見を、と突然のこと、思案のすえ、書くことにいたしました。目下、おくれげながら孫の子守で、精神的に若返り、身体的に無理をして、フーフィーっております。

同窓会にも出席できません。皆様に何年かお会いしております。

でも、一部の人達と(七人程度)年一回、小旅行をして旧友の良さを実感として味わっております。来年こそはクラス会には是非とも出席したいです。

小森 康司 (15)

戦中、教育勸語で育った、いわゆる昭和一行族の一員です。最近、TVや新聞に血管系統の病気で昭和一ケタはポッキリいってかた、気になるこのころです。

◇同窓会のことなど

日常の業務に追われ、地区の同窓会には最近欠席が多く、ゴルフのコンペも出られず申し訳なく思っています。

平石(原田)瑞子 (15)

同窓の皆様お元気です。いらいっしやいますか。卒業して早や三十年になりました。グループで私だけが東京に離れて住んでおりますので、数井さん、新田さん、広瀬さんとは三、四年ごとぐらいにお会いする機会があります。お会いすると学生時代のあのころに戻ったような気持ちになります。なつかしいです。

数井さんのお子様と、私の長女は、四月から就職が決まりました。ホッとしております。広瀬さんは、先日お嬢さんが結婚なさって、彼女も思うところいろいろありのようです。娘を嫁がせる気持ちなど語り合う年代になりました。ついこの間自分が結婚したばかりのような気が致しません。

北が南が

すのに……

私も平石とともに、諸先輩のご後援を得て毎日忙しく張り切って仕事に励んでおりますが、近い将来、四人で海外へ旅行しようという計画案が出ていますので、今は一生懸命のしみを表現すべく頑張っています。

藤井 哲 (15)

卒業以来三十年余、月日の流れのはやさを身にしみて感じます。在学中には思いもけなかった教員の道に入り、いつの間にか教師らしくな

つてゆく自分に一抹の寂しさを感じながらも多忙な日々を過ごしております。

高知県下の高校における経大勢も先年、豪放磊落であった矢部伸一郎氏(三十三年卒)が早世され、また高校演劇に貢献された包国祥一先輩(十七年卒)もことし定年で退職され、現在わずか六名となりました。

東京への修学旅行の際は、新幹線の窓から発展する母校を眺め、終戦直後の三カ年、良き師・友に恵まれ、貧しく、たのしく過ごした青春の日を懐かしみ、是非一度訪問したいと思っております。

たまたま愚息が一昨年経大にお世話になりました。折しも、中国華国鋒首相の嵐山観光と時を同じくしたのも印象深いことでした。

新緑の嵐山と大堰川とを背景とした典型的な借景の苔庭を眺めながら、山の幸、川の幸に舌鼓を打ち、遠く九州からの友も交えて、出席者十四名は積もる話に花を咲かせ和やかな一時を過ごしました。月末のためか出席者の少ないのが残念でしたが、来年もまたこの場所でもう一度とアンコールの声が出る程でした。

来年の幹事は奥村、越宮、高田の諸姉にお願いいました。



時より一三会を嵐山小督庵にて開催

小雨降る五月三十一日(出午前十一時)

一三会 嗟哦の庵に結ぶ友情

(岡村・飯田 記)

めて母校を訪問する機会に恵まれ、その変貌ぶりに驚きました。しかし、その一隅に旧校舎の残っているのを見て懐かしくはつとしました。毎年十一月の同窓会には、遠隔地のため出席できず残念ですが、母校のますますの発展と同窓生諸兄のご健康をお祈りします。

吉本 晋一 (19)

国際為替の変動相場制とはこんなことか、と新聞のドル対円の数字に過敏、学生時代にもっと勉強を、と悔やんでもおそし。主力製品が輸出だけに気苦労な毎日です。

支部同窓会の集まりが悪いのはわれわれポンコツ組の気力が弱ったのか、若手組が無気力なためか、とにかく結果すること、地域社会への貢献につながるし、すくなくともお互いのためだと思えます。

四国路丸亀の駅を通るたびに西島ゼミの鳥本さんを思い出すが、遠い記憶では丸亀のご出身ではないか、遠く問違っていたらごめん下さい。年賀状だけの仲間、一度大阪でバイヤリませんか。

野尻 忠正 (19)

母校の益々の発展をよろこんでおります。私の会社にも同窓生が入社してくれ、心強く感じております。

石井 信雄 (20)

卒業いたしましたして二十七年。奈良交通に入社いたしました。小豆島にで教勉を執っております。小豆島には東西に一校ずつ二校の高等学校があります。母校で母校経大卒業生が四名おります。卒業後二十六年のものからことし卒業した人まで、みんながなばって親しくしております。毎年母校の卒業生から何名かものものがお世話になっております。今後ともよろしく申し上げます。

小豆島は大阪に近い上、進路関係その他で上阪することがあります。大学までなかなか訪れられませんが、立派になっていく姿をよく見ております。ただ、どの大学でもどんどん発展しているようで、新設大学でもかなりのびた大学もあるようです。どうか母校の発展も望んでやみませ

なお、同窓会についてですが、毎年教職員と同窓会をしているようですが、どうも時期的にうまくいかず参加したことがありません。できれば夏や冬の休みにはできないものかと思っております(ただし、その場

15回生 10年ぶりの再会



澁江を手にするたびに私どもの期も合をもちたねば...と思いつつ、多忙にかまけて日を送りました。昨年の全体総会での本田・松川両兄の提唱で、今春一月十九日(土)午後六時より阪急ランドビル白楽天で同窓会を開催、約十年ぶりとおって出席者二十五名。また、幕間には大隅の三十年昔にもどり、話のつきぬたのしいひとときを過ごしました。長く途絶えていましたので、つぎは来春一月十九日(土)に同窓会を開こうと申し合わせをしました。是非誘いあつて御参加下さい。(大川 記)

合も果たして参加できるかどうか。とです。経大のスポーツ各部も大いに頑張つて、各種目に優勝して下さい。

古閑 敬一郎 (20)

経大を卒業して早や三十年近くにもなり、小生も齢五十に到達すると思ひますと、感無量です。振り返つてみますと、短くして永かった。何か意味のわからない口上ですが、そんな実感が起こります。「人生七転八起」といわれますが、やはり最後には勝利をつかみたいものです。小生もラグビー部に籍をおいていましたが、スポーツでもなんでもそうですが、優勝することが第一です。二位三位ではだめで、一位になるこ

徳岡 深 (21)

野球部の関六入り心より拍手をお送りします。小生も十数年間、高校野球の監督を務めました(広島カープで目下売り出し中の山根投手は教子です)が、昨年より現任校へ転じ、野球生活から足を洗いました。是非リーグ戦を観戦したいと今から楽しみにしています。昨年、岡山支部総会で藤田先生の講演を拝聴しました。国際的視野に立つ人間の育成を念じておられましたが、全く同感です。大学の総合化特色化の第一歩として国際関連学部の設置を熱望します。

前田 正 (23)

卒業以来二十数年間、関谷産業株式会社トーマンと終始一貫商社勤務でしたが、昨年(昭五十四年四月)はじめて航空電子(部品メーカー)へ転職し、はりきつております。本年、六月には新しい就職先のアメリカの子会社(ロサンゼルス近郊)勤務となり、当分、アメリカ生活が続きそうです。

今川 恵正 (24)

毎年「澁江」の発行が待ち遠しく楽しく拝見しております。三号に一

奥 敏之 (25)

度のせてもらい、今回も無作為抽出とのことですが、また幸運にも依頼があり、以前の時よりかわつておりますので返事をいたしました。以前勤めておりました会社は、昭和四十二年に倒産をし、すぐその年に繊維製品卸商社の丸手商事(株)に勤務し、現在に至っております。その後、後輩二人も入社し、現在、同窓生三人となり、大経大トリオでがんばつて居ります。卒業以来、上阪の機会がなく、恩師、友達にもお会いすることもできず、一部の方との年賀状の交換は現在でもありますが、疎遠になつて居りますので、また「澁江」を見られ、思い出していただけたらと思ひ筆をとつた次第です。今後とも母校および同窓会の繁栄と「澁江」のますますのご発展をお祈り致しております。

五十二年一月より(株)需要開発研究所の設立に参加し、ようやく三年が経過、企業基盤も固まつてまいりました。今の仕事は、経営コンサルタントと、広い意味でのマーケティング業務です。年二冊ぐらいの割合で企業向けの書籍出版も行つています。

北から南が

田 測 正 (28)
昭和三十七年卒業以来十八年すぎました。早いものだと思つて学生時代を思い出しております。現在、鹿児島県教育庁総務課に勤務中。母校運動部の活躍を新聞で読むと理由なしにつれしく、力強く思ひます。後輩諸君の活躍を期待します。「澁江」が送られてくるたびに、なつかしく、うれしく拝見しております。同窓会事務局の皆様のご苦勞に感謝いたします。

最後に、母校の一層の発展を心からお祈りします。

水本 喜久雄 (29)

同窓の皆様お元気で活躍のことと思ひます。卒業後十七年が過ぎ、名古屋、札幌支店を経て、現在、福岡支店に在勤して長崎県を担当しております。北九州支部の総会で山岳部の清水先輩、鎌田氏にお会いし学生時代の

山口 龍一 (29)

山仲間の話でにぎやかでした。母校の発展と同窓生のみなさんのご多幸をお祈りいたします。心のボタンをはずして、素顔のままで、笑う、飲む、食べる...時を忘れて、快い音楽を感じながら、くつろぎ、遊び、新しいあなたの世界がはじまる。こころがスイングしてくる。いい友と、いい酒と、いい音楽...ハイネケン! これがこの店のキャッチフレーズ。ラウンジ「ハイネケン」はこのほど、赤を基調にした豪華な装飾に衣がえした。ゆったりとしたイスやテーブル、ナマ演奏、ジョッキ・カールのほどよいあしらいといひ、サービス満点だ。料理はすべて洋食、なかでもミニステーキ1300円がとくに好評で、やわらかく、とろつとした舌ざわりは、ウイスキーの香り高さとはよくマッチして、実に美味。プロセット1000円はパーベキュー風の串焼きで、ボリュームたっぷり。季節を盛り込んだハイネケン

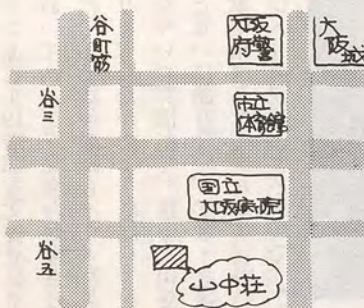
集會に毎日出かけ青春の血をたぎらせていました。現在は、年中無休で連日連夜仕事に取り組んでいます。新しいシステムが軌道に乗つた時は疲れも吹っ飛びます。このフアイトこそ経大生の伝統だと信じます。同じ下宿にいた友人達とは年賀状だけの連絡ですが、二十年目には経大で顔を合わせたかと思つています。皆様の活躍を期待します。

都心を見おろす高台に静かにたつ、その風格からしてまさに豪華な割烹旅館そのものである。大阪城にほど近く、戦前、世界に勇名をとどろかせた美術商、山中商会の自宅であっただけに、百余年の歴史のばせるその屋敷は、いまだその風情おとろえず、庭園の眺め、調度品、美術品の数々は由緒あるものばかりだ。

山中荘

同窓生のお店拝見

山中 良夫(19)

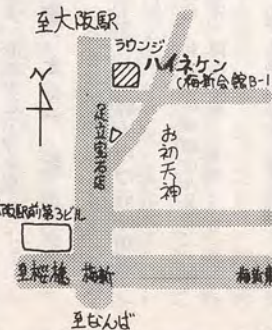


だが当主の方針が「高級料理の大衆化」ということで、格式ばらずにアットホームなふん開きを心がけており、なじみ客には、自分の家と同じよつとくつろげる、と喜ばれている。家族連れや同窓会、奥様方の趣味の会などにも手ごろな会場である。料理は本格的な味の会席料理と、心づくしのなべ料理が用意されており、会席料理4000円、6000円、8000円、なべ料理3000円、5000円、6000円。宴会、接待、結婚式、会合などには舞台つきの大広間や、中広間、さらに10畳以上の部屋が10室あり、ゆつたりとした気分をくつろげる。飲食だけでなく、旅の宿としてもひととき心をなごませる風趣があり、1泊朝食つきで4000円と、ホテルなどに泊るよりはるかに安い。お泊まりは純日本風の小部屋が20室。大阪市東区久宝寺町2-18 電話06-762-1741

ハイネケン

同窓生のお店拝見

北川 勇(27)



風サラダ800円もまた格別の味で、これは同店のオリジナル品。飲みものは、ハイネケンビール500円、ポトルはもつた新装を記念して3800円(通常4800円)の原価奉仕中だ。このほか予算に応じて各種パーティー(10、100人、1人2500円から)も受けている。営業時間は午後5時~午後11時30分、年中無休。大阪市北区曾根崎2-7-2 電話06-315-7193

去る五月二十四日(夕刻)、阪急グランドビル19階都市文化センターにおいてユニークな会合が催されました。三十数年前にもどり、若さをとりもどしたかのようにしゃやき、はなやいだ雰囲気、迷(?)司会のもと互いに語り合い、学歌・道通歌の歌唱指導あり、ソロあり、或いはとび入り演説(?)などありで、なごや



12~15回生合同同窓会

余韻たなびく…ユニークな会合

毎年とまではまいりませんが、二三年前に一度は開催したいと考えておりますので、次回には今回参加されなかった多くの方々のご出席を得て、より盛大な会に発展させたいと念じております。

ちなみに出席者は左の通りです。

(敬称略順不同)

かな一刻を持ったのであります。称して、12~15回合同同窓会。過去に一度、13~16回合同同窓会が行われましたが、今回は会の運営がうまく行ったのか(多分迷?)司会の熱演に上るものと思えますが、過去にも増して、いつまでも余韻の残る楽しい会となりました。

- 12回 小豆沢保夫・阪上勤ノ介・玉岡浩・中北肇・百野操
 - 13回 阿部淑子・岩竹茂子・大城戸武子・坂中良・土井和賀子・前田房子・和田澤・前田悦子・山崎和興村美智子・能口左和子・西田法子・村田八千子
 - 14回 宇田久美子・岡田麗子・大塚園子・黒瀬貴多子・梶本京子・小坂昭子・柴田悦子・鷹野静子・筒井トシ子・本間洋子・楠生美佐思・井口松子・両角愛子・小松真佐江・鷹野千代子・上野満里子・渡部孝子・野島ツル子・藤本和喜子・岡田庸子
 - 15回 朝比奈茂夫・伊藤義春・小川敏夫・合田昭三・松川圭一・松岡邦典・田中博見・酒井亮介・岩田録四郎・志方一夫・片山俊男・桶谷英夫・黒田稔
- なお、誌面をお借りして申し訳ありませんが、名簿に住所不明の方がおりますので、ご存知の方は同窓会事務局にご連絡下さい。(12~15回合同同窓会事務局|黒田 稔)

北から南が

わりに少ないと思いますが、深刻とまではいかない生徒指導での悩みは毎日のようにあります。

岩田 俊 男 (33)

昭和四十二年三月卒業以来、十三年間、武生市に住みつき、現在に至っています。毎年同窓会の案内状はいただきますが、いまだに一度も出席することができず残念です。しかし、福井県支部の会合には参加し、先輩、後輩の方々と語り、また、なつかしい学歌、道通歌を腹の底から歌っております。

今年には先日の新聞等で報じられていたように、野球部の関西六大学入りと、まことにわれわれ地方の卒業生にとり、経大の名声がひびきわたったことを大へんうれしく思っております。

また、私在学习中に名前だけだったヨット部の活動はかながなものでしょうか。ヨット部の創立に青春の情熱をかたむけられた同級の阪井君、また藤友会の人々の現在のご様子などをお待ちしております。

江 龍 愈 (33)

小生、経大を卒業して早くも十三年たちました。皆様にはお変わりございませんか。今から思えば、在

学中は勉強もしないで、柔道ばかりやっております。よく卒業できたものだと自分ながら感心しております。でも、なつかしく思います。

現在は、十年にして、土地を購入、家も建てました。男一びき、自分ながらよく建てたと満足しております。

子供も三人、一姫二太郎とよくできました。また、二太郎の方は、二卵性双生児で現在二歳六カ月と、今が一番にぎやかで大変です。これからはがんばって仕事と家庭を両立させてゆきます。

皆様によりしくお伝え下さい。特に、稲原教授によりしく。

桑 田 学 (33)

大阪地区担当から四国地区の担当となつてより三年半、都会より地方へと公私ともに環境の変化にもなれ、緑に恵まれた生活を楽しんでおります。

高松におりますと同窓会とは縁が遠くなり、四国地区(香川)での同窓会も不明であり、地方の分会なり、連絡先を「激江」に掲載してほしい。わが社に同期入社のもは名古屋におり(石田氏)、大阪在住の友人、新谷、黒田、坂西の三氏は卒業年数は違いますが脱サラをして、友人での会社員は私一人となり、仕事の時間帯がまったく違い、帰阪してもなかなか

工藤(南沢)信広 (29)

小生、本年四月に転勤するまで丸子実業高校で野球部長をやっていた関係もあり、母校の野球部の活躍には、人一倍心をよせておりましたが、今度はまち遠しかった関六入りをはたしていただき、関係者の皆さんに敬意を表します。経大のイメージアップのために大いに頑張つて下さるよう祈っております。

商売柄、受験雑誌をめぐるたびに母校の活字をさがしますが、時折、あるべき欄からはずれていることがあり残念に思います。学内の充実もさることながら広報の方もはりきっていただきたいと思っております。

当方の地方紙に過日「全国大学の浪人入学者ベストテン」が報道されていましたが、わが経大は第十位でした。また、今年の入学志願者は昨年よりかなり減少しているなど、いかに解釈すべきことなのでしょう。とにかく魅力ある学園づくりのために同窓会としても学生のクラブ、たとえば、吹奏楽団などを各地方に招いてPRするとか、なにか尽力しなければならぬと思います。野球部の関六入りを機に、大いに経大が浮揚するよう英知をしばつていただきたくお願い致します。

上野 陽 一 (30)

卒業して十六年、子供も長女が小

全員が集まったの再会は難しくなりました。

福 沢 正 昌 (33)

昔なつかしい同窓のみなきまご健勝のことと存じます。卒業後、十三年たち、まだその後、一度も学舎に出かけず、なつかしくてたまりません。

私の場合、転勤がたびたびあり、西から東へ、東から西へと変わります。第三十三回卒の方には、特に、十年来音信不通にて、若干さみしい感がいたします。ぜひ、この便りを機にご連絡をお待ちしております。

私も、子供二人(小五・小二)だんだんと自分の道を歩みかけておりますし、同じ年頃の子供をもつ父親という立場で気楽に慰めあいたいものです。みなさんのご活躍、ご多幸をお祈りいたします。

池 田 正 勝 (34)

経大の皆さん、お元気ですか。北海道に来ては十年経過しました。目下、障害児教育、文字通り生涯教育に取り組んでいます。

十勝の廃校舎を利用し、ミニ動物園の園長として、ヤギ、羊、ウサギ、アイヌ犬、コリー犬、ギニヤビックなどとの共同生活。今夏から障害者

学五年になりました。母校で学んだ頃のこと非常になつかしいです。小生の勤務先に三十六回生の荒田淳一氏も勤務され、頑張っておられ時々当時のことを話し合っております。

私ことですが、卒業と同時にDo. Brumenというグループをつくり、家族ぐるみの交流会を年一回実施しています。

最後に、母校のますますのご発展を祈っております。

岡 本 一 弥 (30)

いつもお世話になります。今後ともよろしく経大のために頑張つて下さい。

田 中 一 彦 (31)

卒業して十五年になり、子供も少し大きくなってくると自分の過去を振り返ってみる気持ちになり、若い時、四年間通った学校が大阪にあるんだと思ったり、卒業式での誰かの挨拶で、卒業証書はしまっておくばかりでなく、時々出して見ると力がわいてくる、という内容の話を聞きましたが、実際に出して見ると勇氣まではいかなくても、一時的にですが当時(卒業した若い日)にかえって考えることが出来るように感じます。教員をしていると深刻な悩みは

との共同生活開始です。宿泊場所(ゲストハウス)もあり、一度これ、ともに汗を流しましう。

石 川 勝 径 (34)

月日の過ぎるのは早いもので、大学を卒業して今年で十三年目を迎えている。考えてみれば、これまでの学校教育のうちで経大ほど長期間お世話になったところはない。すなわち、学部で四年間、大学院で八年間もお世話になった。さらに、昨年の四月からは、兼任講師として週二時間母校の教壇に立たせていただいている。私の人生観・社会観はこの十二年間に及ぶ経大時代に確立されたといっても過言ではない。

経大も、最近、教学面、施設面で一段と充実を遂げ、社会的にも、一定の評価を受けるにいたっている。しかし、高等教育の多様化と激動の中で、極めて困難な状況にあることも事実であり、三十年後、五十年後の「経大のあるべき姿」を確立し、その目標に向かって全大生が一体となって邁進しなければならぬ時期にあるといえよう。幸い、そうした機関が最近設置されたと聞く。

経大を卒業した一員として、わが母校が昨年よりも今年、今年よりも来年とあらゆる面において進歩、発展していくことを念願して最後の言

一階はカウンターと小座敷、二階は宴会用の座敷でカラオケも用意している。家族連れや、ちょっとした接待に利用するなら一階が手軽だ。

おすすめ料理は、よせなべ1500円、かしわちりなべ1500円、かにちりなべ1800円、肉すき2000円。

若い人には、しゃぶしゃぶ用の肉や豚ちり用の豚、かしわ、えび、かまぼこ、うどん、野菜、貝類を使ったポリネーム満点の「宝なべ」をお薦め。

電話 06-211-2093

大阪市南区難波新地2-4

休日 第3日曜日

営業時間 午後4時～午後11時

同窓生のお店拜見 **多可ら亭**
近藤健二 (32)

福元 正典 (34)

卒業してもはや十三年目、勤務校も三校目の姫路市立大白書中学校社会科教師として教育にいそしむ毎日です。

最近教育の荒廃、中学生の非行と世間で騒がれていますが、現在の勤務校ではこのようなことは無縁といえる状況であり、教科指導のみならず部活動(バスケット部、昭和五十二年全国大会近畿代表として出場ベストA)の指導にと、真の中学校教育を目指し多忙な毎日を通(こ)してまいります。

また、子の親となつてさらに成人した教え子達との会話をしながら教育の深淵さを今さらながら気づかされ、より立派な教育者を目指すべきうこのごろです。

小林(住中)多嘉子 (36)

同窓生の皆様にはお変わりなく各分野でご活躍のことと思います。編集部よりの、おはがきを前に、さて、卒業して何年たつかしら?と数え、十年経つて何年たつかしら?と数え、「えっ? もうっ?」というの、いつわらざる本心です。子育ての忙しさも、下の娘が今春より幼稚園で、一段落し、スポーツだめ、家事一切苦手というわけで、今までよりたんねんに新聞に目を通

村岡 正次 (37)

母校経大の関六入りに双手を挙げて喜んでおります。

小生、昭和四十六年に学窓を巣立って以来、大阪六年、東京四年とはや十年を経過し、学園を巡る日々の生活に楽しくも懐かしく思いをはせながら筆を取っております。

旅研、池内ゼミ、学生寮の諸兄にはお元気でご活躍のこと存じます。当方、至極当然のことながら公私とも一層前向きに励んでおりますのでご安心下さい。また、上京以来、支部同窓会には顔をだし、逍遙歌を口ずさむのを、楽しみにしております。当社にも数人のOBが在勤しております。心強く感じておりますが、ここ数年、新人の顔をみないのは残念であります。

最後に、母校のなご一層の発展と同窓各位のご健勝をお祈り致します。

北から南が

大石 顕生 (34)

永年やってきた商業写真の営業から、現在、管理課で人事労務と経営管理を担当しています。コンピュータを駆使し、対コタク資本との闘いにあけられている毎日です。学生時代には、日本企業が米国巨大資本と対等で過酷な競争をしていると思えませんでした。いざ自分が

その渦中に入ってみると、日本経済の実力向上こそが武器であると思えるのです。

東京からも離れてしまったので同窓会に出席する機会もなくなり、送られてくる「澱江」だけが唯一のパイプです。「交通通」ゼミの稲原先生お元気ででしょうか。剣道部の下村忠生、飯田一世司、斉田弘、西村、皆元気か。皆で卓を囲んだことが懐かしく思い出されます。

北から南が

村上 幸利 (37)

卒業して九年余り過ぎた昨今、「澱江」の配布を心待ちにしている一人としてペンをとらせていただきます。

私は、昨年まで、神戸に本社のある住設機器のメーカーで営業を八年間経験してきたが、昨年、家庭事情で故郷(淡路島)に戻り、現在、農業と会社勤めの二足のワラジをはいている。わが社では、新規部門として、建築に関連した防水工事を設置し、その営業でゼネコン中心に開拓に明け暮れ、やっと現在では軌道に乗りつつある状態になった。

町に在る時は、学生時代のことなども振り返り、学問のこと、友人のことなど思い浮かぶが、今に至っては日々これ仕事に忙殺されて、歩いてきた道程を思いうかべることも少なくなつていた。しかし、きょうは、のんびりと近況をしたためていると、走馬灯のように、経大時代の四年間のことがうかんで過ぎてゆく。

また、新聞や澱江などで母校の活躍ぶりを目にすると、非常に誇らしく思い、心がはずんでくる。今後とも経大のますますの発展と出身者の活躍とご多幸を祈ります。藤原ゼミのみんな元氣か!

北から南が

「東京昭八会」は昭和商第八回卒業の東京在住者の年一回の例会で、現在十七名同期生が毎年正月吉日に催す「痛飲会」です。万障繰り合わせの上、殆んどの方が元氣な顔を見

昭八会 〽️ ああ堂々の…痛飲会〽️

一員一再就職・転勤とと辿ったコース。環境はそれぞれ異なりますが、大変ご苦労されたことと思ひます。私もお陰様で、本年三月末をもって三十余年勤務した神鋼商事(株)

実 森 清二郎 (37)

卒業して十年近く、いまだに学生気分が気持ちのどこかに残っている。地元大阪で生活しているからなおさらなのかもしれない。

母校、大阪経済大学は私の中の幾分の一として生き続けるものと思つ、今後二十年、三十年、常に私に対して呼びかけてくれるいきいきとした存在であつてほしい。

母校および同窓会の一層の発展をお祈り致します。

安田 信義 (38)

日一日と夏に向かうむし暑い日々が続いておりますが、いかがお過ごしを停年退職いたし、ようやく東京に落ち着くことが出来ました。在勤中は九回も各地区を転動したため、意外の疎遠に打ち過ぎ大変失礼をいたしました。現在、左記会社に余生を託しております。ご上京の節はぜひお立ち寄り下さい。母校ならびに同窓会、同期生の皆様の益々のご発展とご健勝を心からお祈りします。(岡田 清)

入江 英範 (39)

卒業後、はや七年。思い出されるのは友人のことばかり。みな、よき妻、よき子供に恵まれ、幸せな日々を送っていることと思ひます。

北海道のK・I君、博多のM・I君、熊本のK・N君、金沢のH・M君、私は卒業以来、今の会社(現在岩国支店)でがんばつております。何かと忙しい昨今ですが、あの時いただいた夢に向かってそれぞればく進しようではありませんか。

小林 利雄 (39)

去年五月に男子が誕生し、今年九月の末に子供が生まれようとしている。結婚して四年目、これからが大変だ。

子供が大好きだ。けれど子育て、教育、将来、ということを考えて、楽しみではあるが、頭の痛いのが本音である。自分が、子供のときを思い出しながら、ああではいけないからこうしてやろう、あれは自分にとってよかつたから、こうしてやろう、と思う。でも反面、自然に育つてほしいとも思う。

太田 俊博 (39)

梅池経大小屋は大切に利用したいものです。

澤谷 敏行 (39) 卒業後満七年、友人に出会うと手がみんななくましく感じるこの頃です。私自身、卒業後も大学に勤めているためか、少しも進歩していないように感じます。大学時代、思いもよらなかつた職員の方々の苦勞が今、自分自身のものとしてよくわかります。七年もたつて大学の方もすっかり変わったことだろうと思いますが、

私自身の心の中にある大経大は少しも変わっていません。同窓の杉本、杉野、菅野、斎藤、雑賀、笹田、岡内、大西、元気でやっているか。僕も何とか元気で頑張っているぜ！この夏、学生時代に行った北海道へ再びサイクリングで行く予定です。

津田 浩志 (39)

①元気で日々頑張っております。会社の方も結構忙しく一年、一年が光陰矢の如しの感です。一方、体力の維持と趣味を兼ねて暇をみては登山にも出ています。

②同窓会総会、支部総会、ゼミOB

シーズン半ば過ぎですが、カーブは二位ヤクルトにニケタのゲーム差で首位を独走しており、セントラルV3は間違いないこと、日本一、V2に挑戦することとなるでしょう。



広島東洋カープに思う

要因は何か。いろいろあると思います。私が、考えますに、個々の選手そのものは、それほど力量の差はありません。要は古葉監督以下の各選手がプロ意識に徹し、チームプレーに全力を傾注した次第です。

会、澱江での交流、それ以外の場③会社には二十二回卒の松原健氏(購買部長)、三十六回卒の片山喜弘氏(経理課長)が健在です。同窓の友人はすべて結婚。特に、新婚の大場、横川の両君おめでとう。お幸せに……。

④念願の関西六大学入り、誠にめでとつ。現メンバー、OB、それに関係者にしか判らぬなみなみならぬ努力の結果と思います。歴代の先輩が泥にまみれて目指した関六入り。絶対に攻めて、そして守れ。この苦しみの上で得た位置を(野球は良く判らぬが、オールドスポーツマンとしての感)

末筆ながら何かとお世話様です。

チームワークの良さによるものと考えられます。そこで申し上げたいことは、今度、関六入した大経大野球部のこととです。個々の選手の技量云々を超越し、広島カープにあやかつて

全員野球に徹していけば、必ず道は開けるものと信じます。この稿が出版される時は、既に秋のリーグ戦は終わろうとしているものと思われませんが、あえて申しあげる次第です。(佐々木一義)

生したり、コンクールに入賞したりと、やりがいを感じることも多くありました。サイドビジネスのつもりで始めた仕事ですが、今では、主婦業の方がサイドビジネスになってしまいい、主人には心の中で「ゴメンナサイ」と言いながら、口をついて出る言葉は「ちよつと翔んでる奥さん、ナウいじゃ〜ん!!」。幸い理解のある主人ですので、今後も、転勤の先々で仕事を続けて頑張るつもりです。最後に母校の発展と同窓の皆様のお

ご健闘をお祈り致します。

紙屋 昭 (40)

皆様いかがお過ごしでしょうか。私、昭和四十九年三月に卒業し、同時に現在の会社に就職し、茨城県の水戸市に転勤となり、もう当地に来て五年になります。私と同じ会社には、岡林正博君が

営業時間 午後5時~午後11時
休 日 土・日・祭日
大阪市北区曽根崎新地1-6-22
新八千代会館2F

シャトー

北新地に進出して18年。広いカウンターの中には優秀なバーテンダー、宝塚OBと、若いホステスが楽しませてくれる明るい話題、すばらしいノド。そこへ絵画と魚釣りが大好きなマネージャーが一枚加わって、あつたかいふん開業。店のモットーは、良心的な営業。ふところ具合に応じて手こころを加えてくれるので、土曜日などクラス会、グループ会に利用するのも一手だ。

同窓生のお店拜見 つくしんぼ

北村 恵美子(13)

営業時間 午後6時~午前12時
休 日 日・祭日
大阪市北区堂島1-2-27 ロイヤルビル2F
電話06-345-5363

おり、仙台市に住んでおります。卒業してから月日がたつのは早いもので、私も愛妻と、子供二人に恵まれ、毎日忙しく暮らしております。去年の夏には、大阪から乾憲嗣君、岡山から市川康郎君が来てくれました。その乾君もこの三月に結婚し、ひさびさに大阪で会うことができました。電話番号を書いておきます。ご連絡下さい。

赤木 祥二 (41)

五十年三月、学生生活最後の休みをイギリス・ホーム・ステイから帰るや、待っていたのは自宅待機の通知。そんなバカな、と思うものの、のんきに構えて二カ月。六月にやつと任地決定。九州の中心、福岡へ三年。とつてもいい所でした。二年前より希望どおり大阪へもどる。戦後生まれのわが社では、すでに中堅社員と呼ばれる身。ベテラン社員と新人にはさまれる今、改めて、初心にもどつて頑張ろうと思うこのごろです。

岩佐(福永)二三 (41)

卒業してはや五年。時のたつのがまるで夢のように思われます。今では一歳の子供を保育所に預けて経済

学とはまったく関係のない病院での仕事に精を出しています。毎日の生活に追われて振りかえる余裕もなく時が過ぎてしまいました。が、平凡な主婦となつた今も経大での充実した学生生活が本心に懐かしく思い出されます。育児と、仕事と、家事をすべてこなすのはとても大変ですが、常に経大時代を勇気の原動力としてファイトで乗り切っています。

百瀬 清 (41)

早いもので、卒業して長野県へ戻り、五年が過ぎました。この間、人事異動により、長野市から諏訪市へと勤務地が移つたほかは、あまり変化もなく、県職員としての毎日を送っています。長野県には経大出身者は数えるほどしかいないため、大学とのつながりは、お送りいただく「澱江」だけになっており、心さみしく思っています。

最後に、母校の今後ますますの発展と、「澱江」の発展をお祈り致します。

石本美由起作詞、三界稔作曲のワルツ「南国情話」――岬の風に泣いて散る 浜木綿悲恋の花 さつま娘は長崎鼻の……と、観光バスガイドさんの口から唄がながれ、「はい、一緒に……」といわれる。

この歌は北海道の「知床旅情」に對抗してか、鹿児島を県外の旅行者に宣伝しようとする一策であるかのように受け取れる。そして、これは鹿児島が、いま過去の農業県から観光県へと転換しようとする一つの現れであるといえよう。

鹿児島といえは「西郷どん」がまず、浮かびあがってくる。また、男尊女卑（今はそうでもないが……）の代表的な国柄であるという印象もある。男っぽい情熱と、碧い海。桜島は今なお鹿児島男児の心意気を現わすように噴煙をあげている。

台風銀座といわれる串木野、坊の津、枕崎の魚くさい港町は、われわれの台所においしい魚を、また、名物の薩摩あげを送り込んでくれている。

薩摩半島をぐるっと回れば、東支那海と太平洋の中に突き出た緑の葉一枚とてない木がヒョロヒョロと数本立っていて、何か妖気をただよわ

せている長崎鼻に出る。鹿児島観光には欠かせない名所である。

これに反し、目を転じ、夕日に映える薩摩富士、開聞岳は表現しがたい一幅の名画である。その麓には、大うなぎのいる池田湖、新婚記念植物園があり、そしてまた、日本のナポリと呼ばれる指宿温泉がある。鹿児島観光はなんといっても桜島と指宿温泉によって代表されるであろう。指宿の砂風呂、ジャングル風呂はあまりにも有名である。

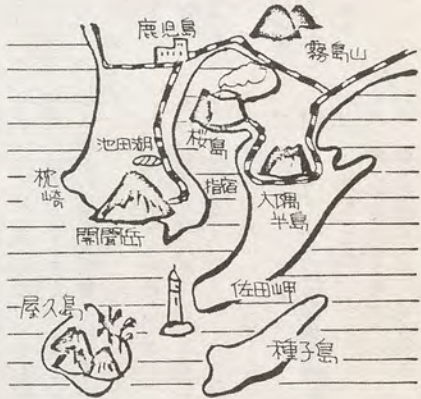
山川町から大根占町へフェリーで……。この展望も捨てがたい。大根占からの果てといわれる平家の落人の村を車窓にみながら、七曲りを振り子のようにぐるりぐるりと回り、北緯三一度線を越え、本州最南端佐多岬の木柱までの旅もまた、捨てがたく、一興であろう。

佐多岬灯台を後にして、神風特攻隊戦没者慰霊塔に詣でるのは年代の差であろうが、佐多街道を北上し、海湯温泉、桜島温泉を経て荒涼とした熔岩道路を走り抜け、桜島大根を持つての撮影、噴煙を背景に……と、旅行者の記念写真には題材にこと欠くことはない。

二年輩の人々には懐かしいふるさ

日本のナポリ・鹿児島

西郷どんの国から、案内



入ったラーメン屋「こむらさき」も名物にあげられるでしょう。

ホテルは「サンロイヤル」（ロック・オリオンズのキャンプホテル）、「城山観光ホテル」をはじめ「林田ホテル」、その他ビジネスホテルはもちろん、日本宿希望の方には、まだ鹿児島にはたくさん残っているのをご安心ください。

お土産はなんといっても焼酎です。甘いものではかるかん、文旦漬でしょう。

年代の差によって、どのようにでも楽しめる鹿児島は、日本のナポリといえるでしょう。

ぜひ一度、お出かけください。その節は左記へご連絡下さい。支部長 宮田順一郎

前蘭博隆

田 淵 章 人 (41) 卒業して早くも五年目。小生は、神話と民話の故郷、因幡・伯耆・出雲などにエリアをおく放送局のテレビ局員です。

仕事が時間に追われるので、仕事が終わって、学生時代の友人と会うのが何よりの楽しみ。小生にとって仕事は幹、遊びの時間は枝葉かな。幹を太くするためにも、枝葉を多くと思つて、テニス、レコード、ゴルフなどいろいろ趣味を広げています。時間と空間の演出の中で、最後がピシッと決まると、シテやったりノそんな自分のノリ方がスタッフと持ちあえる時つて最高です……。

学友の皆様、ご遊来の折はぜひご一報下さい。最後に、母校と同窓会のみますますのご発展をお祈りします。

佐々木 幹 夫 (42)

社会へ出て五年目、常に一年生の気持ちで、新しいものをより多く吸収することを心がけています。

現在、得意先係として外へ出ていますが、顧客の種々雑多な要請、または、相談に対し、なかなか適切な答えを出せず、自分なりに毎日悩んでいる状態です。

経大の各クラブの演奏会や練習試合をできるだけ福井で催していただきたい。同窓生としてできる限り協力したいと思ひます。

森 本 千 春 (43)

家業の自販車店を営んでおります。昨年、二回、町内の三人と集まる機会があり、思ひ出話と酒を楽しみました。

中北範弘さん(42) 阿見町役場はよくジョギングしております。安藤健司君(45) 安藤繊維(自営)で元気いっぱい。稲葉由佳利さん(46) 本年、ミドリ電化に就職。

もし、先輩の方で近くにみえましたらお知らせください。坂本好弘君(43)は、隣町(磯部町)役場に勤務しております。

金 澤 裕 生 (44)

就職してはや二年が過ぎ、預金係、貸付係とひととりの内部事務をし、この五月からは得意先係として毎日、東奔西走、忙しい日を送っております。

幅広い顧客との対人関係の難しさ、経済大学の出身であるにもかかわらず経済知識の未熟さを痛切に感じる次第であります。あの講義も、この講義も、しっかりと受講しておけばよかったのに、後悔先に立たず。現実を直視し、一日一日充実した日を送ることをモットーにしています。

最後に、在校生にお願いです。学業、部活動などにおいて、個性あふれるエキスパートになってもらいたい。持ち前の根性で、社会へ出たら、自分の道をつきすすんでほしい。簡単に職を変わることなく、自分で決めた仕事を全うしてほしいと思ひます。

蘭 一 幸 (42)

卒業後、警察官になり五年目を迎えました。今年の三月まで機動隊に勤務していましたが、現在は、伊万里警察署の外勤課に勤務しております。

結婚もできず、学生時代同様、ワイ／＼ガヤ／＼と生活しています。

卒業以来、一度も上販したことがなく、ゼミの人達とも、柔道部のものとも、また、行実マンションの元住人達とも旧交をかわすことなく田舎に引っ込んでいますが、ぜひ上販してなつかしの学舎を訪れたいと思つています。

こちらでは、経大という大学名を知っている人は極めて少なく、商大と間違えられます(スポーツで有名だからと思ひますが)。ぜひ、経大の名をこちらの方まで轟かせるよう後輩の諸君に頑張つてほしいと思ひます。

安 達 伸 一 郎 (44)

個人経営の繊維関係の会社に勤務。まったく考えていなかった業種ではあるが、地元を中心産業の一つでもあり、また、広い範囲にわたって責任をもたされているためか、変化があり、毎日、毎日が充実している。就職試験(地銀)には失敗したものの、現在では、かえってよかつたと思つ。

卒業以来、まったく会う機会がないので、何か機会があれば近況も知りたいし、また、情報交換などもできればと思つ。

中 島 尚 志 (45)

ただ今、池田銀行の事務部に在籍しています。自分でも不思議なのですが、コンピュータープログラマーとなつてはやくも一年が過ぎました。

なにぶん、はじめてのことなので勉強中の頃は胃の痛くなるような思ひもしましたが、今では、意外と自分にあつているような気がしています。同窓会に対して特に希望することはありませんが、せめて同じ大学の卒業生同士、少しでも助け合えたらと思ひますので、同窓生の情報を今後とも知らせてもらいたいと思ひます。

学 歌

作詞 秋本吉郎
作曲 柴田南雄

1. 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が沁みる
この若さ
希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

2. 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に
確かと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学 園 歌

作詞 黒正 巖
作曲 水野康孝

1. 商都の東北灘江に 臨みて高く聳り立つ
我等が昭和学園は 産業日本を双肩に
担うて進む若人の 力の糧の広野原

3. 黒煙天をひた蔽ひ 船車どよもす八衝を
静かに臨む学園は 科学日本の究明に
生命を注ぐ若人の 心の花の咲く園生

逍 遥 歌

作詞 中村行男
作曲 松川圭一

1. 此処 城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2. 水や濁れる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わるまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が青春を

澁 江 1980

- 発行日 昭和55年9月30日
- 編 集 澁江特別編集委員会
- 発行所 大阪経済大学同窓会
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話 (06)328-2431~3
- 印 刷 共成社印刷株式会社
〒530 大阪市北区中崎西2-6-17
電話 (06)371-0254

北から南が

木下雅弘 (45)
私も卒業してはや二年目に入りました。月日の早さを知らされる思いがいたします。
とかく同窓会というものには縁がなく、出席する機会が少ないのですが、先日、クラブで親しく知り合った仲間同士の会合に出席いたしました。旧交を温め合いました。私は地元で就職し、大阪へ出る機会が少なくなりました。わが大学の最近の活躍は(野球部その他)OBとして誇らしく思えます。さらに一段の飛躍を期待いたします。

五十嵐 秀 樹 (46)

谷口善昭 (46)
神戸から大宮に来てはや三カ月たちました。最初は何といたっても関東弁というやつにとまどいましたが、私は相変わらず関西弁で通っています。
わが社には経大出身者が多く、関東にも何人か出て来ていると思えます。会社は違うのですが、同じクラスの友人が東京にいるため、時々会っています。
関東一円で経大の同窓会が開かれれば...と思います。

編集室

『澁江』投稿の目やす

- ① 原稿は原稿用紙(20×20字詰め)に楷書でたて書きのこと。
- ② 原稿は原則として次の範囲内を目やすとする。
小論文 10枚
ゼミ短信 2枚
同期会だより 2枚
支部だより 2枚
紀行文 4枚
随想・その他 4枚
味の散歩道 (イラスト・写真共) 1枚
- ③ 投稿文には必ず、写真を添付すること。投稿者のスナップ、または記事に関係したスナップ写真、あるいはイラストなど。
- ④ 送付先 同窓会事務局
締切り 六月末日
- ⑤ なお都合で次年度に繰越す場合もありますが、その時は事務局よりご連絡いたします。ご了承下さい。
- ⑥

○ 昨年はじめて、澁江特別編集委員会が発足して以来、たびたびの協議を重ね、やっとB5版の澁江をお届けする運びとなりました。
○ 十五年も長い間、手作りの澁江をお届け下さいました松本義和氏に、あらためて厚くお礼を申し上げます。より読みやすい、親しみやすい澁江を作るため努力して参りたいと思います。今後ともよろしくご指導下さいませよう。
○ シリーズ「味の散歩道」を企画しました。このシリーズは各地で同窓生が経営している飲食・旅館などを紹介して行く欄です。自せん・他せんいずれでも結構。「投稿の目やす」の要領でご投稿下さい。みんなで出かけて行って楽しみましょう。お安くして下さいね。
○ 今年度の『澁江』送料予算を二通六十円(定形)から百二十円(書籍小包)に組込んだところ、突如、十月一日から郵便料金値上げの動き。当初予算より百六十万円の負担増。そこで急提手順繰り上げ、印刷屋さんには徹夜で頑張り委員も連休上で四苦八苦。やっと九月中旬にお届けすることが出来ました。
○ なお、新『澁江』について感想なり、ご批判をお聞かせ下さい。
澁江特別編集委員会

經